



## 祈り続けなさい

神戸大石教会

八幡 輝生

すべての聖徒のために祈りつづけなさい。

エペソ6章18節

私たちの子どもたち3人は、大阪の堺市にいた頃、家から1キロほど離れたところにある教会付属の幼稚園に通いました。園長以下教諭のみなさんは、園児が登園する前に集まり、打ち合わせだけでなく、祈りをもって働きを始めておられました。奉仕する者、働きに当たる者が、すべてに優先して祈りをもつとしたら、どのような結果が期待できるでしょうか。子の幼き日のことを思い起こすことに、当時、園で奉職しておられた先生方がことがまぶたに浮かんでくるのです。さて、教会学校教師も祈るための集まりをもっておられるでしょうか。

幼少期の子どもたちは、模倣性の豊かな時代だと言われています。その子たちは、教えからではなく、形から入っていくのです。祈りもその一つではないでしょうか。食事のときや寝る前の祈りは、母親を通して自然に自らのものになっていくでしょう。親の信仰は、子どもたちに感化を与えることとなります。「この信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケとに宿ったものであったが、今あなたにも宿っている。」（エペソ1・5）と、子どもたちの信仰が育まれていく上で、家庭と教会（教会学校）は手を取り合っていきたいものです。

親の中には、「信仰は個人的なものだ」という人がいます。その受け止め方は間違っていないでしょうが、「信仰を持つも自由、持たないも自由」とまでいくと問題があります。そのような考え方だと、「何があっても、わが子が救われてほしい」との祈りが生まれてこないから

です。子どもの救いのために必死で祈っている親が、どの教会にもおられます。そのような祈りの中から、子どもたちが教会学校に通えるとしたら、何と幸いです。教会学校教師も、それぞれの家庭の事情をよく知って、子どもたちに臨んでいただきたいと願っています。

私は恵みの分かち合いの大切さを、覚える者の一人ですが、昨年の秋から祈っていた課題の一つが、不思議な答えられ方をしています。「働きのための広い門が私のために開かれており……」（1コリント16・9新改訳）が、現実となってきました。教会学校の先生方が、自らの祈りの答えを子どもたちに話せたらなんと幸いです。山菜採りに出かけた父が、帰ってこない。祈って」と、兄弟二人でやってきて祈ったことがあります。ほどなく発見されました。幸いでした。祈りは聞かれて、その子らと感謝の祈りをしました。お恵みくださる主は生きておられることが伝えられたのです。

教会学校の奉仕は、魂にかかわる働きですからとても重い務めです。牧師の奉仕に通じるころがあります。その私たちが祈りをおろそかにするようになると、表面的にはうまくいっているようでも、力ある奉仕ができなくなってしまうのです。物事が順調にいつている時には、心に隙ができるものです。そこに危険が潜んでいます。奉仕者には、多くの恵みがありますが、落とし穴もあることを知っておいてほしいと思います。祈りについて述べさせてもらいました。教会学校に限らず、教会の働きすべてが祈らずしてはやっていけないのです。さあ、あなたも祈りの人になり、祈りの友になってください。

# 牧羊者

## 目次

巻頭言	1
教師養成講座 教会学校の歴史(2)	3
聖霊の実 《7月教案》	9
主の弟子たち 《8月教案》	21
神のしもべたち 《9月教案》	36
牧羊ひろば（南陽教会）	48
おわりに	50

教師養成講座

教会学校の歴史

II

浮田 益夫

教会学校の歴史 I

第一章 教会学校の歴史

第二章 日本における教会学校（CS）の歴史

第一節 日本のCSの歴史の概観

一八六四～一九〇六（元治元年～明治39年）

1 安息日学校（発端）明治20年頃

2 日曜学校（SS）（明治20年～30年頃）

3 日曜学校運動の進展（明治30年～同末年）

4 日本日曜学校協会の成立とSS運動の発展  
一九〇七～一九三〇（明治末～昭和5年頃）

前回は一八六四年～一九〇六年に見られる日本のSS運動の始まりから日本日曜学校協会（NSSA）の成立までを概観しました。今回はその後の発展の様子を観ます。

日曜学校の自覚期の到来・専門家の誕生  
この頃のSSの特長としては次のようなことが挙げられます。

① SS教師のための教案誌や参考書、またSSの理論に関する著書の相次ぐ出版。日本日曜学校

協会（以下NSSAと表記）は一九一四年（大正3年）9月『日曜学校』を発刊。それは、その後40号を重ね、SS教育史上、欠くことのできない文献となりました。他の例としては日本組合教会の『宗教教育』（一九二〇年・一九二三年NSSAの『日曜学校』と合併）、日本基督教会の『日曜学校時報』（一九二二年・後『日曜学校之友』と改題）、日本メソジスト教会の『日曜学校局報』（一九二五年・後『メソジスト日曜学校』、次いで『基督教教育』と改題）発刊などがあります。

② NSSAでは、世界日曜学校協会（WSSA）に倣って、幼稚科から高等科に及ぶ11年制級別教科書の編纂が進められ、学ぶ子どもたちの発達段階に合わせた、級別教案が検討されるようになりました。教案の骨子の大部分は欧米の教案を参考にしましたが、単なる翻訳・模倣ではなく、日本の実状に即するように、吟味訂正が加えられました。教文館発行の『週刊万国日曜学課記録』（一九〇七年・以降6年間続く）に代わり、『教授法概要』（一九一七年・日本組合教会）や、『日曜学校綱目（日本聖公会）』などが出回るようになりました。日本のSS界の「自覚期の到来」と言われています。

③ 各SS間を結ぶ機関紙やカリキュラム、家

庭や子ども向けの定期刊行物や全集等の出版、SSの教育内容、教授方法等についての講習会の開催や教師養成プログラム（コラム参照）の充実なども図られました。

一九一六（大正5）年改定

NSSA日曜学校教師養成課程

新約概論、旧約概論、イエス伝、使徒／書簡、宗教教育原理、児童心理学、教授法、組織並管理法、教会並日曜学校史、礼拝の意義並実際、日曜学校音楽、実際問題（手工、話術、特殊日の守り方など）以上各10時間。課外として聖書歴史、または神学、聖地地理並風俗習慣、宗教心理学または教育心理学、自然科学、社会問題、夏期聖書学校の実際など。全体で120時間以上の課程を修得することを原則とした。『教会教育の歩み』49ページ

④ これらはSSのために一生をささげようとした人たちの誕生の結果でもありました。西阪保治、田村直臣、岩村清四郎、亀徳一男、錦織貞夫、海老沢亮、馬場久成、高崎能樹の諸氏などは、宗教教育を専門とする人となりました。更に村岡花子、野辺地天馬、青木幹太その他の諸氏は、宗教童話家、説教家として活躍しました。

⑤ 夏期学校開設の風潮が起りました。

⑥ SSの基盤理論として米国の自由主義神学に根ざした「宗教教育」の思想が、そのまま採用されました。それは従来の伝道を目的としたSSとは異なつて、単に人間の宗教性を育てるという観

点から考えられていたもので、日本の道德教育思想とも結びついて、あまり反感を買われることなく、受け入れられました。

#### ※不敬事件

明治23年10月30日に発布された教育勅語について文部省はその謄本を作成して、全国の国公私立の学校に配布。内村鑑三が囑託教員として勤務していた第一高等中学校では、明治24年1月9日にその奉読式を実施しました。拝礼が宗教性を帯びると判断した内村は、偶像崇拜を否定するキリスト教の信条に従い、軽く会釈する程度の敬意を表することにとどめました。しかし生徒や一部の教員は、彼の行為は皇室に対する不敬であると非難しました。同年1月から、<sup>143</sup>にのぼる記事や論説が見られ、掲載新聞の数は56種に達しました。それらのほとんどは、彼を「不忠の臣」、「外教の奴隸不敬漢」と訴えるものでした。生徒の中には、封筒の中にカミソリを入れ、「不敬者、これで腹を切れ」という手紙を出した者もいました。

一挙に「不敬事件」として社会問題となった新聞報道などに対して、内村は、「自分は勅語の趣旨を批判するものではない」と弁明し、宗教上の拝礼ではなく社会的な敬礼であればと、たまたま病床にあつたために友人の教授木村駿吉に代理敬礼を委嘱しました。内村は事件後、同年2月3日病気を理由に同校を依願退職しました。全国から激しい非難を浴びた内村は、その後、病床に就き、看病した妻加寿子は心身の疲れから、急逝しました。

しかし、この機会にキリスト教の弊害を指摘しようとする国体論者や仏教界の一部などからの画策もあつて、東京帝国大学教授井上哲次郎が「教育と宗教の衝突」を発表しました。その結果、糾弾は内村個人の「不敬行為」からキリスト教一般の攻撃へと展開していきましました。内村は井上に反論する形で『基督教徒の慰め』を出版。内村は、孤立してでも自分の信仰を守ることを主張しました。

のちに丸山真男は「こういう事件は、直接の被害者はひとりか数人であっても、タブーを社会的に拡大し、無数の人々の思想に目に見えない統制を加えるという点で、大きな意味をもつわけであります」と分析しています(『思想と政治』一九五七年8月 信濃教育第49号)。

※「人々から認められたいという思いはだれもが持っている。しかし、もし私たちの生き方がそのことのためのみに終わるとすれば悲しいことである。私たちにとつて大切なことは人の共感や賞賛を得るかどうかではなく、自分が真理に忠実に生きるかどうかである。預言者と呼ばれる人たちはこのことにきびしく生きたゆえにその多くは殉教していった。しかしそのゆえに彼らは人類に大きな貢献をしたのである」榎本保郎(『旧約聖書一日一章』列王紀下22章)。

田村直臣(一八五八—一九三五)は日本の日曜学校創生期にも大きな足跡を示しました。彼

は築地大学校在学中に入信。一致神学校に学んで銀座教会牧師に(一八七九年・明治12年)。後、渡米(同15年)、プリンス頓神学校に学び、帰国(明治19年)後、数奇屋教会(元銀座教会)の牧師に復職。明治34年に開始された20世紀大衆伝道を終えた彼は、真の教会の成長には、幼時からの教育が大切と痛感、残りの生涯を児童の教育に献げました。彼は教会堂も児童本意に改築。幼稚科室、子ども用の椅子、黒板、オルガン、ピアノも備え付け、日曜学校は単なる教会の付属物ではなくなりました。大人のためには大金を投じることがあつても、子どものためにはそうする人のなかつた時代に、このような改革を行いました。

明治39年、有志と共に全国のSSを網羅する合同組織を結成するために日本日曜学校協会を組織。彼は日本の日曜学校協会は日本人本位たるべきだと主張、賛成を得て日本日曜学校協会は日本人の手で運営されることとなりました。(後にはこれは宣教師の幹事就任のため崩れました)一九一九年(大正8年)、数奇屋教会を巣鴨の地に移して巣鴨教会を発足させた彼は、30年間経営した苦学生のための育英事業・自営館(田村塾—岸田劉生や山田耕作も世話になる)を廃して大正幼稚園を設立。自営館に使っていた金と能力をこれに充て、教育法や設備、その他の改良を重ね、教会は地域住民に認められるところとなりました。幼稚園卒園者は、日曜学校の小学科、中学科、大学科へと進み、巣鴨教会



は児童を本位とする教会となっていました。彼は個人冊子『幼年教育』（明治34年発行、100巻まで続く。ライオン歯磨き店主小林富次郎は地方発送用の歯磨の箱の中に必ずその冊子を入れた）など、子どものための信仰入門書をはじめ、世界最初の13年継続の級別教案による教科書并完成。主著は『20世紀日曜学校』、『児童中心のキリスト教』、『児童の宗教』、『宗教教育の手引』など。彼は伝道者を養成する日本伝道学校も経営しました。

## 第二節 戦争と日曜学校

一九三二～一九四五（昭和6年～20年）

満州事変から太平洋戦争の敗戦まで

### 1 大正デモクラシーからファシズムへ

民衆の力の盛り上がり故に、「大正デモクラシー」の名で呼ばれる時代が終わって、国家神道と軍国主義によるファシズムの嵐が吹き荒れるようになったこの時代、キリスト教界もその影響を免れませんでした。一八九九年（明治32）8月3日、文部省は訓令第12号を公布、公認の学校での宗教上の儀式や宗教教育を禁止しました。

国は、「これは宗教的情操教育を妨害するものではない」と言いながら、一九三五年（昭和10年）11月28日には「宗教的情操の涵養に関する留意事項」（文部省次官通牒）で、教育勅語の徹底と滅私奉公の精神の推進を主張しました。「学校での教

養や儀式の教育は禁じるが、宗教的情操の涵養は禁止するものではない」とは、日本国民としての心意気を高め、国家に忠誠を誓う人材育成を図るという意図の現れと思われます。

それは日中戦争の始まった一九三七（昭和12）年の国民精神総動員運動へと繋がっていき、国家神道のイデオロギーは急速に強まっていき、文部省が皇国史観を徹底するために、有名な『国体の本義』を刊行したのもこの年です。その結果、戦時下には、宗教的信念・情操の涵養による「国民の戦意の昂揚」が日曜学校界でも叫ばれるようになりました（『教会教育の歩み』p.58参照）。

### 2 日曜学校運動の充実・発展

① このような時勢にあっても、教会はたゆむことなく信徒たちの奉仕を通して、青少年への信仰育成に努めました。その充実は第18回日曜学校大会と共に、日本日曜学校協会（NSSA）による日曜学校会館の竣工（一九三一年（昭和6年）6月・敷地270余坪、建坪357余坪、鉄筋コンクリート建地上4階、地下1階）に見られます。日米両教会の有志、日曜学校生徒、その他からの献金に基づく大事業でした。

② カリキュラム作成（幼少から高等までの科別教案の指針、各教派共通の日曜学校教授要目）、校長会や全国各地での教師講習会の開催、日曜学校拡大教化地方大会、アジアの諸教会との交流（訪問、献金）、月刊誌『光の子』の発刊と雑誌『日曜学校』、『日曜学校の友』の充実、日曜学校協会創

立25年記念出版計画による『基督教宗教教育講座』発行、教師・生徒のための各種の実践的教科書やパンフレットの作成、指導者たちによる宗教教育理論のおびただしい書物の発行などがありました（『教会教育の歩み』p.58参照）。

### 3 弁証法（新正統主義）神学と宗教教育

昭和10年8月2日、日光で開かれた日本基督教会東京中会SS部主催のSS教師講習会の席上、桑田秀延は「福音主義より見たる宗教教育―キリスト教宗教教育の原理を求めて」と題する講演で、自由主義（神学）に基づく「宗教教育」の原理を鋭く批判しました。3ページ下段⑥参照。

それは、①「宗教教育」が神、罪、救いというキリスト教の根本教理を退けて、単なる宗教情操の涵養の教育にしかとどまっていけないこと。②「宗教教育の基礎理念である自由主義は果たしてキリスト教であるか、という内容のものでした。この神学者側から投げられた一石は、宗教教育に対する論争の発端となりました。

これに対して高崎能樹らは「池に溺れた人が助けてくれと救いを求めると、『ばかやろう、神様にしたのめ、たよれ』と言ったらどうなるか」と、子どもへの神の摂理を信じて、伝道の情熱を燃やしている者の立場からの反論をしました。

#### 弁証法神学

弁証法神学は20世紀初頭の「人間の理性が一切の問題を解決する」という、人間性への信頼

を主張した自由主義神学に対して、神の超越性、人間の罪、罪過に対する贖罪の有効性等を強調しました。しかしこの神学には、「聖書には神の言葉と人の言葉の部分がある」となどという合理主義に立った部分があり、その主張には、ほとんどの福音主義学者たちを十分には満足させることの出来ない問題点があったので、教会教育のための新しい神学とはなり得ませんでした。『ウエスレアン神学事典』（福音文書刊行会参照）。

#### 4 戦時下のSS

ところで、昭和6年の満州事変、同12年の日支事変、更に同16年の大東亜戦争などの勃発という非常戦時代に入った日本のSSの現場では、このような神学論争とは全く異なった教師の応召・生徒の疎開などという事態が生じ、SSも行き詰まったまま、終戦を迎えることになります。

##### ① 非常戦時下のSS

明治初期以来、昭和初期に至るまでの間に日本の宗教行政に関する帝国議会への法案提出は数度以上行われましたが、未成立のままでした。大日本帝国憲法の保障する信仰の自由と、国の宗教に対する監督権との関係が議論され、紛糾したからでした。明治期の宗教法案には仏教勢力の、昭和初期のそれにはキリスト教勢力の反発が強かったのです。

しかし、国体明徴運動の高揚、国民精神総動員運動の展開を背景に状況は変わりました。第1次近衛文磨内閣による「宗教団体法要綱」を引

き継いだ平沼騏一郎内閣がこれを成案し、両院を通過の上、一九三九年（昭和14年）4月8日法律第77号として公布され、わが国最初の体系的な宗教に関する法律が、翌年4月1日から施行されることになりました。それは戦時下の宗教統制を目的とした法律でした（しかし昭和20年12月宗教法人令の公布施行によって廃止されました）。

国体明徴（めいちょう）（めいちょう）はつきりと証明すること。国体（天皇を倫理的・精神的・政治的中心とする国の在り方）に関する公式見解のこと。

日中戦争への道を歩んでいた最中、東京帝国大学教授美濃部達吉は、天皇機関説（天皇といえども絶対無制限万能の権力者ではなく、憲法の制限を受ける地位にあるとして、立憲主義（憲法に基づいて政治を行うという原理）の立場から議会の役割を重視し、政党内閣制に理論的根拠を与えた）に対する糾弾として表面化していたのが、国体明徴運動でした。

一九三五年2月、貴族院の本会議で男爵菊池武夫は、美濃部の天皇機関説は、国家に対する「緩慢なる謀叛」であると非難。これに軍部、在郷軍人や右翼らが呼応し、貴族院では「国体の本義を明徴にすべし」という建議案が可決され、衆議院でも「国体に関する決議案」が全会一致で可決されました。

同年8月3日、岡田啓介首相は、「日本の天皇制は、天孫降臨（皇室の祖先が地上に天降る）の際の天照大神（皇室の祖先神伊勢神宮の祭神）

の神勅に基づき、万世一系の天皇が統治するという世界に冠たる体制である」という内容の、『国体明徴に関する政府声明』（第1次国体明徴声明）を発して、天皇機関説は国体の本義に反すると断じました。なおも陸軍の圧迫によって、政府は再度（同年10月15日）、「天皇は統治権の主体」であるという「国体明徴に関する第2次声明」を行わねばなりませんでした。その後、国体明徴運動は激化して、文部省は一九三七年（昭和12年）5月31日『国体の本義』を発行、全国の小・中・高・専門・大学・図書館等に配布しました。

#### 国民精神総動員

一九三七年（昭和12年）に近衛文磨が始めた運動。「国民の精神を総動員して戦争に勝とう」と言いました。

#### 〈宗教翼賛体制へ〉

宗教団体法の施行にともない、仏教では天台真言浄土臨済日蓮の5宗で部内宗派間の合同が進み、これまでの56派が28派となり、キリスト教では、カトリックの日本天主教と、プロテスタント28包括団体を合同した日本基督教団の2教団のみとなりました。こうした統合整理の上に、大日本宗教報国会への結集が行われ、宗教翼賛体制が確立。昭和16年12月26日の神道、仏教、基督教3教共催、大政翼賛会後援の大東亜戦争完遂宗教翼賛大会の開催、大詔奉戴宗教報国会大会（17年2月8日）、興亜宗教同盟の結成（17年4月2日）へ

と突き進んでいきました。

NSSAは一九四一年（昭和16年）4月、宗教団体法のもとで設立された日本基督教団本部の事務所のために、その全財産を無償で提供し、新教団の教育局の日曜学校部として編入されました。その結果、その超教派的日曜学校運動の精神は引き継がれましたが、一般信徒による自発的な運動としてのSSの歴史の幕は下ろされ、非常戦時態勢に入っていました。

戦時下のSSでは、機関誌『日曜学校』と『日曜学校の友』が統合され、『教師の友』と改題して発行されました。『日曜学校讃美歌』の改訂・出版、青少年への指導強化、疎開児童の激励・慰問、紙芝居文庫の創設、皇軍将士への慰問、「大東亜伝道」のためのクリスマス献金などが行われました。

「この時期のキリスト教界と一般歴史の経緯から直ちに気づくのは、ごく少数ではあっても、時局の大勢に抗して良心的叫びをあげたゆえに、弾圧される人々がいたこと、その反対に、たとえ全体としては確かに軍国主義の荒波の中で苦難と犠牲を強いられる思いであったにせよ、行動や発言において率先して国家主義政策に協力する指導者たちがいたことである。その点では、キリスト教界もNSSAも決して例外でなかったことは明らかである。

大東亜戦争の名の下に、アジア諸国における人々と、学校とキリスト教会が神社参拝の強要をはじめ、数々の筆舌しがたい受難を被ったことをも

含めて、後代の人々はそのことを重く受けとめるべきであろう」（『教会教育の歩み』p59参照）。

## ② 戦争協力

一九三七年（昭和12年）、日曜学校協合理事長山本忠興は、日中戦争支持の姿勢を表明し、加盟校宛に「ただ、望むところは、その資源の開発と東洋平和の確保のみ」であって、「侵略ではない」、「質素を旨とし、反戦思想ありと誤解されることなきよう注意を」払うよう通達しています。クリスマスに対するNSSAの方針については、「プレゼントを節約し、慰問事業に献金を」することを理事長と主事名で通告しました。翌年雑誌『日曜学校』1月号には「日本思想と基督教」（松山常治郎）と題して、「基督教は国民思想にも国体理念にも抵触するものでなく、「神社は宗教に非ず国民的奉祀であるから信仰の如何に拘わらず参拝すべきもの」という文部省の考え方を紹介して、「神社を理解せよ」と記されています。さらに一九四〇年（昭和15年）には、皇紀二六〇〇年記念日曜学校大会が各地で開催されました。翌年、諸教会が日本基督教団に統合された際には、雑誌『教師の友』では、繰り返し、天皇の赤子としての使命、つまり天皇のため、お国のために従軍することこそ神の御心であるとし、これを鼓舞する説教がなされ続けます。

## 第三節 戦後のSS—教会学校としての再出発

### 再出発

一九四六—一九六九（昭和21—44年）

## 1 敗戦後の再出発—新日本建設キリスト教運動

第2次世界大戦後、日本の教会は、北米諸教会の援助も得て、いち早く再建に踏み出し、盛んな活動を始めました。日本の占領政策を指揮した連合国最高総司令官マッカーサーは、キリスト教に対しては、積極的な好意を示し、アメリカ占領軍はキリスト者の諸活動を直接間接に応援しました。これは日本の支配層にも教会への好意的対処を促すことになりました。

一九四六年（昭和21年）、再出発を図った日本基督教団は、「新日本建設キリスト運動」に、伝道・社会奉仕・教会堂復興の3部門を設け、伝道部門・少年伝道で全国の日曜学校運動を活発に展開することを決定。同年6月の日本基督教団臨時総会で日曜学校局は日曜学校部と改称され、①日曜学校の連絡および指導、②日曜学校用雑誌、図書および教材の編集頒布、③日曜学校教師講習会主催、④日曜学校の発展に必要な調査研究および計画を管轄することになりました。その結果、東京をはじめ全国各地で、SS教師の修養会や講習会、SS生徒の集会も盛んに開かれました。

外国からの講師を招いて、カリキュラム作成のための研究会も持続的に持たれ、『教師の友』も装丁・内容ともに充実していきました。

一九四六年11月には日本基督教団日曜学校部主催の基督教児童文学作家関係者の懇談会が開かれ、キリスト教児童雑誌出版の要望にこたえて、月刊キリスト教児童雑誌『光の子供』が翌年5月に創刊されました。

このような状況のもとで、敗戦後5、6年の間

は、日本の教会はキリスト教はやりとも言われる時期を迎え、大勢の子どもたちも日曜学校に導かれることになりました。

## 2 日本日曜学校協会の再興から日本基督教教育協議会へ

終戦直後から、日曜学校教育事業の世界的繋<sup>つな</sup>がりの必要性と、日本基督教団以外の教派団体からの協力要請が生じるなど、内外の諸情勢に促されて、日本基督教団日曜学校部が中心となって、戦時中解散した日本日曜学校協会の再興が図られました。それは戦争の永久放棄と平和的文化国家の建設への寄与を決意する、キリスト教教育運動の再出発となりました。

しかし、この再出発に際しては、大東亜戦争への積極的な加担<sup>かたん</sup>への真摯<sup>しんし</sup>な悔い改めが欠けていたことが反省されています。

## 3 日曜学校から教会学校へ

戦後の日本のSSは戦争参加への反省の外に、二つの問題——SSの神学的定義づけの問題と、急増したSS生徒の定着化をかかえていました。

① SSの神学的定義づけでは、単なる宗教教育、道徳教育的なものから脱して、聖書の根本教理を重んずる福音主義的な方向への転換が図られるようになりました。

一九四七年にGHQ（連合軍司令部）宗教顧問として来日したイェール大学宗教教育教授パウロ・H・ヴィースは、翌年「キリスト教教育の定義と目標」を発表、カリキュラムを整備していきましました。これは、それまでの「自由主義神学」への反

省、つまりこの世の知恵、教育哲学を安易にキリスト教教育に導入したことへの自己批判に基づくものでした。

② 生徒の定着については、過去の、信徒による運動としてのSSの域を脱して、教会がSSを指導していくための努力を払うことになり、日曜学校（SS）という名称は、「教会学校（CS）」という名称にとつて代わられました。もちろん「CS」という言葉の中には、日曜日だけでなく、週日や夏期の子どもたちへの福音による教育や、成人に至るまでの教会による、組織的な聖書教育を目標とするという意味も含まれています。

## 4 世界大会と新たな教会教育の幕開け

日本基督教教育協議会（JCCA）を中心とする戦後の教会教育再建の努力において一つの実を結んだものに、一九五九年の日本プロテスタント宣教100年記念大会の前年に日本で開催できた第14回基督教教育世界大会がありました。

これは、宣教第2世紀に向けた新たな教会教育再建の幕開けでした。この大会の前後に、生徒・教師・指導者のための各種の精力的な研究会、講習会、大会等が各地で盛んに催され、またNCC教会学校事業部がその総力を結集した総合制カリキュラムも作成されました。

## 5 諸教派教団の再建と教会教育の動き

プロテスタント諸教派教会によって構成されていた日本基督教団は、戦後の新しい事態のもとで一致結束し、将来の方向性を模索して再出発しましたが、一方、これを離脱し独立して従来の教派

教会を再建する動きも起こり、多数の新教団が創立されました。日本基督教団も機構改革によって新たな組織を作り（局を部と決議した）、日曜学校部の活動を推進しました。

この日曜学校部は、先に言及した超教派の日曜学校団体（NSSA・JCCA）との協力関係の中で、同時並行して活動しました。

この時期に、各教団教派は独自の教育方針と計画に従った教会教育の業を進めていきましたが、JCCAが数年をかけて検討・作成し提供した2つのカリキュラム（一九五二年、一九五九年）は諸教会に様々な仕方で採用され用いられました。このカリキュラムは同時に、各教団教派独自のカリキュラム作成への促しと資料提供のきっかけともなりました。

※一九五一年（昭和26年）7月20日に設立された日本イエス・キリスト教団は、翌一九五二年（昭和27年）にはSS教案誌『牧羊者』を発行しました。これは、私たちの信仰を明確に子どもたちに伝えるためには、今までの歴史を参考にしながらも、独自のカリキュラムを必要としていたからと言えるでしょう。

今や世に在る教会の有り様が厳しく問われています。しかし、主は「わたしの霊による」と言われます。死を経て教会の頭となられた、神の知恵、神の力であるキリストをCSの主として仰ぎ見つつ、携え挙げられる日を待ち望んで、今日という日走り続けましょう。

——つづく——

## 聖書 ヨハネ15・1～11 テーマ 実を結ぶ枝

### 序論

(鎌野)

年題「愛に生きる」の第二期は、「実を結ぶ愛」について考える。最初の7月は「聖霊の実」を単元とし、先月まで学んできた聖霊が、どのような実を結ばせてくださるかを考究したい。ガラテヤ5・22に記されている9つの聖霊の実の最初が愛であることは、広く知られている。今週のテキストには、この愛の実を結ぶための秘訣は、三位一体の神との密接な交わりであることが、譬え話によってはっきりと語られている。

### 一、父なる神の愛

この個所で、父なる神は〈農夫〉に譬えられている。農夫がぶどうの木を育てるのは、豊かな結実を得るためである。だから、〈実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もつと豊かに実らせるために、手入れてこれをきれいになさる〉。父なる神が無駄な枝や葉をとりのぞかれるのは、結実という明確な目的があるからこそである。

私たちの生涯にも様々な苦しみがある。神の愛を疑いたくなるような時もあるだろう。しかし、それは〈もつと豊かに実らせるため〉であることを銘記しよう。もし、神以外のものを神以上に大切にしているなら、神はそれをとりのぞかれる。私たちを心から愛しておられるから、時には厳しいことをなされるのである。

### 二、御子イエスの愛

主イエスは、ここでご自分を〈まことのぶどうの木〉に譬えておられる。農夫である父なる神は、イスラエルの民を選び、彼らが豊かな実を結ぶことを期待しておられた。だが実際には、そうならなかった(イザヤ5章参照)。そこで父なる神は御子イエスを遣わされ、この方をおして実を結ぶことができるという、驚くべき恵みの道を備えられたのだ。主がぶどうの木であるなら、私たちはキリスト者は〈その枝〉である。〈枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことができない〉というはつきりとした原則を、私たちは片時も忘れてはならない。

重要なのは、枝は木があつてこそ存在できるという事実である。主は、〈もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人となつておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる〉と言われた。私たちが主につながること必要だが、それより前に、主が私たちを愛して、私たちに繋がっておられるのである。私たちが主を選んだのではなく、主が私たちを選んでくださった(16節)。たとい私たちが主から離れることがあつても、主が私たちから離れなすることは決してない。

だから主は言われた。〈父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい〉と。御子イエスの愛こそ、枝が実を結ぶための秘訣なのだ。

### 三、聖霊の愛

主は、今週のテキストの前の章で、聖霊について

て教え始められた。その流れは、この章の末尾にも次の章にも続いている。主がぶどうの木であり、私たちがその枝であるなら、聖霊は木から枝へと流れる樹液に譬えられるだろう。主イエスと私たちは、生きた命の関係をもつ。主から毎日毎日樹液をいただいているから、枝は枯れないばかりか、豊かな実を結ぶことができる。だからこそ、その実は「御霊の実」と呼ばれるのだ。

ガラテヤ5・22で、聖霊の実の最初に挙げられるのが「愛」であるのは、決して偶然ではない。父なる神が農夫として愛をもつて手入れしてくださる中で、御子イエスの愛の中にとどまるなら、愛という樹液は私たちをおして豊かな実を結ばせてくださる。その実が愛であることは当然だろう。だがその実を食べて喜ぶのは、枝である私たちではない。他の人である。

主イエスは、神と人とを愛することが律法の精髓だと教えられた(マタイ22・34～40、その並行箇所)。主の愛のうちにいるなら、戒めを守ることが決して苦にならない。それは必ず、人への愛となつてあらわれるのだ。その愛は、人々の心を喜びで満たす。ぶどうの木につながり続けているなら、豊かな実を結ぶ枝となることは確実である。

### 結論

ヨハネ3・16からもわかるように、キリスト教の中心は愛である。私たちは、神の愛を信じ続けて生きていこう。そうするなら、たとい実がなるまでに多少の時間がかかるとしても、必ず他の人々への愛は増し加わるのだ。

## 研究資料

(足立)

ぶどうの木はメッセージは、14章から16章にある十字架前夜の遺言とも言つべき内容に含まれる。ここでイエスは弟子たちに関係という最も大切な約束を説いている。それはイエスとの交わりである。イエスはこの関係の意味を強調するために、ぶどうの木ぶどうの木の寓意寓意を使われた。そしてこのテキストは、私たち信仰者が長いクリスマス生涯において豊かな実を結ぶために、とても重要な言葉の真理を提示している。

## テキスト

1 旧約においてぶどうの木は、神の民イスラエルのシンボル。しかしイスラエルの民は神の期待に反して、実を結ぶことに失敗したそれであった(参照、詩篇80・9、イザヤ5・1、7、エレミヤ2・21、エゼキエル15・1、8等)。この選民の苦い歴史をふまえてイエスは、わたしこそまことのぶどうの木であると主張している。**まことの**(アレシノス)という言葉は、本福音書ではしばしば、本当の、真正正銘の、と言う意味である。ここでは特質として、ぶどうの木に適用されている(参照、1・9、4・23、6・32)。ヨハネが「まことの」ぶどうの木、光、パンなどを指し示そうと詳述しているいくつかの箇所では、「まことの」と言う概念は、究極的なものを含んでいる。

2 ここでは父の役割が決定的である。彼は天の農夫として二重の役割を担っている。第一に、実を結ぶすべての枝を手入れする。実を結ばない枝は除外されるが、父の御思いは愛である。それは

各枝が実を更に豊かに実らせるため。この考え方は、ヘブル12・4、11に共通するもの。

第二に、父は死んだ枝は取り除く。これは脅しではなく、クリスマスチャンは何らかの実を結ぶ存在であることを主張している。実を定義することは難しいが、文脈から考えることが大切だろう。15・12、17からすると、弟子たちが互いに愛し合う関係作りが強調されている。また13・34、35からもわかるように、主は弟子たちの間に、互いに愛し合う実を期待しておられる。

4 弟子たちが大切にすべきことは、彼らが言葉にとどまること。この節は条件と言うよりも約束である。イエスは彼自身が弟子たちの生活の中にとどまり続けるためにも、弟子たちがこの偉大な真理を自覚するよう切願している。これら二つのとどまる関係は分離できないものであるし、とどまることは結実という観点から考えるならば、絶対必要な一点である。枝は単独で実を結ぶことができない。ぶどうの木は、それ自身のうちに生命源を持つていない。枝は、それがつながれているから木の幹から供給源を得ている。それゆえ主の弟子たちは、絶えずイエスご自身につながっていることにより、実を結べる存在である。

5 1、4節の中心思想がここで繰り返されている。ここでは、**わたし**(イエス)と、**あなたがた**(弟子たち)に強調点が置かれている。但しイエスの役割と弟子たちのそれが混同されてはならない。あくまでイエスご自身が供給源であり、弟子たちは全面的に依存する存在である。しかし、この互いに宿る関係こそ、実が豊かに結ばれる約束

である。イエスから離れた人は全く無力であり、イエスからの独立は霊的に何も成就しない。

7 結実という点において、イエスは祈りに焦点をあてる。ここでは祈りがイエスにとどまることと関連している。しかし前提がある。それは信仰者のうちにイエスのみ言葉がとどまっているというポイント(参照、14・21、23)。確かに祈りは主の御名によってさげられるものであるが(14・14)、人がイエスにとどまるならイエスの言葉に従って生きることにもなる。**わたしのことば**への言及を見過ぎしてはならない。み言葉に対する信頼と服従、そして御名による祈りは切り離すことができない。

8 弟子が十分に実を結び、その事実により父なる神が栄光を受けられるという内容。

9 多くの実を結び、イエスの弟子であることを証明するために、信仰者はイエスの愛のうちにとどまり続けることが常に問われている。人がキリストの愛無しで生きることが可能かもしれない。しかし、その交わりの結びつきは破れてしまう。イエスの生涯は弟子を愛した(受け入れ続けた)それであった。従って、イエスの弟子たちも愛を問われて成長するのである。

10 互いに愛し合う(14・15、21、15・12)。

11 イエスの言葉の目的は、喜びにある(参照、1ヨハネ1・4)。イエスの喜びは彼が成就したみわざから生じる(16・20、21、22、24、17・3)。

参考図書 Carson, D.A., The Gospel According To John (Eerdmans)。Morris, L., The Gospel According To John (Eerdmans)。

聖書 ヨハネ15・1～11  
 タイトル 愛の実  
 暗唱聖句 わたしの愛のうちにいなさい。  
 ヨハネ15・9  
 目標 イエス様にしっかりとつながって多くの実を結ぼう。

## 導入

(飯田)

皆さんは、学校やお家でお花などの植物を育てたことがあると思います。今、ひまわりや朝顔を育てている人もいるでしょう。植物を育てるのは簡単なことではありませんね。毎日、水をやったり、肥料をやったり、虫がついていないか注意したりします。「大きくなれよ」、「きれいな花を咲かせてね」と言いながら育てます。

## 私たちを育てる神様

今日の聖書には、父なる神様が「農夫である」とあります。農夫は一生懸命、農作物を育てる人です。種を植えたら、あとは知らんぷりで何もしない、と言う事はありません。皆さんも経験したことがあるように、いつも気にかけて育てるのです。農夫は、作物が豊かな実を実らせるために、いろいろな枝葉を切ります。また、ぶどうの房には多くの実がなりますが、しっかりとした実とするために、いくらかの実を取ったりして手入れをします。

そのように農夫は、細やかに作物の様子を見て色々とお世話をします。神様も皆さんを養い育て、豊かな実を結ぶことが出来るように手入れをされるのです。

るのです。枝葉や実を取り除くように、神様に喜ばれないものは、神様がそれを切り取られるのです。その方法は、皆さんにとっては厳しいこと、辛いことも知れませんが。しかし、神様はそれを、愛をもってされるのです。辛いことや苦しいことがあった時は、これは神様が私を豊かな実を結ぶ者とするためにしてくださっているのだと思って神様に祈りましょう。

## つながれて、つながる

イエス様は木で、皆さんは枝です。枝が木につながってなければ、実を結ぶことは出来ません。イエス様は、「わたしにつながっていなさい」と言われます。私たちの力で頑張ってつながっていくとすると、力尽きてしまいます。でも、イエス様は「わたしがその人とながつながっておれば」とあるように、イエス様は皆さんがイエス様につながる前につながってくださるのです。もつと言うならば、イエス様は、皆さんがイエス様を愛する前に愛してくださっているのです。ですから、まずイエス様に何とかつながろうと努力するよりも、イエス様につながれ愛されているのだという事実を受け止め、日々感謝する事です。その時に私たちは、イエス様につながっているのです。皆さんがつなぐから、イエス様につながれているのではなく、すでに皆さんがイエス様につながれているから、イエス様につながる事が出来るのです。私たちは、イエス様につながってこそ豊かな実を結ぶことが出来るのです。

## 豊かな愛の実

農夫である神様は、皆さんをイエス様につながる

らせて、どのような実を豊かに結ばせようとしておられるのでしょうか。

それは、愛の実です。イエス様につながる時に皆さんの中に聖霊が流れ込んできます。聖霊は、イエス様と私たちとの生きた関係へと導いてくださいます。聖霊の助けがなければ、イエス様につながれて愛されている事も分かりません。また、自分がイエス様につながっていると言うことも分かりません。

イエス様につながることで、聖霊は私たちを豊かな実を結ぶ者へと導いてくださるのです。聖霊によるイエス様との生きた交わりを通して、神様は、皆さんにガラテヤ5・22～23にあるように、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制の実を結ばせてくださるのです。「このような実を結びたくない」と言う人はいないでしょう。誰もが、この実を結びたいと願うと思うことでしょう。神様は、皆さんにその実を結ばせてくださるのです。

## まとめ

イエス様につながるとは、罪深い私のために十字架で死んでくださったほどに愛してくださったイエス様を信じ、そのイエス様の愛の内にあることです。まず、自分が愛されていることを知り、その愛を日々、感謝して生活する時に聖霊を通して豊かな愛の実を結ばせてくださいます。

皆さんの周りには愛がなく、いじめや意地悪ばかりありませんか？まず、皆さんが愛の実を結び、神様の愛をあらわす者とされましょう。

♪歌い続けよう主の愛を♪ (子どもさんびか77)



# 聖書 エペソ5・1～4 テーマ 愛のうちに歩く

## 序論

(鎌野)

今週から3週間、エペソ書5章から学ぶ。本書は3章までが教理的部分で、4章からは実践的部分になる。その冒頭で「召しにふさわしく歩き」とあり、また今日のテキストでは「愛のうちに歩きなさい」と記されていることに注目したい。先週学んだヨハネが「愛のうちにいなさい」と、静的な対神関係について述べているのと対照的に、この箇所では「歩く」という動的な対人関係が取り扱われていると言える。「神に愛されている」からこそ、「神にならう者」として愛のうちに歩くのだ。それは、以下のように言い換えられるだろう。

## 一、神の子どもとして歩く

著者パウロは、「あなたがたは、神に愛されている子供」だと、明確に宣言する。「彼（キリスト）を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力（新改訳・神の子どもとされる特権）を与えた」（ヨハネ1・11）と約束されているように、キリスト者はみな、神の子ども（原語ではテクナ）である「ちなみに主イエスが神の子と言われる場合は、ヒュイオス（＝血のつながった息子）という語が用いられる」。本当の子ではない者が、神の子としての特権を与えられたのである。元来は罪の中に死んでいた「怒りの子」が、神の愛によって生かされて、永遠の命を与えられ、神の国を受け継ぐ者とされたのだ。何とい

う大きな恵みであろうか。

私たちは、考え方ではおとなとならねばならないが（1コリント14・20）、いつまでも神の子どもであり続ける必要がある。親から独立して、親より偉くなるなどと思ってはならない。かえっていつまでも親を信頼し、その愛を十分に受け、親の教えるところに謙遜に従っていくことが、神の子どもとなるべき行動なのだ。

## 二、キリストを模範として歩く

神の子どもは、喜んで「神にならう者」となる。といっても、神は見えないお方なので、具体的にどうすべきかわからないだろう。それゆえ父なる神は、ひとり子イエスをこの世に遣わしてくださった。そしてこのお方は、「あなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、またいけにえとしてささげられた」。神の子どもは、このキリストの行動を具体的な模範として歩くべきなのだ。

キリストの生涯は、愛に貫かれていた。罪人の友となり、貧しい人々を憐れみ、悪霊に捕らえられている人々を解放されたのは、神がどのような人々をも愛されていることを明確に示すためだった。そして最後に主は、自発的に、罪のためのいけにえとなつて死んでくださったのである。このお方を模範とするならば、私たちも人々を愛していかなければならない。罪ある人も、貧しい人も、精神的・肉体的に弱っている人々も愛して、その人のために喜んで犠牲を払う生き方こそ、キリストにならう歩みなのである。

## 三、感謝をささげて歩く

パウロはさらに、キリスト者の行動と語る言葉についても、具体的な指示を与えている。愛のうちに歩くことがどういうことかを、明確に教えるためにほかならない。「不品行といろいろな汚れや貪欲」は、異教社会に生きるエペソ教会の信徒の周囲に満ちあふれている悪であった。そういうものとはきっぱりと縁を切れ、「口にすることさえしてはならない」とパウロは命じる。鳥が頭の上を飛ぶことは妨げられなくても、頭の上に巣を作らないようにすることはできる。汚れた話題に入ってはならない。多くの人々が平気で話している「卑しい言葉と愚かな話やみだらな冗談」も避けるべきだ。真実な神の愛のうちに歩く者にとつて、これらは有害無益なものだからである。

逆に口にすべきなのは、「感謝をささげること」だ。神の愛の計画を信じる者は、すべてに感謝ができる。愛の神は万事を益にしてくださる、と信じているからだ。雨の日も晴れの日も、批判されても好評を博しても、たとい迫害を受けることがあっても、主のなされることに間違いはない。神の愛のうちに歩く者は、「これらすべての事において勝ち得て余りがある」（ローマ8・37）。だからこそ、喜んで感謝をささげることができるのだ。

## 結論

神の子どもとして、神の愛をいっぱいを受けよう。神の愛を知れば知るほど、私たちもその愛を人々と分かち合うことができる。そしてすべての人々が、感謝をささげようになるのである。



## 研究資料

(足立)

パウロはエペソ1～3章で教理を記したが、その教えを適用する。「歩む」(ペリパテオウ4・1、17、5・2、8、15)と言う言葉の使用から考えて、彼にとつてキリスト教教理は実践されて意味があるものである。つまり教理と生活が結び付いていることが大切である。また4章からの文脈を見ると、次のような位置づけが可能であろう。神の子たちは一致のうちに歩む(4・1～16)。聖さのうちに歩む(4・17～32)。愛のうちに歩む(5・1～6)。内容から、5・1～6は二つの区分に分けられる。積極面：愛のうちに歩む(1～2)。消極面：悪から遠ざかる(3～6)。

## テキスト

1 こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい 5・1～2は、4・25～32の結論的部分としても理解可能。4・32で「神がキリストにあつてあなたがたをゆるして下さったように」とある。読者たちは天の父が自分たちに示してくださったように、同様な寛大な赦しを他者に示すよう、自分たちの神を見習うよう熱心に勧められている。彼らは神の家族として受け入れられてきた(参照1・5)。神の愛は今聖霊によつて彼らの心に豊かに注がれている(参照ローマ5・5)。読者たちは愛を豊かに経験したのであるから、神にならい、神の家族を再現することが求められている。

パウロは彼の手紙の至るところで、ならう者(ミメテス)という言葉を使っている。パウロがキリス

ストにならうという意味で自分をモデルとせよと教会の信者に命じる場合(1コリント4・16、10・31～11・1、ピリピ3・17、1テサロニケ1・6、Ⅱテサロニケ3・7、9)。ある場合彼は他の会衆にならうよう教会員を鼓舞した(参照1テサロニケ2・14)。しかしながらエペソ書のここだけは「神にならう者」であれと信者に命じている。事実旧約、新約聖書のどこにも神にならうことに明快に言及する箇所はない。すべてにおいて神にならうことは不可能である。イエスは弟子たちに、「あなた方の父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ」と命じた(ルカ6・35～36、参照マタイ5・44～48)。神の情け深さと憐れみは、信者の行動の模範である。エペソ書の文脈は神の家族にある新しい関係は神にならうという主張を基盤として仕えることにあり、この関わり合いは2節が示すように、キリストにある神の救いのみわざに最終的な根拠がある。

2 また愛のうちに歩きなさい パウロの「愛のうちに歩め」という熱心な勧告は、模倣者の存在に含まれることをさらに明確に説明する。この二つの表現は互いに対応している。すなわち神にならうことは愛のうちに歩むことである。読者はキリスト者としてどのように生活すべきかを教育されている(参照4・1、17、5・8、15)。本書の4～6章には一連の愛の教育が含まれている(4・2、15、16、5・2、25、28、33、6・24)。その成就は使徒パウロの祈りによつて完成される(3・17、19)。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、**「自身を神へのかんばつ**

かおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。愛のいのちを生きる手本と根拠は、キリストの愛とご自身の犠牲としてのささげ物にある。ここで本書において初めてキリストの愛が言及された。既に私たちの救いのための動機として父なる神の愛が述べられた(2・4)。しかしこれら二つは4・32で二重の言及がなされてあるように矛盾していない。「神がキリストにあつてあなたがたをゆるして下さった」。キリストの愛は十字架に著しく現された。このことから神にならうことは、究極的にキリストにならうことにある。そして代価が払われた犠牲の愛は、互いの人間関係の中で信仰者を特徴づける。

初期の手紙でパウロは個人的な負債について書いた。「わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子」(ガラテヤ2・20)。エペソ書のこの文脈では、すべての信者のためにキリストの死があつたことを伝えている。これは教会を意識しているであろう。後の節でパウロはキリストが教会を愛し、ご自身をささげた点を断言している(エペソ5・25)。「ご自身を：ささげられた」とは、キリストは死に対してご自分をささげることにおいて主導権を持ったことを意味する。彼は自ら進んでささげる犠牲として十字架に赴き、これを成就した。使徒パウロの主張は明快である。キリストが自らを死にささげたことは究極の愛の実証であつた。このような愛で他者に仕えることが、神とキリストにならうことでもある。

参考図書 O'brien, P.T., The Letter To The Ephesians (Eerdmans)。

聖書 エペソ5・1～4

タイトル 神様の愛の内を

暗唱聖句 神に愛されている子供として、

神にならう者になりなさい。

エペソ5・1

目標 神様の愛を受けて、神様になら

い愛の内を歩こう。

## 導入

(飯田)

皆さんの家では新聞を取っていますか？その新聞はどのようにして作られ、私たちに届けられているのでしょうか。まず、新聞記者がいろいろなできごとなどを取材して新聞の記事を書きます。そして、新聞社で記事を新聞としてまとめます。それから、新聞配達の方が、皆さんがまだ夢の中にいる時に、早く起きて一軒一軒丁寧に新聞を届けてくださっています。私たちの周りには、知っているようにも知らないことがたくさんありますね。

## 知っていますか、愛されていることを

皆さんは、神様がどんなに皆さんを愛しておられるか知っていますか？今朝の聖書の言葉に、「神に愛されている子供として」とあります。神様は、皆さんを本当に愛してくださっています。しかし、皆さんは神様から愛されているということを、どのくらい知っていますでしょうか。知っているようにも実は、あまり深く知らないのではないのでしょうか。神様はいつも「わたしの目にはあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。わたし

は永遠の愛をもってあなたを愛した」と、皆さんに語っておられます。皆さんが、神様を忘れている時も、「神様なんていないや」と思っている時も、いつも神様は皆さんを愛してくださっています。また、「キリストもあなたがたを愛してくださって」とあるように、イエス様も皆さんのことをいつも愛してくださっておられるのです。

その愛は口先だけのものではありませんでした。何の罪も犯していないイエス様が、皆さんの汚い罪のために身代わりとなって十字架に架かって、命を投げ出してくださったのです。

それは、皆さんが罪から自由になり、生き生きと生きるためです。神様は、その愛するひとり子のイエス様を十字架に架けるほどに皆さんを愛してくださっているのです。皆さんは、大きな愛で愛されている一人一人なのです！その事を知っていますか？

## 私たちが見習う方

生まれたばかりの動物の赤ちゃんは、お母さんたちのやっっている事を見習って、水を飲んだり、餌を取ったりして生き方を学びます。皆さんが見習う人は、誰でしょうか。それは、神様です。皆さんは神様に愛されている神の子どもですから、お父さんである神様を見習う時に、神様に喜ばれる生き方が出来るし、皆さんも喜びに溢れて生きて行くことが出来ます。神様は今朝、「わたしにならう者になりなさい」と言われます。皆さんの周りには多くの見習う人がいると思います。でもまず、神様に目を向けましょう。神様は、本当に一点の汚れ

もない聖いお方です。私たちは自分の力では聖く歩むことは出来ません。でも、聖いお方に見習う時に、皆さんも聖く歩むことが出来るからです。

## 愛の内を歩こう

神様に愛されている事を知り、神様にならって素晴らしい愛の内を歩く人は、友だちをいじめたり、人の物を盗ったり、お父さんやお母さん、兄弟に嫌な言葉を言ったりはしません。自分が愛されているように、あなたの隣人を愛することが出来るようになります。人が悲しんでいる時は、励ますことが出来るようになります。人が困っている時は、祈り助けることが出来るようになります。また、たとえ嫌なことが起こっても、それを感謝して受け取れるようになります。魚は水から出てしまおうと死んでしまおうように、皆さんも神様の愛の中から出てしまおうと心が暗くなり、喜びがなくなってしまういます。

でも、イエス様を信じて神様の愛の内をいつも歩き、神様に従う人は、生き生きと歩むことが出来る。神様の愛を行うことが出来るようになるのです。

## まとめ

皆さんは、神様から本当に愛されている子どもです。神様の愛を忘れないでください。そして、神様を見習って、聖い人になってください。神様から目を離さないで、神様に見習っている時に、皆さんは愛の内を歩む人となる事が出来ます。

今週も、イエス様を信じ、元気に神様の愛の内を歩んで行きましょう。

♪あいをください♪

(子どもさんびか78)



## 聖書 エペソ5・5～14 テーマ 光の子として

### 序論

(鎌野)

先週に続き、神の子の具体的な歩みについて学ぼう。主イエスは「わたしは世の光である」(ヨハネ8・12)と言われると同時に、「あなたがたは、世の光である」(マタイ5・14)とも言われた。譬えて言くと、主の光は太陽の光であり、キリスト者の光は月の光である。月は自分で光を発しているのではなく、太陽の光を反射しているだけである。「光の子」は月であり、それは太陽なくして光することはできない。「ひかりひかり」という有名な子ども賛美歌をご存じだろう。光の子どもは、「明るい子ども、元気な子ども、正しい子ども」と歌われている。今週のテキストは、この三つのポイントにまとめられるのではなからうか。

### 一、正しい子ども

パウロは、(すべて不品行な者、汚れたことをする者、貪欲な者、すなわち偶像を礼拝する者は、キリストと神との国をつぐことができない)と断言する。彼らは正しくない者たちなので、(彼らの仲間になってはいけない)。だが、(光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせる)ものだから、(光の子らしく歩きなさい)と命じるのである。光のない世界の邪悪さは、「闇將軍」とか「闇市」とかの表現にも見受けられる。しかし、神の愛を知った者は、そのような悪の世界と決別し、光を与えてくださる主と共に歩むのである。確かに主

イエスも、「わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつ」と言われた(ヨハネ8・12)。主のみ言葉は、何が正しいことをかを私たちに教えてくれる。教会学校で聖書のみ言葉を学ぶ光の子どもこそ、邪悪な世にあっても正しく生きることができるのである。

### 二、明るい子ども

〈光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる〉という聖句を聞くと、幼い頃、庭の石を動かしたとき、石の下から虫が逃げまどつていた情景を思い出す。やみの中に安住する者は、明るい光に耐えられないのである。光の子は、(実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘)しなければならぬ。そうでないと、社会は明るくならないからだ。また、光の明るさは、光合成を進ませる。二酸化炭素と水から、おいしい実を作り出すのである。まさに、(光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせる)のである。今、学校では、正しいことを言う子がかえっていじめられるという話を聞く。心の痛むことである。しかし、悪がそのまま続くとすると、世界はもっと暗くなる。主が言われたように、「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるように」する責任がある(マタイ5・16)。教会学校は、明るい子どもたちを育て上げる所だ。学校にはない楽しさ、喜びを生み出す所だ。祈りつつ知恵を出して、そのような教会学校を形成しようではないか。

### 三、元気な子ども

14節がどこからの引用なのか、明確ではない。しかし、イザヤ60・1を背景にして、「暗やみー眠りー目さめー朝日というパターンが、死者ー復活ーキリストの光と持ち上がった、死者をも呼び起こす福音の勝利の輝かしさが掲げられている」という『新聖書注解』の解説は妥当だろう。創造の最初に光があつたように、光はエネルギーの源である。主イエスの復活に示されている神のエネルギーは、現在の私たちにも注がれる。正しさと明るさを与えてくれるのは、来週学ぶように聖霊以外のなにものでもない。このお方こそ、元気な大人、元気な子どもを育てくださるのだ。肉体が健康ならば元気か、というところでもない。たとい病弱でも、キリストを信じることによって元気な人は、星野富弘さんだけではなく、私たちの周囲にも多数おられるだろう。大切なのは、力の源、光の源であるお方から、エネルギーをいただくことである。教会学校の教師も生徒も、キリストの愛を存分にいただいて、元気になろう。そして、言葉と行動によつて、この暗い世の中にキリストの光を輝かせよう。それこそが、私たちがこの世に生かされている使命である。

### 結論

満月の光は明るい。それは、月の表面が鏡のように磨いてあるからではない。月の石は黒く醜い。しかし、太陽の光が強力なので、あのように輝いているのである。キリストの光をもつともっと受けて、この暗い世界に光を与えよう。

## 研究資料

(足立)

この個所でパウロは悪人のわざに参加するのではなく、神を喜び、光の中を歩むよう信仰者に勧告している(5・7・14)。この部分は三つに分けることが可能。(1)悪人に巻き込まれるな、光の子として歩め(7・10)、(2)悪人の仲間になるな(11・13)、(3)キリストの光の賛同を得よ(14)。

## テキスト

7 だから、彼らの仲間になつてはいけない 読者たちは罪深い行為に関して、律法に服従しない異邦人の仲間にならないよう強く勧告されている。しかしパウロはそのような人々との接触や関わりをすべて禁止しているのではない。そうであるならば、読者たちはこの世のすべての事から出て行く必要があるであろう(参照1コリント5・10)。仲間(スンメトコス)とは、所有や関係を共有する人を意味する(3・6)。従つて読者たちは不道徳な異邦人と不潔な行為を共有しないよう、また神のさばきから免れるように(Ⅱコリント6・14・7・1)念を押されている。

8 あなたがたは、以前はやみであつたが、今は主にあつて光となつている キリスト信仰者が異邦人の不道徳な行為の仲間にならない積極的な理由は、この場合来るべき神のさばき(5・6)ではなく、彼らが回心したとき自分たちの生活に起こった力ある変化にある。この8・14節の段落全体は光と闇との豊かな象徴を提示し、再びパウロは信仰者が経験した支配の移行に焦点を絞るため

に、かつてと今という対照的な図式(参照2・1・10、11・22)を導入している。昔彼らは闇の支配に属していた(参照コロサイ1・13)が、今や自分たちの主との新しい関係により光の領域に仲間入りしている。既に信仰者と未信者との違いは「古き人」と「新しき人」という言葉で表現されてきた(エペソ4・22、24)。ここでは闇と光というイメージで区別されている。未信者が闇、キリスト者が光である。エペソ書において闇は無知、誤り、悪(参照4・18)を表し、特に神から離れた人々の生活に関して不道徳を示している。一方光は真理、知識(参照1・18)を意味し、ここでは神から来るすべてのきよさを表している。そして読者たちは回心したとき闇から光へと移された。この著しい移行は「主にあつて」起こった。すなわちキリストとの結びつきにより信仰者は新しい支配に入れられ、光となったのである。

光の子らしく歩きなさい パウロはここでどのように歩むべきか、命令形を使っている。読者たちは今光であつて、光の子たちとして歩く。すなわち彼らの生活は光に特徴づけられている。再度鍵の動詞「歩く」が登場している(4・1、17、5・2、15、参照2・2、10)。

9 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである 手短かにパウロは三つのキリスト者の恵みに言及することにより、光の子たちとして歩むことが何を意味するかを最初に説明している。これらは光の実として表現され、実を結ばない闇のわざ(5・11)とはつきりした対照を引き

出している。ここで実は、聖なる力に見られる光の倫理的な結果を表明している。光はそれを受け入れる者の上にきわだつた効力を持つている。光は善意、正義、真実という恵みの中に自ずと現れ、またこれらは神ご自身のご性質を反映している(4・24)。この意味において光の実は、御霊の実の意味にととても近い(ガラテヤ5・22、参照ペリピ1・11)。

新しいいのちが好む事を簡潔に表現する三つの性質は、読者たちに4・20・5・2で言及されたポイントを想起させる。そもそも神はあらゆるよい行いのために、ご自分の民をキリストにあつて新創造された(エペソ2・10)。光の結ぶ実として善意、正義、真実は霊的な性質であり、神の創造的行為の結果である(4・21、24、25)。この三組はミカ6・8で神が人に求める言及を連想させる。

10 主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい わきまえ知りなさい(ドキマゾー)という動詞は、この文脈では行為の正しい方向を決定するために問題を吟味、鑑賞する意味を持ち、ここでは主に喜ばれることとして述べられている(参照コロサイ1・10)。読者たちがキリストのからだとして一体性を持ち、かつ個人的に成長し、向かうところのゴールは、あらゆる状況において主に喜ばれることである(参照ローマ12・2、14・18、Ⅱコリント5・9、ペリピ4・18、コロサイ3・20)。

11 光の子として歩むことは、実を結ばない闇のわざへの参加を拒否することでもある。

参考図書 O'Brien, P.T., The Letter To The Ephesians (Eerdmans)。

聖書 エペソ5・5〜14  
タイトル 光の子として  
暗唱聖句 光の子らしく歩きなさい。  
エペソ5・8  
目標 神様の光を受けて、光の子として輝いて歩こう。

## 導入

(飯田)

皆さんは、温かい光が差し込む家と、全然光が差し込まない真つ暗な家のどちらに住みたいですか？ もちろん、光が差し込む家だと思います。暗闇の中にずっといると何だか心までも暗くなりまします。逆に、光の中にあるとさわやかな気持ちになります。これは、私たちの生き方にも関係があります。皆さんは今、闇と光のどちらの中に住んでいるでしょうか。

## 闇の生活と光の生活

今朝の聖書の箇所には、闇の生活と光の生活が記されています。闇の生活は、5〜6節に書かれています。いやらしいことを言ったり、人の悪口を言ったり、いじめたり、人の物を欲しがったり、神様以外のものを神様として拝んだりする人は皆、真つ暗な闇の中で生活しているのです。闇の中に居る人は自分がどんなに汚れているか、またどんなに人に迷惑をかけているか分からないで、自分勝手に歩んでいるのです。でも、光の生活は、人に優しい言葉をかけたり、困っている人を助けたり、何事も真面目に行う生活です。皆さんの今の生活は、闇の生活ですか？ それとも、光

の生活ですか？

## 光の子にしてくださいエス様

今、心の中で「私の生活は闇の生活だ」と思っている子どもがいるかもしれませんね。でも、誰も闇の生活が続けていこうとは思わないのではないですか。「できれば、光の生活をしたい」と思っているでしょう。でも、私たちは自分の力では闇から光に移ることは出来ません。でも、8節に「主にあって光となつている」とあるように、イエスキリストによつて、光の生活が出来るのです。もつと言うならば、闇の子ではなく、光の子となることが出来ます。素晴らしいですね。

イエス様は、私たち人間を苦しめている闇の力、罪をすべて取り除き、私たちを闇から光に移すためにこの地上に來られました。そしてイエス様自身が命を賭けて、その闇の力に打ち勝つてくださったのです。

そのイエス様を信じる者は皆、闇の子から光の子となる事が出来るのです。ですから、「私は絶対に光の子になることはできないのだ」と、あきらめないでください。自分でがんばつて光の子となるうとしても、出来ないばかりか疲れてしまします。イエス様を信じるだけで、必ず光の子となる事が出来るのです。

## 光の子として歩む

イエス様によつて光の子とされた者は、もうイエス様はいらないのかというと、決してそうではありません。光の子として歩むためには、いつも光であるイエス様と一緒に歩む必要があります。

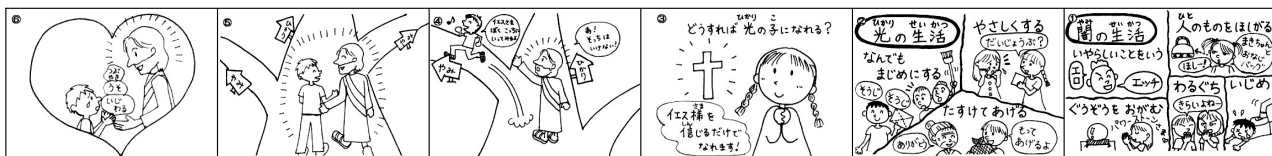
私たちが自分一人で勝手に歩んでいると、知らず知らずの内に闇の生活へ戻つてしまいます。ですから、いつもイエス様と一緒に歩むことが大切です。皆さんがイエス様と一緒に歩んで行くならば、私たちの心をいつも光で照らしてください。そして、イエス様は悪い思いや考え、悪い行動を見つけて「それは、わたしの喜ぶものではありません」と教えてくださるのです。

イエス様の光でいつも心の中を点検していただいて、もし、闇のもの（イエス様に喜ばれないもの）が見つかったら、それを大事に心の中にしまつて置かないで、光であるイエス様の所に「私の心の中に汚い思いがありました」と、罪を認めて告白し悔い改めるなら、イエス様はそれを取り除いて、闇を光に変えてくださるのです。すると、私たちは闇に戻ることはなく、いつも素晴らしい光の中を歩んで行く事が出来ます。そして、皆さんは光の子として輝いて生きるだけではなく、周りのお友だちにも元気を与える人になれるのです。

## まとめ

私たちの生活をイエス様の光に照らしてみよう。イエス様に喜ばれないものはありませんか？ ジメジメした暗い闇の中を歩いていませんか？ イエス様は、皆さんを光の子にしようと願つておられますし、それが出来るお方です。

闇のものを悔い改めて「イエス様、光の子にしてください」と、お祈りしましょう。すると、イエス様は、皆さんを光の子としてくださいます。♪わたしは小さい光りです♪(子どもさんびか79)



# 聖書 エペソ5・15～21 テーマ 御霊に満ちて

## 序論

(鎌野)

キリスト者の具体的な「歩み」について学んできたが、最終的にはそれは「御霊に満たされて」生活することにほかならない。良い歩みは、あくまでも聖霊が結ばせてくださる実であって、人間の努力のみによってできることではないからだ。聖霊に満たされるとき、私たちは知識、感情、意志のすべてにおいて整えられ、豊かな実を結ぶことができる。パウロがここで命じていることを考察し、私たちの行動をチェックしてみよう。

## 一、御旨を悟る

「賢い者のように歩き」なさい、とパウロは命じるが、それは学識ある者になれとか、聡明になれとかいう意味ではない。彼の言う「賢い者」とは、次の節で明らかにされているように、「主の御旨が何であるかを悟る」者のことだ。主とはキリストのことだから、キリストが何を望んでおられるのかを知るように、パウロは勧めているのである。それは、聖書に記されている主イエスの言動を知ることによってわかる。聖霊は理性を否定なさるのではない。私たちが聖書を読むとき、それを正しく理解する力を与えてくださるのである。英語圏で「WWD」という4文字が記されたアクセサリーとか小物をよくみかける。これは、「What would Jesus do?」（イエスならどうされるか）という文の頭文字をとったもの

で、「主の御旨を知り、そのように行動しよう」と励ますために作られた。確かに御霊に満ちて歩むなら、主イエスの生き方を喜んで学び、その結果、（今の時を生かして用い）ることができるだろう。

## 二、主を賛美する

次にパウロは、「酒に酔ってはいけない。…むしろ御霊に満たされ」なさいと命じる。酒を飲むと良い気持ちになる人が多いと聞くが、キリスト者は酒を飲まなくても楽しい。御霊に満たされると嬉しくなり喜びがあふれてくる。聖霊は私たちの感情に働かれ、「詩とさんびと霊の歌」とが口をついて出てくるようになるのである。戦後の大変な時期、湊川伝道館で路傍伝道をしている人に、「よく素面でそんな楽しそうに歌が歌えるものだな」と言った酔っぱらいがいたそうだ。

「酒は百薬の長」と言われるが、それ以上に酒の害は甚大なものがある。どれだけ多くの家庭が酒によって苦しんできたことか。「アルコール中毒」は今でも社会問題になっている。まさに、酒に酔うことは「乱行のもとである」。しかし御霊に満たされるなら、酒は必要なくなる。喜びの感情をおさえきれずに、「主にむかって心からさんびの歌を」歌いたくなるのだ。

## 三、互いに仕え合う

ただし、賛美を歌うのは、ただ感情的に高揚するためではない。「わたしたちの主イエス・キリストの御名によって、父なる神に感謝」することが、より大切であることを忘れてはならない。賛美を

するのは、感謝があるからだ。しかも「すべてのことにつき、いつも」感謝するためには、意志的な決断が必要である。神は「万事を益となるようにして下さる」（ローマ8・28）と信じなければ、そのような感謝は生まれない。御霊に満たされるときにはじめて、すべてに感謝できるようになる。感謝があると、「キリストに対する恐れ的心をもって、互いに仕え合う」こともできるようになる。弟子たちの足を洗われたキリストを恐れ敬い、尊ぶなら、謙遜に、しかも感謝をもって仕えることはできるはずだ。御霊に満たされるなら、キリストの思いが心いつばいに広がるからである。しかし、これにも意志的な決断が不可欠である。

信仰には、意志が大きく関わっている。キリストを救い主と信じるのは意志的な決断だ。主に従っていかうとするのも、聖霊が共にいてくださると信じるのも、自分の意志によることだ。しかし、その決断ができるように、「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神」（ピリピ2・13）であることも銘記しよう。御霊は、私たちが自分の意志で決断するのを助け導いてくださるお方なのである。

## 結論

この3週間、神に召された者としてふさわしい歩みは何かを学んできた。結論として言えることは、御霊に自分の意志を明け渡して従っていく毎日こそがその基本ということだ。そのとき、御霊の実は豊かに結ばれていく。これを理解し、賢い者として歩いていこう。

## 研究資料

(足立)

エペソ書の構造から考えると5・15と21は、5・15と6・9までの導入部分と位置づけられる。賢い者のように歩く(5・15)ことは、愛のうちに歩く(5・2)こと、或いは光の子らしく歩く(5・8)ことと同種のものである。神が恵みと知恵を惜しみなく与えた(1・8)人として信仰者は、一貫して賢い人のように歩くことが求められている。このようなライフスタイルは、無知で知性が暗くなつた異邦人(4・17と18)のそれと対照的である。また既に感謝することの大切さが力説された(1・16、5・4)が、ここにも出てくる(5・20)。キリスト者の基本的な態度は、あらゆることを主イエス・キリストの御名により父なる神に感謝することである。最後に聖霊に満たされること(5・18)への熱心な奨励がなされているが、これは本書の初めから信者の生活にある聖霊のみわざとして繰り返し言及されている(1・3、13、14、17、2・18、22、3・16、4・30、6・17、18)。聖霊の満たしに含まれる内容が、四つの節(語る、こと、賛美すること、感謝すること、仕えること)で説明されている(5・19と21)。5・15と21でパウロは、三つの「くではなくく」(メ：アツラ)を用いて賢く歩むことを奨励している(15、17、18)。

## テキスト

**15 賢くない者のようにではなく、賢い者のように歩き** 第一の対照が提示されている。読者たちはキリストにあつて知恵が与えられ(1・8と9)、神を知るために御霊の知恵を祈り求めることがで

きる(1・17と19)。また教会を通して神の知恵が知らせられる(3・10)。従つて神の恵みの目的を真に理解できない賢くない人たちのようにではなく、神の贖いの計画の中に入れられた者として生きるよう読者たちは求められている。

**16 今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである** 賢い者は時に対する正しい態度を持つ。そして信者はあらゆる機会を最善に生かすことが求められている。理由は時代が悪いから(参照ガラテヤ1・4)。この時代は神とその目的に敵対する空中の権を持つ君の支配下にある(エペソ2・1と3)。しかし読者たちは主にある光となっている(5・8)。クリスチャンの使命は墮落した世にあつて神を喜ばす生き方を実践すること。

**17 だから、愚か者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい** パウロは、第二の対照によつて読者に細心の注意を払うよう勧告している。先ず読者たちのキリストにある選びそのものが神のみ心である(1・4と5)。また信者は既に知らされている神のみ心(1・9と10)を理解するよう求められている。そしてキリストにある真理に形づくられる生活が要求されている(4・20と21)。また何よりもこの文脈(5・15と6・9)にある勧めに従うことでもある。本書における神のみ心は、信仰者が個人的な導きを求めると言うより、神の恵み深い救いの計画とその成就のために、兄弟姉妹(教会)がキリストに似せられた民へと変えられていくことに焦点がある。個人的な導きも、神の恵み深い救いの計画という枠組みの中で意味を持つものとなる。

**18 酒に酔つてはいけない…むしろ御霊に満たされて** 第三の対照もキリスト者の読者たちが注意深く賢く生きるために大切なことを明確にしている。それは飲酒禁止に始まり、「聖霊に満たされる」という積極的忠告で結論づけられている。パウロの主要な関心は、読者たちが継続して聖霊によって生きることを促すことにある。この勧めこそ4と6章の根底にある鍵の役割を果たすものである。原文では18と21節は一つの長い文章であり、五つの分詞が「聖霊に満たされる」命令を修飾している(語る、こと、賛美すること、詩「音楽」を作ること、感謝をさげること、服従すること)。読者たちは既に自分たちが聖霊の証印をおされた者(1・13)であり、御霊を悲しませてはいけないこと(4・30)が語られてきた。そして、ここでは御霊に満たされることが強調されている。キリストのからだとしての教会は主が満ちているところであり(1・23)、神ご自身の満ち満ちたさまにまで信者が満たされることが求められ(3・19)、キリストのからだを立てあげられるために信者がキリストに満ちて成熟することが目的となる(4・12と13)。この過程において聖霊は信者たちを個人的にまた共同体としてキリストのかたちに力強く変えていく。従つて私たちが賢く、主のみ心を十分理解して生活していくためには、聖霊に満たされ、神のわざに与り続けることが中心にある。霊的な満たしと成熟はキリストにある霊的原则によつて達成される。

参考図書 O'Brien, P.T., The Letter To The Ephesians (Eerdmans)。



聖書 エペソ5・15〜21

タイトル 御霊に満ちて

暗唱聖句 賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。

エペソ5・15、16

目標 聖霊に満たされて賢い者として生きよう。

## 導入

(飯田)

皆さんは、学校のテストは好きですか？「私はテストが大好きです！」と言うお友だちは、少ないかもしれませんね。テストは、「点数が高い人は賢い人、低い人はそうではない人」と、テストの成績によってその人が評価されてしまいます。でも、本当に賢い人はテストによって決まるのでしょうか？聖書から見てみましょう。

## 歩き方に注意しよう

私たちは、道を歩いている時、何か考えごとをしていたり横見をしていたりすると、ちよつとした段差などに躓いて転んでしまうことがあります。道を歩くときは、よく注意して歩くことが大切です。今日の聖書の中にも「歩き方によく注意して」とありましたね。これは「自分の生活に注意しなさい」と言うことでしょう。皆さんは自分の生活に注意していますか？

私たちが何も自分で注意せずに生活していると、知らず知らずのうちに、闇の中に入ってしまうことがあります。もう一度、闇の中の生活をおさら

いしてみましよう。それは、5〜6節に書かれてありましたね。いやらしいことを言ったり、人の悪口を言ったり、いじめたり、人の物を欲しがったり、神様以外のものを神様として拝んだりする人は、真つ暗な闇の中で生活しているのです。

闇の生活をしている人は、どんなにテストの点が良くても、賢い人ではありません。皆さんの生き方はどうですか？また、心の中に闇がないですか？この朝、皆さんの生活や、心の中を注意してみましよう。

## 賢い者のように歩きましょう

皆さんは、一生闇の中を歩く愚か者になりたいですか？それはないと思います。当然、賢い者のように歩きたいと願っているでしょう。では、その賢い者の歩き方、生活はどんなものでしょうか。それは17節にあるように、イエス様に喜ばれることを知り、それを実行する人です。イエス様が嫌われることは、闇の生活です。でも、イエス様が好まれることは、いつも神様に感謝して、イエス様を愛してお父さんやお母さん、兄弟やお友だちに心から親切にすることです。そして、生活の中でいつも「これは神様に喜ばれることかな」と考えながら、イエス様が喜ばれないことをしない人は、賢い者の生活です。愚かな者の生活は、イエス様に喜ばれないと知っていても我慢できないでそれをやってしまう人です。皆さんは、イエス様に喜ばれる賢い者の生活をしましうね。

## 御霊に満たされて

イエス様に喜ばれる賢い者の生活は、自分で頑

張つても出来ません。かえって、自分が頑張れば、頑張るほど出来なくなつて、気持ちが暗くなつてしまいます。賢い者としての生活の秘訣は、御霊に満たされることです。御霊は、いつも、どこでも皆さんと共にいてくださいます。また、イエス様を罪からの救い主と信じる皆さんの内にもいてくださいます。そして、皆さんに力を与えて、イエス様に喜ばれる生活が出来るように助けてくださるのです。

ですから、お祈りの中で「天のお父様、今日もイエス様に喜ばれる道を教えてくださり、その生活が出来ますように助けてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン」と祈りましよう。すると、御霊はイエス様に喜ばれることを選ぶ知恵と判断力を与えてくださいます。そして、賢い者の生活が出来る力をも与えてくださるのです。そして御霊は、皆さんの心に、神様への讚美と感謝を与えてくださいます。

## まとめ

今、皆さんの生活は愚か者のような生活ですか、それとも賢い者のようですか？御霊は、皆さんの心の中を満たして、神様に喜ばれる生活を送る事が出来るように助けてくださいます。今は悲しい事がたくさんある悪い時代であり、闇の時代です。だからこそ、神様は皆さんに、御霊に満たされて生き活きと生活する事を望んでおられます。

いつもイエス様を信じて従い、天の父なる神様に祈り、御霊に満たされて歩んで行きましよう！  
♪けさもわたしの♪ (子どもさんびか)





## 聖書 マタイ16・13〜20 テーマ 偉大な告白

### 序論

(鎌野)

今月は、先月学んだ御霊の実が、主の弟子たち三人の中にどのように結ばれたかを考える。まず、弟子の筆頭格とも言えるペテロの場合を取り上げてみよう。漁師を職としていた彼は、決して博學な人物ではなかったが、主と共に歩んでいくなかで、主がどういってお方かを悟ったのである。主の公生涯のちようど真ん中ごろ、彼は聖書の中でも特筆されるような偉大な信仰告白をした。

### 一、人間の考え

〈ペリポ・カイザリヤ〉とは、ガリラヤ湖の北方40キロメートルほどの所にあった町で、本来の名はバニアスと言った。ギリシャ神話の神、パン(山羊の顔をした牧畜、音楽、舞踊の神)の神殿があったので、それにちなんでつけられた名のようなのである。それを改名したのはヘロデ大王の息子ピリポで、彼はこの町を整備してローマ皇帝(カイザル)に献げ、皇帝礼拝の神殿を建てた。主イエスは、弟子たちをそのような神ならぬものが崇拜されている町に連れて行き、〈人々は人の子をだれと言っているか〉と尋ねられたのである。弟子たちは、バプテスマのヨハネ、エリヤ、エレミヤ、預言者の一人、などの様々な考えがあると答えた。これらの人々はみな偉大な人物であり、メシヤの先駆けとして来臨すると信じられていた。

現代でも、イエス・キリストは多くの人々から

偉大な人物と考えられ、世界三大聖人の一人、人々の教師、理想的な人間などと評価される。しかし、どんなに尊敬されようと、単なる人間としてであるなら、それは結局、偶像の神と大差ないものである。それは聖書の語ることはない。

### 二、神の啓示

そこで主イエスは弟子たちに、〈それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか〉と尋ねられた。ペテロは、弟子を代表して、〈あなたこそ、生ける神の子キリストです〉と答えた。いつかは死んでしまふ人間ではなく永遠に生きておられる神の子であり、メシヤの先駆けではなくメシヤ(「キリスト」)ご自身だという、明確な信仰告白である。ペテロのこの告白に対して主は、〈あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である〉と言われた。神ご自身の啓示によってでしか、この真理を悟ることはできないからだ。今日でもこのことはあてはまる。「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない」(1コリント12・3)と記されているように、イエス・キリストを単なる歴史上の人物ではなく、〈生ける神の子キリスト〉と告白できるなら、それは自分の知恵や考え(「血肉」)によるのではなく、神の働きであり、聖霊の働きである。神の啓示以外のなものでもない。

### 三、教会の基盤

続いて主は、〈そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩

の上にわたしの教会を建てよう〉と仰せられた。〈この岩〉とは原語でペトラ(「岩盤」)であり、ペトロ(「ひとつの岩」とは違う。教会は、カトリック教会の解釈するように、ペテロという個人の上に建てられているのではない。彼の信仰告白の上に建てられるのである。それゆえ、〈天国のかぎ〉は、ペテロだけでなく、弟子たちにも与えられている。〈あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれる〉との言葉は、すぐ次の章で、他の弟子たちにも言われていることに注意したい(18・18)。

〈あなたこそ、生ける神の子キリストです〉という信仰告白は、代々の教会の共通基盤である。イエス・キリストは、人間としてこの地上にお生まれくださったが、確かに神の子であった。そしてこのお方は今も生きておられる。この信仰がなくては、教会はすぐにでも崩壊してしまう。主イエスは神の子であり、今も生きておられるからこそ、罪人の罪は赦され、聖い者として歩むことができるのだ。教会には、〈黄泉の力〉(新改訳では「ハデスの門」)を開く(天国のかぎ)を主から委ねられていることを自覚して、熱心に宣教に励もう。

### 結論

次週学ぶように、ペテロはその後いろいろな失敗を重ねる。それでも、主は彼を愛して見捨てず、彼と共におられたことを忘れてはならない。彼が弟子であり続けられたのは、あくまでも主の憐れみのゆえである。私たちもこの愛に応答し、キリストを神の子と告白し続けようではないか。

## 研究資料

(足立)

イエスが救い主であるとペテロが告白したこの箇所は、本福音書において4・17から始まったガリラヤ宣教という長いセクシヨンのクライマックスを形成している。ここは一貫してイエスが13節で発した問いかけに答える形で進んでいる。マタイは本書の最初の部分(1・1～4・16)で、既にイエスこそが神の目的を成就するために来られたお方であると明記しているのだが、16・13～17・21では弟子たちが信仰告白に導かれたことともに、まだ彼らの理解も働きも十分ではないことを記している。

## テキスト

**13 ピリポ・カイザリヤ** はガリラヤの高台であり、本来の町の名は「パニアス」と言った。この町はギリシャの神パンへの礼拝中心地であり、ここをローマ皇帝アウグストより与えられたヘロデ大王は、ここに皇帝崇拜の神殿を建てた。マタイは、なぜイエスと彼の弟子たちがここに行ったかを読者に伝えてはいないが、異邦人伝道を彼らに予知させるためであったのだろう。そして、このような地でイエスは弟子たちに、**人々は人の子をだれと言っているか**と尋ねられた。これはイエスの情報収集のためではなく、既にある誤った考えを正すためであったと思われる。

**14** 弟子たちが報告したすべての意見には敬意が込められ、イエスの人気がなお根強いことを表している。群衆は神に対するある種のスポークスマンとして彼を見ている。ヘロデ・アンテパスはイ

エスを**バプテスマのヨハネ**のよみがえりではないかと恐れていた(参照14・1～12)。旧約預言者のメシヤ先駆者として**エリヤ**と見なす者もいた。**エレミヤ**の再来と見なす者もいた。それはイエスがさばきと悔い改めのメッセージを語り、自国の指導者たちによって広く拒絶される姿をみつめていたからだろう。預言者への言及から、人々の心に申命記18・15～18のようなみ言葉が意識されていたことがわかる。しかし、いずれの見解もキリストには不適切であった。

**15** イエスは弟子たちから彼らの応答を引き出す。ここで**あなたがたは**が強調されている。また13節にある**人の子**が、イエスの使った**わたし**と言う言葉で明らかにされている。弟子たちはすべてを捨ててイエスに従ってきた。またイエスと一定の時間を過ごしてきた。彼らはイエスが成したことを見て、彼が教えた事柄を聞いてきた。これらすべての光の中で、弟子たちはイエスをどう見たのか？  
**16** ペテロは12弟子を代表して答えた。**あなたこそ、生ける神の子キリストです**。直訳すれば、「あなたはキリストです。生ける神の御子」となる。彼のこの告白は、人々が理解したものとは決定的に異なっている。すなわちここでイエスは、終わりの時代に頭角を現した預言者の一人としてではなく、まさに来たるべき救い主として位置づけられている。そしてイエスこそメシヤの時代をもたらし、既存の秩序を全くつくりかえるお方としてペテロは理解している。キリストは油注がれたお方を意味する。またイエスは神の御子として父なる神と特別な関係にある。生ける神とは、**ピリポ・**

カイザリヤ地方の生きていない神々に対して、本当の唯一なる神を表現している。

**17** イエスはペテロに、**あなたはさいわいである**と言われた。この「さいわい」という言葉は、神にある至福を意味する(参照5・3)。つまり世俗的な幸せではなく、聖なる喜びを意味する。事実ペテロの告白は真理である。但しイエスはペテロの告白が人間の努力や理解力によって成されたものではないことを断言している。**血肉**とは人間の力の表現(参照ガラテヤ1・16)。**あなたにこの事をあらわしたのは、天にいますわたしの父である**。父なる神がペテロに、イエスが御子であることを啓示された。「あらわした」という動詞は、行動の主体者である神が終末的な知識を分け与えるという言外の意味を内包している(参照11・25、27)。つまり聖なる啓示は、イエスに関するこの結論をペテロや他の弟子たちにもたらしたみわざであった。

**18** 今度はイエスがシモンを**あなたはペテロである**と語った。**わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう**。「ペテロ」(ペトウロス)と「岩」(ペトゥラ)は掛詞になっている。この告白の直後(23節)ペテロは失敗しているし、18・18では「天国のかぎ」の約束が他の弟子たちにも与えられている。だからペテロ個人が教会の土台なのではない。ここでイエスは、弟子たちを代表してキリストを告白したペテロの信仰告白の上にご自分の教会を建てると言っておられると考えられる。

参考図書 Morris, L., The Gospel

According To Matthew(Erdmans)。

聖書 マタイ16・13〜20  
 タイトル 偉大な告白  
 暗唱聖句 あなたこそ、生ける神の子キリストです。 マタイ16・16  
 目 標 ペテロのように偉大な告白を自分のものによしう。

## 導入

(松浦み)

みなさんは、友だちや周りの人が自分のことをどう思っているのかなあと、ふと気になったことはありませんか？

## イエス様の質問

イエス様と弟子たちが神様のことを伝えながら、ヘルモン山のふもとの町ピリポ・カイザリヤまでやってきた時のことです。すでに弟子たちはイエス様と共に行動するようになってから2年近くが経っていました。イエス様は弟子たちにこんな質問をなさいました。「人々は人の子をだれと言っていますか」。人の子とはイエス様のことですが、弟子たちは口々に答えました。「ある人たちは、ヨルダン川で洗礼をさずけていたバプテスマのヨハネだと言っています」。また「私たちの先祖の偉大な預言者のエリヤだと言っています」。「他の人は、エレミヤか昔の預言者の一人だと言っています」。

## 弟子たちの告白

するとイエス様は弟子たちに、「それでは、あなたがたは私をだれと言いますか」と尋ねられました。すると、ペテロが弟子たちを代表して「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と答えまし

た。弟子たちはイエス様に従って生活するようになって経験した多くの出来事から、イエス様こそ、神の子でありキリストであると信じるようになっていたのです。イエス様はペテロの告白をたいそう喜ばれました。「そのとおりです。ペテロ、あなたは、このことを人から教えてもらったものではありません。天におられるわたしの父である神様が、あなたに正しく理解をさせてくださったのです」と言われました。

## この信仰告白の上に立つ教会

「わたしもあなたに言います。あなたはシモン・ペテロです」。かつてイエス様はシモンに初めて会った時、あなたはペテロ（岩の意）ですと名付けられました。このときにおよんで「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう」と宣言されました。この岩という言葉はギリシャ語ではペトラという言葉で、イエス様はペテロとペトラというしやれを用いながら、ペテロの信仰告白こそが、教会を支える不動の岩のような基礎であることを示されたのです。また、イエス様は「その教会は、死の力にも打ち勝ちます」と言われ、やがて十字架の後、復活されて死に勝利することを宣言されました。さらに「わたしはあなたに天国の鍵を授けよう。あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」とおっしゃいました。これはペテロだけに与えられた特権でなく、他の弟子たちにも、また「イエスはキリストである」と告白する、すべての人にも与えられる特権です。私たちも誰かのために神の国の門を開いて、イエス・キリストの救いを受けさせることができるのです。

最後にイエス様は、ご自分がキリストであることを誰にも言うてはならないと釘をさされました。なぜでしょう。イエス様は旧約聖書に預言されたメシヤ（救い主）として、この地上に来られました。その目的は十字架にかかり罪のいけにえとなつて、救いの道を完成するためでした。しかし、その当時の人々は救い主が現れたらローマ帝国を滅ぼし、自分たちを自由にしてくれると思っていたのです。しかし、イエス様の目的は全然違います。そこで誤解しないように口止めされたのです。

## イエス・キリストのみ名

皆さんはイエス・キリストという名の意味を知っているでしょうか。イエスというのはギリシャ語の名前で、ヘブル語のヨシヤ（救い主）からきています。キリストは職名で、ヘブル語のメシヤ（油注がれた者）からきています。

ペテロはイエス様に「わたしをだれと言うか」と尋ねられた時、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と告白しましたね。この告白は、今でも聖霊によらなければ告白できません。しかし、神様はあなたにも私にも「イエスは主である」と告白することを願っておられるのです。心からイエス様を信じて「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と告白する者となれるよう、祈りましょう。聖霊は私たちの曇つた心の目を開いて、そのことをわからせてくださる助け主です。

神様どうぞ、私の心の目を開いて、ペテロのように、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と告白させてください。主のみ名によって祈ります。♪

(教会学校せいいか115)



# 聖書 ルカ22・54～62 テーマ 愛のまなざし

## 序論

(加藤)

先週に引き続き、主の弟子ペテロについて学びたい。ペテロは偉大な告白をしたが、キリストの受難を通して、徹底的に自分の弱さを思い知ることになった。ペテロはこの経験によって自己の真相を知り、打ち碎かれるのである。

## 一、ペテロの否定

ゲツセマネの園でキリストが捕らえられた時、弟子たちは皆キリストを見捨てて逃げ去ったが(マルコ14・50)、ペテロはなお、大祭司の邸宅に連れていかれた主イエスの後を追って「遠くから」ついていった。捕えられた主イエスに浴びせかけられる嘲罵(ちょうば)の声を耳にしながら、ペテロの心はキリストを慕い心配する思いと、キリストを捨てた情けなさと、自分もキリストのように捕らえられるのではないかという恐れの中で揺れ動いていた。それでも中庭に焚いてある火の前に座ったペテロであったが、ここで思いもよらないことがペテロに降りかかる。ペテロは三度、主イエスを否むことになるのである。

この場面を吟味すると、細かい展開があることに気づく。最初にペテロに迫ったのは一人の女中であつた。彼女が告発したのは、「この人もイエスと一緒にいました」というペテロと主イエスとの関係であつた。しかしペテロは、「わたしはその人を知らない」と主イエスとの関係を否定する。

次の人がペテロにかけた言葉は、「あなたもあの仲間のひとりだ」という、ペテロと仲間の弟子たちとの関係を告発する言葉であつた。ペテロはこれも、「いや、それはちがう」と否定する。

そして1時間の後、三度目に、他の人からガラヤなまりを指摘され、イエスとの弟子であることを告発されるに及び、ペテロはとうとう「あなた」の言っていることは、わたしにはわからない」と、主イエスとの関係を全く否定する。

この漸進的な展開が最高潮に達する中で、三度目のペテロの否定の言葉が言い終わらぬ内に、先に主イエスが予告したように鶏が鳴くのである。

## 二、キリストの眼差し

ルカによる福音書は、他の福音書が語るこのない出来事を記している。それは、主イエスがこの場に居合わせたと言うことである。恐らく主イエスは取調べを終え、護衛に連れられて移動されていたのであるが、その時にちょうど鶏が鳴いた。その鳴き声をお聞きになった主イエスは、「振りむいてペテロを見つめられた」。ペテロの目に、キリストの眼差しはどのように映ったのだろうか？

その答えの鍵は、先にペテロに語った主イエスのお言葉(22・31～32)にある。そこにペテロに對する主イエスの深い愛情を見ることができ、即ち主イエスはペテロがサタンにふるいにかけることをご存知であつたが、ペテロの信仰が失われることがないように祈られた。そしてペテロが立ち直った時に兄弟たちを力づけるようにとお命じになった。

主イエスはペテロの弱さを先刻ご存知であつた。しかし決してペテロを見捨てようとはなされなかつた。それ故に、主イエスを否んだペテロを見つめられたキリストの眼差しは、ペテロを咎めるものではなかつた。悲しみを湛えつつも、なおペテロを包む慈愛に満ちた眼差しであつた。

## 三、ペテロの涙

ペテロは鶏に関するキリストの言葉を思い出し、外に出て激しく泣いた。ペテロの流したこの涙は、キリストを否んだ自分の弱さの自覚から生じる涙である。キリストを愛する人間的な思いは確かにあつた。しかしそれ以上に、自分可愛さの故に、キリストと関わることを恐れるペテロ自身の自我が、キリストを否定させたのであつた。キリストの曇りなき愛の眼差しに、そのようなペテロの心は刺された。丸裸の自我たる自己の真相に直面したペテロは、ただここで鳴咽するのみであつた。

しかしながらペテロの希望はそこにあつた。自分の真相を知り、碎かれ、十字架に磔殺されることは、主にご内住いただき、主の弟子として用いられるに真に必要な信仰の道程である。

## 結論

三度主を否んだペテロは、主イエスの愛の眼差しを受け、自己に絶望し深く悲しんだ。私たちも自己を見つめ、主の前に深く悔い改め、自らをキリストに明け渡して歩む信仰者として生きよう。

## 研究資料

(中島)

ルカによるこの場面の描写は法廷のようである。サタン（訴える者）はペテロを「麦のようにふるいにかける」ことを願い、許された(31)。そして、次々と証人を立ててペテロを責め立てるのである。しかし主イエスが弁護者としてとりなしてくださる。「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」(32)。その視線はさばきの目ではなく、愛の眼差しである。

## テキスト

**54 ついて行った** マルコが不定過去時制を用いるのに対し、ルカは「努力」あるいは「反復」を表す未完時制を用い、ペテロが主の近くにとどまり続けようと努力したことを強調している。遠くから この表現は、直後にペテロが、主に「ついて行く」従うのに失敗することの予兆でもある。

**55 中庭** ギリシャ風邸宅の典型的な特長。火の周りにいたのは大祭司の召使いたちと神殿の衛兵たちであった。ペテロがそこに加わるにはかなりの勇気がいったはずである。マルコやヨハネはペテロが暖を取っているところを描写するが、ルカがそれを省くのは、ペテロが中庭に入った目的が体を暖めるためでないことを示すためであろう。

**56 ある女中が** この一人目の証人と三人目とは第三者に向かって証言した。直接言われていないのに反応したペテロは、意識過剰であった。彼を見つめて この女中の視線と主イエスの眼差し(61)とは対照的である。ペテロは人の目を意識し過ぎて失敗した。私たちが意識すべきは神の視線である。この人もイエスと一緒にいました 大祭司の

邸宅は神殿のそばだったので、この女中は弟子たちを神殿の庭で何度も見ていたはずである。

**57 打ち消して** この語には次の二つの意味が含まれている。①（相手の言うことに）異論を唱える。② 誰かとの結束を否定する。初代教会ではこの用語を後者の意味で「告白する」の反意語として用いた。すなわち信仰やキリストからの離脱背教である。わたしはその人を知らない キリストとのつながりを否定する表現である。なおこれは、ユダヤ教の会堂において誰かを破門するとき用いられた決まり文句でもあったと言われる。

**58 ほかの人が** 二人目の証言は直接ペテロに向けられた。あの仲間のひとり 直訳すると「彼らの中の一人」で、主の弟子たちを指していることは明白。それはちがう これは弟子であることの否定であり、また仲間との関係の否定であった。

**59 またほかの者が** この第三の証言は、第一と似た内容だが、より確信に満ち、また根拠を伴ったものであった。ヨハネはこの人を「園で」ペテロに耳を切りおとされた人の親族の者」と特定している。この人もイエスと一緒にいた おそらく、園でのイエス逮捕の時のことを指している。この人もガリラヤ人なのだから 服装や発音からペテロがガリラヤ人であるの一目瞭然であった。ちなみにガリラヤ人は喉音（声帯で妨げを作って発音する子音）の発音が苦手であったと言われる。

**60 あなたの言っていることは、わたしにはわからない** ペテロは「その人を知らない」という代わりにこう答えた。最初に主との関係を否定し、次に仲間との関係を否定したが、今度はコミュニケーションの不成立である。主イエスという原点

を否定すれば、自分の位置も、さらには人間性そのものをも失うことになるのである。彼がまだ言い終わらぬうちに ペテロの否認の行為と鶏鳴との関連を力強く裏付ける表現。すなわち主イエスの予告(34)の成就である。鶏が鳴いた ふつう鶏鳴は夜明けを告げるものであるが、この鶏は、午前0時半から2時半の間に鳴く、より古い時代のパレスチナの鶏だと考える学者もいる。

**61 主は振りむいてペテロを見つめられた** この描写はルカだけのものである。主イエスは、審問の次の場所へと移送される途上であったか、あるいはずっと中庭にいたのかもしれない。ペテロは先の女中の視線からは隠れることができたが、主イエスの眼差しからは逃れられず、心を鋭く貫かれた。主のお言葉を思い出した その視線は主イエスの言葉の正しさをペテロに思い知らせた。ルカ12・9の論理に基づけば、主を否んだペテロは天使たちの前で主に拒まれても文句を言えない。しかし主の目に宿っていたものはさばきではなかった。その視線は認罪を促すものであったが、同時に、回復へと至らせる愛の眼差しであった。

**62 激しく泣いた** この苦い涙こそが、ペテロが主に対する忠誠心を取り戻すための分岐点となった。そして24・34における復活の主との再会、さらには回復へとつながっていくのである。

参考図書 榊原康夫『ルカの福音書』(いのちのことば社) Marshall, I. H., Luke (NIGTC, Erdmans), Nolland, J., Luke 18・35～24・53 (WBC, Nelson), Ellis, E. E., Luke (NCB, Erdmans), The IVP Bible Background Commentary: NT (IVP).

## 聖書

ルカ22・54〜62

## タイトル

愛のまなざし

## 暗唱聖句

主は振りむいてペテロを見つめ

られた。

ルカ22・61

## 目標

主を裏切ったペテロさえ立ち直  
らせた主の愛を知ろう。

## 導入

(松浦み)

先週はペテロの信仰告白を学びましたね。もう一度、私たちも言ってみましょう。「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。そうですね。よく覚えていましたね。さて、イエス様をたいそうお喜ばせたペテロはその後、どんな歩みをしたのでしょうか？

## ペテロの裏切り

聖書を読むと何とも悲しい事実が書かれています。ペテロはイエス様をお喜ばせる、あんなに素晴らしい信仰告白をしたにもかかわらず、取り返しがつかないほどの大失敗をしてしまいました。それはイエス様との最後の食事が終って、オリブ山に行く途中の出来事でした。イエス様は、突然驚くようなことをおっしゃいました。「あなたがたは皆、わたしを捨てて逃げて行きます」。それを聞いたペテロはすかさず、「イエス様、逃げるなんてとんでもないことです。たといみんなの者が逃げても私は決してイエス様から離れません」。ペテロは心の底から言いました。イエス様のためなら命を捨てる覚悟だったのです。しかし、イエス様はペテロの心は熱しているが、弱さを知っておられ

たのです。「あなたは今日、鶏が鳴く前に三度わたしを知らないと言うであろう」とおっしゃいました。ペテロは「私は絶対そんなことは言いません」と言い張りました。

しかし、イスカリオテのユダの裏切りによって、イエス様が捕らえられ裁判にかけられることが起こった時、弟子たちは皆逃げ去りました。しかし、ペテロは思い直して遠くからイエス様のあとを付いていきました。大祭司の家に連れて行かれたイエス様を見るために、そと中に入り焚き火にあたっている、ある女の人が「あなたもイエスと一緒にいたでしょう」と、ペテロを指して言ったのです。そこでペテロはとっさに「わたしはその人を知らない」と答えました。しばらくすると、また他の人が「あなたもあの仲間のひとりだ」と言ったので、ペテロは「いやそれはちがう」と言いました。1時間ほど経ったとき、三度目に周りにいた人々が、「あなたはやっぱりイエスの仲間だ。ガリラヤ弁でしゃべるからガリラヤ人にちがいない」と言い張りました。ペテロは今度も「あなたの言っていることは、わたしにはわからない」と、イエス様を三度も完全に裏切ってしまいました。そのときです！コケコッコと鶏の鳴き声が聞こえてきました。ペテロはハッと、イエス様の言葉を思い出しました。「ああつ！」と我に返って目を上げると、夜通しの裁判を終え、罪人のように縛られたイエス様が連れられていくお姿が目の前にありました。イエス様は振り向いてペテロを見つめられました。

## イエス様のまなざし

振り返って見つめられたイエス様のまなざしは

どんなものだったでしょう。①「よくもわたしを裏切ったな」という怒りに満ちた目だったでしょう。②「あんな強がり言っていたのにやっぱりな。思っていたとおりだ」といううげすみの目だったでしょう。③「ペテロ、わたしにはわかってたよ。わたしはあなたの弱さをとがめることはしないよ」という目だったでしょう。④「ですね。『目は口ほどに物を言う』ということわざがあります。イエス様の愛と赦しに満ちたまなざしは、ペテロの心を溶かしたことでしよう。心から悔い改めてペテロは激しく泣きました。

## ペテロの失敗から学ぶ

なぜ、あのように素晴らしい信仰告白をしたペテロが失敗したのでしょうか。ペテロは自信满满でした。自分の力に頼る人は、自分は決して間違っていない、自分は絶対大丈夫だと思込んでいることが多く、「わたしは決してつまずきません。決して申しません」と自信を示していました。また、自分は他の人より優れていると思込んでいることが多く、「たとい全部の者がつまずいてもわたしはつまずきません」と、自分を特別視しています。さらに、自分の判断は正しいと思込込み、他の人の言葉に謙虚に耳を傾けようとしないうことが多く、ペテロはイエス様の忠告の言葉さえ否定してしまいました。私たちはいつも、聖霊の助けをいただけないなら、どんなに強い信仰の人でも、コロッと弱さにまけてしまう者です。自分の決意やがんばりの力に頼るのでなく主により頼みましょう。私たちの弱さや失敗を赦してください。イエス様の愛のまなざしの中に生きていく者となりましょう。

♪ああ主のひとみ、まなざしよ♪ (新聖歌221)



# 聖書 マルコ3・13～19 テーマ 雷の子

## 序論

(加藤)

「主の弟子たち」という單元が続いているが、今日は使徒ヨハネについて学びたい。初代教会の長老ヨハネは、「幼子たちよ、たがいに愛し合いなさい」と語りかける愛の使徒であった。しかし生来ヨハネは荒削りで粗野な性格で、決して生まれながらの愛の人ではなかった。

## 一、ボアネルゲ（雷の子）

十二弟子の一人としてヨハネをお立てくださった主イエスは、兄弟のヤコブと共にヨハネをボアネルゲ、雷の子と名づけた（3・17）。彼らの性格が、寛容で柔和というものから程遠く、短気で激しやすく攻撃的だったからである。このことは、次の出来事が裏付ける。

ある時、ヨハネは主イエスに、「先生、わたしたちについてこない者が、あなたの名を使つて悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちについてこなかったで、やめさせました」と言った。悪意はないが、生来一本気で狭量なヨハネの性格が顔を出す。（マルコ9・38～50）。

またある時、主イエスを歓迎しなかったサマリヤ人に、ヤコブと二人で、「主よ、いかがでしょう。彼らを焼き払ってしまうように、天から火をよび求めましょうか」と言つてしまい、主イエスから叱られる。短気で敵愾心の強い彼らの性格が現れている（ルカ9・51～56）。

更に、もう一つ。ある時、ヨハネはヤコブと一緒に主イエスの所に来てこう願った。「栄光をお受けになるとき、ひとりはおあなたの右に、ひとりは左にすわるようにしてください」。この事が、他の弟子たちの憤慨を引き起こし、事態は騒然となった。ヨハネたちの人間的な利己心と野心が、この争いを引き起こしたのである（マルコ10・35～45）。

## 二、主イエスの愛しておられた弟子

しかしこのような、ヨハネの粗野で気短かな性格のゆえに、主イエスがヨハネを疎んじるようなことはなかった。それどころか、主イエスにとつてヨハネは、「主イエスの愛しておられた弟子」であつた（ヨハネ13・23等）。

主イエスは、いつも大事な場面で、ペテロやヤコブと同様に、ヨハネについて来るように命じられ、会堂司の娘の家（マルコ5・37）や、変貌山（マルコ9・2）や、ゲツセマネの園（マルコ14・33）に連れて行かれた。

最後の晩餐の席では、主イエスは、ヨハネがご自身のみ胸によりかかつて話すことをお許しになつた（ヨハネ13・23～25）。雷の子ヨハネへの主のご愛は、終始変わらなかった。

一方、ヨハネも、決して主イエスから離れようとしなかった。主が捕らえられた時も、十字架の側に踏み留まり、主イエスのお言葉に従つて主イエスの母マリヤを引き取つた（ヨハネ19・25～27）。このように、主イエスは、荒削りのヨハネを受け入れ、愛し、ヨハネもまた主を慕つた。主と共にある愛の交わりは、雷の子ヨハネが愛の使徒と

変えられる上での大きな下地となつた。

## 三、互いに愛し合いなさい

聖霊降臨の後、ヨハネは初代教会の指導者として存分に働いた（使徒3、4章）が、神の靈感を受けてヨハネの書簡集をも記した。

それらの書簡の中で顕著なことは、愛についての記述が非常に多いことである。ヨハネは繰り返して「愛する者たちよ」（Ⅰヨハネ2・7等）あるいは「愛する者よ」（Ⅲヨハネ2等）と呼びかけ、互いに愛し合うように勧めている（Ⅰヨハネ3・11、Ⅱヨハネ5等）。

これら愛に満ちた手紙を読むと、これが雷の子と呼ばれた粗野な人物によつて記されたとは、到底考えられない。手紙というものが、筆者の人格を映す鏡のようなものだとするならば、ヨハネの書簡はまさしく、愛の人として造りかえられたヨハネ自身の人格を、鮮やかに映し出しているのである。

このように、ヨハネは主の召命を受けて以来、弟子として主に従い、十字架と復活、ペンテコステを経験し、使徒として、長老として歩む中、御霊によつて愛の人に変えられ、キリストの愛を証する器として豊かに用いられたのである。

## 結論

ボアネルゲ、雷の人、ヨハネは、キリストと出会い、交わり、聖霊を受け、キリストの愛に満たされ、愛の使徒と造り変えられた。聖霊は私たちの内にも、同じく働いてくださることを信じよう。



## 研究資料

(木村)

「おびただしい群衆がついて行った」(7・12節)ところから山に退き、多くの弟子たちの中から特に12人を使徒として任命された記事である。

## テキスト

**13 山に登り** どの山であるかは不明であるが、山は古来より神と交わるための場所であり、神からの啓示が与えられる場所であった(出エジプト19・20、列王上19・8、マルコ6・46、9・2)。並行個所のルカ6・12・16では、「イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた」とある。単なる思い付きではなく、徹夜の祈りの末に、多くの弟子たちの中から、**みこころにかなった者たちを呼び寄せられた**「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた」と言われたとおりである(ヨハネ15・16)。

**14・15 十二人** イスラエルの十二部族創世記35・22c・26、49・3・27に対応する、真の残りの民(レムナント)として選ばれたことを示している。その任命の目的は、口語訳では三つあるように見えるが、原文では二つである。なぜなら、接続詞ヒナで導かれる「置く」と「つかわし」が主動詞であり、「宣教」と「持たせる」は不定詞で、「つかわし」の詳述となっているからである。すなわち、弟子任命の目的の第一は、**彼らを自分のそばに置くため**であり、第二は、**つかわす**ためである。イエスの弟子とは、何よりもまずイエスのみそばにいる者のことである。「弟子(マセーテース)」

とは、学ぶ者、という意味である。イエスのみそばにいて交わり、学びと訓練を受け、それが原動力となつて世に遣わされていくのである(使徒4・20)。十二弟子は、後に使徒とも呼ばれるようになった(6・30)。「使徒(アポストロス)」とは、遣わされた者、という意味である。その遣わされる目的の第一は、**宣教**のためである。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(16・15)と命じられたとおりである。遣わされる目的の第二は、**悪霊を追い出す権威を持たせるため**で、この権威はイエスによつて与えられる。「キリストはしよつとされない」(アウグスティヌス)。「『悪霊を追い出す権威を持たせるため』とあることにも注目したい。ここでなぜ、バランスよく『宣教するため』と並べて『悪霊を追い出すため』と表現していないのか。それは宣教と異なり、悪霊を追い出すことは常時あることではないという事情を反映しているのかもしれない。あるいはまた(あるいは同時に)、宣教以上に悪霊追放においてイエスの権威を強く意識すべきであるからかもしれない」(内田和彦)。任命された弟子たちがその目的どおり行ったことが、6・12・13に記されている。

**16・17** 十二弟子のリストの最初に、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人が登場する。変貌山(9・2・8)にもゲツセマネ(14・32・42)にも、この3人だけは同行を許された。**ペテロ**(岩の意) 本名はヘブル語でシメオン(使徒15・14)、そのギリシャ語音訳が**シモン**。別名ケバ(ヨハネ1・42)は、岩の意のアラム語。十二使徒のリーダー、初代教会の代表的指導者。1・16・20において、ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネの4人は皆漁師で、すでにイエスによつて召されていた。**雷の子** ヤコブとヨハネの激しい気質を表すあだ名(9・38、ルカ9・54)。

**18・19 アンデレ** ペテロの兄弟で(1・16)、最初はバプテスマのヨハネの弟子であった(ヨハネ1・35・42)。**ピリポ** ヨハネ1・43・46、6・5・7、12・20・22、14・8・9。使徒6・5、8・5・40、21・8のピリポは別人である。**バルトロマイ** マタイ10・3とルカ6・14でも「ピリポとバルトロマイ」と記されているので、ピリポに導かれたナタナエルと同一人物ではないか(ヨハネ1・45・50)。**マタイ** 取税人で、「アルパヨの子レビ」(2・14)と同一人物。**トマス** ヨハネ11・16、20・24・28(08年4月6日研究資料参照)。**アルパヨの子ヤコブ** 小ヤコブ(15・40)と同一人物で、イエスの兄弟ヤコブ(6・3)とは別人。**タダイ** 並行個所における記述順より、「ヤコブの子ユダ」と同一人物(ルカ6・16)。**熱心党** 武力によつてローマ帝国を打ち破り、神の国を建設しようと考えていたユダヤ教の一派。**イスカリオテ**(ケリヨテの人、の意)の**ユダ** 弟子たちの会計係で、銀貨30枚でイエスを裏切り、後に自殺した(ヨハネ13・29、12・6、マタイ26・14・16、27・3・5)。

**参考図書** 山口昇「マルコの福音書」『新聖書注解新約1』(いのちのことば社)、内田和彦「新約聖書釈義から説教へ」『福音主義神学 第29号』(日本福音主義神学会)、W.W.Wessel「Mark's The Expositor's Bible Commentary, Vol.1.8 (Zondervan) 他



## 17日 礼拝メッセーじ例

聖書 マルコ3・13～19

タイトル

雷の子

暗唱聖句

彼らにはボアネルゲ、すなわち、  
雷の子という名をつけられた。

目 標

粗削りな弟子たちを受け入れる  
主の愛を感謝しよう。

マルコ3・17

## 導入

(松浦み)

皆さんイエス様のお弟子さんは全部で何人でしたか？(答えを待つ)そう12人でしたね。先週はペテロさんについて学びました。今日はイエス様にあだ名をつけられたお弟子さんのお話をしましょう。

## ボアネルゲ(雷の子)

お弟子さんの名前は、ゼバダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネの二人でした。二人とも漁師で荒くれ者でした。彼らは言葉使いや態度も、まるで雷がピカッと光つてごろごろとどろくように、短気で怒りっぽい性質でした。イエス様は彼らに初めて会った時、彼らの性質を見抜いて、ボアネルゲすなわち「雷の子」という嬉しくないあだ名を付けられました。どうしてこんなあだ名が付けられたのでしょうか。

ある時カペナウムの家でイエス様と弟子たちは色々とお話をしていました。その時、ヨハネがイエス様に「先生、私たちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ました。その人は私についてこなかったのでもめさせました」と言いました。するとイエス様は「やめさせないがよい」と答えられ、むしろ「互いに和らぎなさい」と教えられました。ヨハネの一本気で他の人々を受け入れる心の狭い性格がよくわかりますね。

またある時はこんな過激な発言をしました。それは、イエス様がエルサレムに向かう途中サマリヤ人の村に入ろうとした時のことです。イエス様が来られたというのに、サマリヤの村人たちはイエス様を歓迎しません。そこでやむなく他の村に行つたという出来事がありました。ヤコブとヨハネはむかついたのでしょうか、「イエス様、私たちが天から火を呼び下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言いました。イエス様は振り返って彼らをお叱りになりました。短気で、相手に対してすぐさま憤り、争って相手を打ち負かそうとする性格が表れた場面です。

さらに、彼らは非常に「ジコチュウ」で野心家でした。12人の仲間たちとの共同生活でしたが、その心の中には、いつかイエス様が栄光をお受けになりイスラエルの王となられた時には、自分たちを高い位にしてくださいと、お願いしました。イエス様はこれら一連のヤコブとヨハネの生まれつきの性質を見抜いて、雷の子とあだ名を付けられたのですね。

## イエス様に会って変えられた二人

彼らは生来粗削りの者たちでしたが、イエス様に会って愛され、共に生活するうちに感化を受け、失敗を繰り返しながらも、すばらしい主の弟子と変えられていったのです。彼らは後の時代に、キリストの三弟子と呼ばれるように、イエス様の生涯の大切な場面で、主のお姿に触れていきました。ある時、会堂司やイロの娘が重い病氣にかかり死んでしまいました。その時イエス様は、両親とペテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて亡がらの横たわっているベッドの傍らに立ち、少女の手を取って「少女よ、さあ、起きなさい」と言って生き返

らせなされたところにいました。

またある時、3人は高い山に連れて行かれ、その所で光のように白く輝くイエス様のみ姿を目撃しました。またこれは、彼らにとつて忘れられない恥ずかしい出来事です。イエス様が十字架にかけられる前に、ゲッセマネの園で祈られました。その祈りの時、特別にこの3人を連れて行き、「わたしと一緒に目をさまして祈っていなさい」と、おつしやられたにもかかわらず、ペテロ、ヤコブ、ヨハネは誘惑に負けて眠ってしまうという失敗もしました。でも、彼らはイエス様の愛によって変えられて、主のあかし人としてその生涯が用いられました。

## 人生が180度かわった尼僧

広島に藤井圭子先生という小児科のお医者さんがいます。先生は幼い頃より生きる目的を求めて、医学部で学びつつ、仏教大学で学ぶという求道の後尼僧になりました。しかし、そこでも解決が得られず、また小児科医として過しました。そんなある日、自分の家の隣に教会が建ち、やがて教会に出入りするようになりました。そこで、イエス様の愛に触れ、自分ではどうすることもできなかった心の悩みが、不思議なように解決しました。苦しい修行をしなくても、イエス様が心に住んでくださるとき、冷えた心が愛で溶かされることを体験したのです。家族が次々救われ、職場の方々も救われるようになりました。先生の心は、イエス様の愛で燃えています。このすばらしい愛を宣傳べ伝えるため、日本の各地のみならず外国にも行って証しておられます。人は主の愛で新しくされ、主の業に用いられるのですね。

(教会学校せいか82)



# 聖書 Iヨハネ3・13〜24

## テーマ 愛の使徒

### 序論

(加藤)

ヨハネは使徒、長老として教会を指導したが、その心の内にはいつも、主イエスの姿が映し出されていた。ヨハネは、自らが経験したキリストを、そのままに伝えることをもって、人々を正しく信仰の道に導いた器であった。

### 一、弟子たちに語られた主

ヨハネは、この地上で宣教が進む中で、世が教会を憎むことを知っていた。先にキリストは弟子たちを側において、そのことを告げていた。「しかしあなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである」(ヨハネ15・19)。故にヨハネは、教会の長老として、〈兄弟たちよ。世があなたがたを憎んでも、驚くには及ばない〉(3・13)と、彼らを励ました。

また、ヨハネは、世が彼らを憎むにもかかわらず、決して彼らを憎むことのないようにと、〈あなたがたが知っているとおおり、すべて兄弟を憎む者は人殺し〉(3・15)であるという言葉をもつて、かたく戒めた。この時のヨハネの心には、主イエスのお言葉が思い浮かんでいたのだろう。

「昔の人々に『殺すな。殺す者は裁判を受けねばならない』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあな

たがたに言う。兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない」(マタイ5・21、22)。

このように、使徒ヨハネの心の内には、弟子たちに懇ろにお語りくださる主のお姿が鮮やかに映し出されていた。それ故にヨハネは、自分ではなく、ただ内にいます主のお言葉を語ればよかった。

### 二、十字架にかけられた主

しかしそれ以上に、ヨハネの心に刻み込まれたのは、十字架にかけられたキリスト様のお姿であった。それは、ヨハネが体験した、究極の神の愛の啓示であった。

実際に、ヨハネは十字架のキリストを、間近に目撃した。苦難の中にあるキリストの痛々しいお姿は、ヨハネの心を強く刺し貫いたことであつたろう。しかし、そのキリストの十字架によって、ヨハネは、神の愛を真に悟つたのである。

〈主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである〉。

故にヨハネは、互いに命を捨てるほどの愛をもつて愛し合うことを、主にある兄弟に求める。それは、〈わたしたちのためにいのちを捨てて下さった〉十字架の主に習うことであつた。

このように、ヨハネにとつて、十字架の主を仰ぎ、十字架の主に習い、十字架の愛をもつて互いに自己を与え合うことが、神の心になつた信仰者としての生き方を、全うする道であつた。

### 三、愛の戒めを命じられた主

ヨハネは、愛の戒めを命じられた主ご自身を、証しする使命に生きた使徒であつた。

先に、キリストは律法学者に、最も大切な戒めとして、愛の戒めをお命じになった(マタイ22・34〜40他)。弟子として主イエスの側にいたヨハネは、この戒めを心に留めていたことであろう。

しかし、ヨハネにとつて、キリストの愛の戒めが本当に分かるには、なお、キリストの十字架を体験しなければならなかつた。キリストは十字架の贖いをもつて、ご自分が命じられた愛の戒めを、ヨハネの内に血肉化して刻み込まれたのである。

このように、ご自分の命をもつて、愛の戒めを全うされたキリストによって、ヨハネは真の愛に目覚める使徒となつた。ヨハネにとつての、終生の使命は、キリストが命じられた愛の戒めを自らの身をもつて実践することであつた。

〈子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもつて愛し合うではないか〉。

〈その戒めというのは、神の子イエス・キリストの御名を信じ、わたしたちに命じられたように、互いに愛し合うべきことである〉。

### 結論

キリストと交わり、キリストの十字架を体験し、聖霊に満たされたヨハネは、キリストご自身を証する愛の使徒となつた。私たちもヨハネのようにキリストの愛に生きる者となろう。

## 研究資料

(中島)

## テキスト

13 世が、ねたみと怒りから、信じる者に逆らって立つのは、カインの場合(12)と同様に、世のわがが悪く、信じる者のわがが正しいからである。

14 兄弟を愛しているの この「の」は「移ってきた」にかかって救いの理由を表すのではなく、「知っている」にかかって知識の根拠を示す。兄弟を憎んだカインは死の勢力範囲へと移された。ヨハネはここでその裏返しを言っているのであるが、ことはそう単純ではない。すなわち、兄弟に対して愛を示すことは、永遠の命を所有することの「証拠」ではあっても「根拠」ではないのである。

15 憎悪とは相手がそこにいなければいいのという願望である。ヨハネはその憎しみの本性(マタイ5:21以下参照)をはっきりと示すことによって、私たちに警鐘を鳴らしている。

16 主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった ヨハネはこの至高の愛を示すことによって愛の定義に代える。知った 完了形。私たちが福音に応答した時から始まる、真の愛に関する永続的な知識を表す。キリストの犠牲は、私たちがその愛を知的に知るだけでは十分ではない。私たちが、その贖い(あがなひ)がもたらす命の恩恵にあずかり、それが他ならぬ私たちのためであったと実感することが大切なのである。わたしたちも…捨てるべきである イエスの愛は、文字どおりの模範、すなわち踏み従うべき足跡である。ヨハネは、具体的に迫害のことを念頭に置いているのかも知れないが、より一般的に、私たちが他者の必要に応え

る上で、どこまで自己放棄すべきかという限界について語っていると考えるのが妥当であろう。

17 クリスチャンの愛は、必要とする人に与える愛である。私たちが持つているのに、持つていない人を助けられないならば、私たちが真に神の子であることの本質的な証拠を欠いていることになる。

18 どれだけ口先では敬虔なことを語っても、もし行いと真実が伴わなければ、それは偽善とのしりを免れない(ヤコブ2:14以下参照)。

19 それによって 互いに愛せよとの命令に従っているかどうか、私たちが真理に属していることを確かめる「基準」となる。わかる 未来形。自らの帰属を継続的に確認するというよりはむしろ、信仰の危機が訪れた時のことがヨハネの念頭にあるようである。そのような時に私たちは、先の「基準」に基づいて自己吟味すればよい。けれどもそれをして、自分は神の基準に足りないことを知るだけで、本来ならば、とても 神のみまえに心を安んじて などいられないはずである。

20 心に責められるようなことがあっても 「私たちが神の前に罪深さを感じていても、なお嘆願を携えて神に近づくことができるか」とヨハネは暗に問いかける。神はわたしたちの心よりも大いなるかたであって、すべてをこ存じだからである

どれほどその人の良心がその人をとがめようと、その人が赦しを求め、自らを神のあわれみの前に投げ出すならば、神はその人を受けいれ、赦してください。これが先の問いへの回答である。

21 さらに、もし私たちが、神がどのようなお方かを知ることによって心を安んじることができれば、私たちの心はもはや私たちを責めること

はなくなる。そして私たちは、はばかることなく大胆に神に近づくことができるのである。

22 手紙の最終章に「何事でも神の御旨に従って願ひ求めるなら」(5:14)とあるように、私たちの祈りは神の御旨と調和してはなくてはならない。神が祈りを聞かれるのは、私たちが神に従ったことに対する報いではない。ここでヨハネが思い描いているのは、愛に基づいた父と子どもたちとの関係である。私たちがそのような関係に、より深く入れば入るほど、私たちの願いは、ますます神のみ心に沿ったものとなるのである。

23 その戒め 単数形。イエスの御名を信じるのと、互いに愛し合うこととの、二つが合わさって一つの戒めなのである。よって御名を信じる信仰と隣人愛とのいずれか一つでは不十分である。

24 ここでの 戒め は複数形である。前節で言われた戒め(単数形)を、私たちが具体的に実行していくときに、その形は多様性に富んだものとなる。この神の戒めに従うときに、私たちが神におり、神もまた私たちの内にいますという、素晴らしい恵みが実現するのである。御霊によって知る もし私たちが、自分の不完全な服従を頼みとするならば、私たちは神におると思えなくなる時もある。しかしあわれみ深い神は、御霊によって、ご自身が私たちと共におられることを知らせてくださるのである。

参考図書 Marshall, I. H., The Epistles of John (NICNT, Erdmans),  
Bruce, F. F., The Gospel & Epistles of John (Erdmans),  
The IVP Bible Background Commentary: NT (IVP).

聖書	ヨハネ3・13〜24
タイトル	愛の使徒
暗唱聖句	主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。 ヨハネ3・16
目 標	まことの愛を知ることのできる十字架を仰ごう。

## 導入

(松浦み)

先週学んだヨハネについてさらに学びます。ヨハネはイエス様からあんまり嬉しくないあだ名を付けられましたね。覚えていますか。そう、雷の子でしたね。短気ですぐにかっかとなるヨハネでしたが、イエス様に出会ってからはずっかり変えられました。その様子を学びましょう。

## 十字架を目撃した唯一の弟子

イエス様がイスカリオテのユダの裏切りによって十字架につけられた時、ペテロや他の10人の弟子たちは蜘蛛の子を散らすように恐れて逃げました。しかし、ヨハネだけは十字架の下でイエス様のお姿を見つめて続けていました。あの優しいイエス様がなぜ？ヨハネの心にはイエス様と共に過した日々が次々と思い出されてきました。その時です！「父よ彼らをおゆるし下さい。彼らは何をしているのかわからずにいるのです」とイエス様が祈られました。「ああ、イエス様はこの苦しみと痛みの中で天のお父様にとりなしてくださいっているのだ！」と、言葉に表せない感謝と感動でヨハネの心は震えました。

イエス様の十字架のお苦しみは、あなたや私、全世界の人々の罪の身代わりのためだったのです。

ヨハネはイエス様の愛を心に深く刻み込みました。

## ヨハネの書いた手紙3通

ヨハネの書いた手紙が聖書の中に3通収録されています。ヨハネはこの手紙の中で「神様が私たちを愛してくださるのだから、互いに愛し合いなさい」と何回も勧めています。今日開いている手紙の中に「主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである」という聖句があります。さらに「子たちよ、わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか」と、具体的に、実生活を通して愛し合うことを教え、それによって、私たちが本当に神様と共に生きる者であるかが証されると言っています。ヨハネはこのように口を開く度に、イエス様は私たちのために十字架にかかっているのを捨ててくださった。だから、互いに愛し合おうではないか」と語りつづけてました。いつしか人々はヨハネのことを「愛の使徒」と呼ぶようになりました。なんとすばらしいことでしょう。

## 神の愛に生きる人

M教会のIさんは、85歳のおばあちゃんです。彼女は20代後半の時、結核の手術を受け、左肺を全部摘出し、片肺のまま60年近く生きてきました。へえー、そんなに生きられるの？とびっくりするような体ですが、神様を信じるIさんは、今でも明るく元気に毎日を過ごしています。

なぜ、片肺になったのでしょうか。これにはわけがあります。彼女が3才の時に震災があり、実母と7才の姉が即死しました。それは阪神大震災と

かわらない大きな地震でした。その時、父親と4人の子どもが残されましたが、突然のことで途方にくれていました。

そんなある日、新しいお母さんが来てくれたのです。その人はクリスチャンで人づてに母親を亡くして困っている子たちがいることを聞き、「主が私のために命を捨ててくださったのだから、私も他の人のために命を捨てるべきだ。これこそ、神様が私に求めておられる事だ」と決心してお嫁に来てくれたのです。村始まって以来のクリスチャンでした。そんな母に育てられたIさんは、自分も結婚する時、同じ言葉が与えられて、結核の病み上がり青年と結婚しました。しばらくして案の定、夫の結核が再発し、しかもIさんに病気が移ったのです。それでIさんは手術を受け片肺を全摘出することになったのです。別々の病院で長く療養生活をしていましたが、癒され、その後は元気に仕事もし、今は静かな老後を送っています。そんな体になっても弱音を吐くことなく、病身な夫を最後まで励まし支えつづけてました。その夫もIさんの主にある愛に支えられ、82才の長寿で天国に旅立ちました。

主の愛を実践することはたやすいことではありません。忍耐が必要です。皆さんは、どんなふう

にイエス様の愛に生きる人になれるのでしょうか。よく祈ってください。「神様、私を導いてください。イエス様の愛に生きる者にしてください」とね。きっとあなたにしかできない素晴らしいことを、神様はさせてくださることでしょう。

♪神のお子のイエスさま♪

(ふくいん子どもさんびか74)



## 聖書 ヨハネ1・35〜42 テーマ アンデレ

### 序論

(加藤)

今週は、十二使徒の一人アンデレについて学びたい。ペテロ、ヨハネ、ヤコブと言った弟子たちほどに、聖書に登場することのないアンデレだが、主のみ側で忠実に仕えた、特選の器であった。

### 一、主について行ったアンデレ

ヨハネによる福音書によると、シモン・ペテロの兄弟アンデレは、洗礼者ヨハネの弟子であった。ある時、洗礼者ヨハネの二人の弟子（一人はアンデレ）は、洗礼者ヨハネが（見よ、神の小羊）と主イエスについて言うのを聞き、主イエスの後について行った。ふり返って、彼らをご覧になった主イエスは、彼らとの問答の後、（きてごらんさい）と彼らを招かれ、その結果、彼らは主イエスの所に泊まることになった。

このような、洗礼者ヨハネの言葉に強く心動かされての、アンデレたちの行為であったが、真理を求める彼らの強い思いが伝わってくる。それと同時に、ここでアンデレたちが、福音書全体の中で担った進行的役割についても忘れてはならない。彼らの師である洗礼者ヨハネは、「光についてであかし」（ヨハネ1・6〜8）する者であった。その言葉のごとくヨハネ1章の初めには、洗礼者ヨハネ自身が直接主イエスを証していたが（1・19〜34）、次第に主イエスの証の主体は、弟子たちに移行するのである（1・35〜51）。アンデレはその橋

渡し役を担った。

### 二、主の下に導いたアンデレ

ヨハネ1章40節をもって、初めてアンデレの名前がシモン・ペテロの兄弟として明らかにされる。そして主イエスの所に宿泊したアンデレは、翌日、彼の兄弟シモンに（わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った）と告げるのである。ここで重要なことは、アンデレが告白した主イエスへの確信は、洗礼者ヨハネの証を起因としつつも、何よりアンデレ自身が主との交わりによって与えられたと言うことである。即ち、主が（きてごらんさい）と言われたとおりに、アンデレは直接主イエスの下にきて、主イエスがキリストであることをその目で見て知ったのである。これは4章のサマリヤの女の場面にも重なっている。4章では、1章の時のように主イエスからではなく、サマリヤの女の口から、「さあ、見にきてごらんさい」（4・29）と、人々に主イエスの所に行くように勧めがなされる。その結果、主イエスと交わった人々は、「自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかった」（4・42）と告白するのである。私たちに大切なことは、私たちも主イエスの所に行つて、主のお姿を見、お声を聞き、主と深く交わることである。

アンデレは、主をキリストと告白するだけでなく、シモンを主イエスの下に連れて行った。これは主との交わりをいただいたアンデレの必然的行為である。アンデレによって主イエスの下に連れられた兄弟シモンは、ケパ（アラム語、訳せばペ

テロ）と呼ばれ、新しい人生を方向付けられた。このようにアンデレは魂をイエスの下に導く最初の働き人となった。

### 三、信頼された使徒アンデレ

主の弟子となったアンデレは、その誠実な働きのゆえに他の弟子たちにも信頼された。

その一つのエピソードは、ヨハネ6章の5千人の給食である。アンデレはパンと魚を持っている子どもを主の前に連れて来る。アンデレの行為は、決して確信をもってなされたものではないにしろ、主の前に子どもを連れて来る労を怠らなかつたアンデレの誠実さが伝わってくる。

もう一つのエピソードは、ヨハネ12章に記されている。エルサレムに入城された主イエスとの面会を求めて、数人のギリシヤ人がピリポにとりなしを頼んだ。そこでピリポは同じベツサイダ出身のアンデレの所に行つて事情を話し、アンデレに同伴してもらつて主イエスの所に行つて面会を頼んだ（ヨハネ12・20〜22）。恐らくピリポはアンデレにこの次第を話し、助言を求め、同伴してもらつたのであろう。ピリポに信頼され、取次ぎを頼まれたアンデレの誠実な人柄が浮かび上がってくる。

このようにアンデレは決してペテロやヨハネのように中心的な働きをすることはなかったが、信仰と誠実な人格をもって奉仕に励んだ働き人であった。

### 結論

アンデレは、キリストを信じ、人々をキリストの下に導いた。私たちも忠実に主に仕えよう。

## 研究資料

(木村)

アンデレたちがイエスに初めて出会った場面であって、弟子として正式に召されるのは後のことである(マルコ1・16〜20、3・13〜19)。

## テキスト

**35 その翌日** 29節にも同語があるので、19節の出来事から3日目のことである。**ヨハネ** バプテスマのヨハネのこと。**ふたりの弟子たち** 一人はアンデレであり(40節)、もう一人は著者ヨハネである(13・23「イエスの愛しておられた者」、19・26「愛弟子」、20・2、21・7、20)。**目をとめて** バプテスマのヨハネがイエスの姿を見るのはこれが3回目である(1回目はイエスにバプテスマを授けたとき、2回目は29節)。そしてこれが最後となった。

**36 見よ** ヨハネお気に入りの用語(1・29、36、47、7・26、19・4、5、14他)。命令法であるが、実質は感嘆詞である。**神の小羊** この表現の背後には、過越の小羊(出エジプト12・3〜7、ヨハネ19・36、1コリント5・7)と苦難のしもべ僕(イザヤ52・15〜53・12、エレミヤ11・19、使徒8・32)があったと思われる。すなわち、イエスは「世の罪」(29節)を一身に背負われた。「ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように」「黙々と十字架に向かい、「彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだ。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ」(イザヤ53・7、4〜5)。過越の小羊の血によってイスラエルがエジプトの奴隷状態から解放されたように。**神の小羊** イエスの十字架の血によ

て全人類が罪と滅びから解放されるという救いが完成したのである。さらには、十字架の死から復活され、悪魔に完全に勝利された小羊を暗示しているのであろう(黙示録5・6、12、7・17、13・8、17・14、19・7、9、21・22〜23、22・1〜3)。アベルの小羊の血は一個人を贖い(創世記4・4)、過越の小羊の血は一家族を贖い(出エジプト12・3)、贖罪の日のやぎの血は一族を贖ったが(レビ16・15〜16)、神の小羊キリストの十字架の血は全人類の罪を贖った。

**37 ついて行った** (アコルセオー) 従う、の意。師ヨハネの言葉を聞いた二人は、ヨハネの弟子からイエスの弟子に鞍替えした。そのことをヨハネは妬むどころか、むしろ「彼は必ず栄え、わたしは衰える」と言って喜んだ(3・30)。

**38 何か願いがあるのか** 直訳は「あなたがたは何を願うのか」。公生涯後、最初に記されたイエスの言葉である。それ以前のイエスの言葉はルカ2・49のみ。**ラビ** ヘブル語(アラム語)で、私の先生、の意。ヨハネはしばしばヘブル語(アラム語)に説明を加えている(1・38、41、42、4・25、9・7他)。**どこにおとまりのですか** イエスと静かに語り合う場所を彼らは願い求めていた。そうすることによって、師の言葉の真偽を確かめようとしたのである。**おとまり** (メノー) は、とどまる、の意。1・32、33の「とどまる」、第15章で多用される「つながつて」も同語。

**39 きてごらんさい。そうしたらわかるだろう** 丁寧な招きと明確な約束の言葉である。**時は午後四時ごろであった** 直訳は「第十時」で、ユダヤ式時刻表示では**午後四時** となる。ヨハネにとっ

て、キリストとの出会いはあまりにも感動的だったのであろう。まるで昨日の出来事のように時刻まで正確に記憶していた。ヨハネが本書を執筆したのは、この時から約60年後であるが、彼はこのことを生涯忘れることができなかったのであろう。

**41 出会って** (ヒューリスコー) 発見する、わかる、の意。新改訳は「見つけて」。アンデレは何をするよりもまず 兄弟シモン・ペテロを捜しに行ったのである。キリストに出会った者の舌は黙っていない。その恵みを何とか分かち合おうとするものである。**メシヤ** ヘブル語(アラム語)で、油注がれた者、の意。そのギリシャ語訳が「クリストス(キリスト)」。旧約時代、王(サムエル上16・13)、大祭司(出エジプト29・7)、預言者(列王上19・16)の任職の際、油を注がれた。イエスこそ真の王、真の大祭司、真の預言者である。新約聖書中、この語が用いられるのはこと4・25のみで、他では「キリスト」「主」が用いられる。イエスと寝食を共にして交わり、そのご人格に触れた結果、このお方こそ旧約聖書に約束されていたメシヤであることを確信したのである。

**42 目をとめて** 熱心な凝視(36節、ルカ22・61)。**ケバ** 岩の意のアラム語で、そのギリシャ語訳が**ペテロ**。やがて岩のような存在となるのを見通してつけられた名前であるが、イエスが**ペテロ** という名前で呼ばれたのは、ルカ22・34の一度のみ。**参考図書** 村瀬俊夫「ヨハネの福音書」『新聖書注解 新約1』(3のちのち社)・D.A. Carson『The Gospel According to John』(Eerdmans) 他

聖書 ヨハネ1・35〜42  
 タイトル アンデレ  
 暗唱聖句 シモンをイエスのもとにつれてきた。  
 ヨハネ1・42  
 目 標 アンデレのように兄弟やお友だちをつれてこよう。

## 導入

皆さんが初めて教会に来た時のことを思い出してください。両親と一緒に来た人や、友だちに誘われてきた人もいるでしょう。今日はイエス様の弟子の一人のアンデレのことを学びましょう。

## イエス様に出会ったアンデレ

イエス様に洗礼を受けた人はバプテスマのヨハネという人でした。この人はヨルダン川のほとりで「もうすぐ、救い主が来られるから罪を悔い改めて救い主を迎える準備をしなさい」と、人々にメッセージを語っていました。アンデレはこの人の弟子でした。ある日、バプテスマのヨハネはイエス様が歩いておられるのに目をとめ、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」とイエス様を指し示しました。それを耳にした時、アンデレはもう一人の弟子と一緒にイエス様について行きました。バプテスマのヨハネが前から「わたしのあとに来るかたは、わたしよりすぐれたかたである」と口癖のように語っていたので、アンデレはどんな方が来てくださるのだろうとワクワク楽しみに待っていたからです。ついで行くと、イエス様は振り向かれて「何か願いがあるのか」と言われたので「先生、今日はどこにお泊りになるのですか」と尋ね

ました。二人はもつとイエス様のことが知りたかったのです。するとイエス様は「きてごらんなさい、そうしたらわかるだろう」と言われたので、彼らも同じ所に泊まり、イエス様からいろいろとお話を聞きました。交わっているうちに、イエス様が長い間、待ち望んでいた救い主だということがよくわかりました。アンデレは心の底から湧きあがってくる喜びでちぎれそうでした。

## 兄弟をイエス様の下に

このすばらしい知らせを誰かに伝えたいわけにはいきません。次の日、さっそくアンデレは兄弟シモンに出会って言いました。「私たちはメシヤに会ったんだ!」「本当か!」「とにかく来て見てよ。ぼくと一緒にイエス様の下に行こうよ」「よっしゃ」。シモンとアンデレはイエス様の下に走りました。「シモン、この方が、イエス様だよ」とイエス様の前に立たせました。すると、イエス様はシモンをじつと見つめられて「わたしは、あなたをケパと呼ぶことにする」と言われました。その時以来、ペテロは漁師の仕事を辞めて、イエス様と共に歩むようになりました。イエス様がシモンに下さった新しいペテロという名は、岩という意味があります。後にシモンはペテロという名にふさわしく、岩のような強い信仰をもつて、イエス様のために働く人になりました。でも、ペテロのすばらしい働きも、アンデレがイエス様のところに連れていかなかったとしたらありえなかったのですから、アンデレは本当に大切な働きと役目を果たしたのですね。

## 友だちに連れられて教会に来た人

N教会にFさんという知的障害者グループホームで働く方がおられます。彼はもと学童保育の指

導員でした。(学童保育とは共働きの家庭の子どもを下校時から夕方まで預かり安全に過ごさせる働きです)。そこにYさんが就職してきました。彼女はどことなく他の人と違う雰囲気を持っていて、話を聞いてみるとクリスチャンだということです。彼は彼女のいう教会とか聖書に興味を持ち、一度教会に連れて行って欲しいと頼みました。ある日、Yさんに連れられて教会にやって来ました。初めて触れる教会の温かい雰囲気につっかり捕えられて教会に通うようになりました。

ある時、本田弘慈先生の特別伝道集会で、「人間の愛には限界がある。神の愛こそが人を生かすものである。あなたのために十字架にかかって死んでくださったイエス様の愛を受け入れようではないか」とのメッセージに触れ、主を信じる者になりました。やがてYさんと結婚し、クリスチャンホームを築きました。その後、転職して今は知的障害者のグループホームでキリストの愛を実践しながら働いておられます。教会では役員として忠実な働きをされ、教会にとってなくてはならない存在として活躍しておられます。もし、Yさんが教会に行ったら何にもならないわ、と思つて教会に連れて来なかったら今のFさんはいないでしょう。お母さんも洗礼を受けられ家族の中に救いが及んでいます。

あなたもお友だちや家族にアンデレのように、イエス様のことを教えてあげましょう。イエス様はお喜びになり、すばらしい祝福を与えてくださることでしょう。

♪イエス様にみちびこう♪

(ふくいん子どもさんびか?)





聖書 ヨシユア24・14～18

テーマ ヨシユア ラリーデー

## 序論

(金井)

教会では9月の第1主日を「振起日」と呼んでいる。これは、夏の終わりに、もう一度信仰を奮い起こして、収穫の秋に備える日である。今月は旧約時代の神のしもべたちの生涯を学んでいくが、まず今日は、信仰の勇者ヨシユアの生涯を学び、主に、私たちの心を振るい起こしていただきたい。

## 一、モーセの従者ヨシユア

ヨシユアはエフライム族ヌンの子で、モーセに従ってエジプトを脱出した。彼は最初ホセア(「救い」の意)という名であったが、モーセによってヨシユア(「主は救い」の意)と名づけられた(民数記13・16)。これはイエス(ギリシャ語名)と同じ名(ヘブル語名)である(マタイ1・21)。

ヨシユアは、荒野で過ごした40年の間、モーセの従者として忠実に仕え続けた。

アマレクとの戦いにおいては、ヨシユアはイスラエル軍を率いて戦い、敵を撃破した(出エジプト17・8～14)。ヨシユアは勇敢な將軍であった。モーセがシナイ山で主から律法を授かった時、ヨシユアも共に山に登った(出エジプト24・13)。シナイ山から下った後、モーセが会見の幕屋に入り、主がモーセに語っておられる間、ヨシユアは会見の幕屋を離れず、聖所を守った(出エジプト33・11)。ヨシユアは、モーセのそばにあって、主の臨在に触れて、敬虔を学んだのである。

## 二、約束の地の征服者ヨシユア

モーセがカナンの地を探るために12人の斥候を派遣した時、ヨシユアもその中にいた。偵察の後、10人は強力な敵を恐れて、進攻は不可能だと報告した。しかし、ヨシユアとカレブは、「もし、主が良しとされるならば、…それをわたしたちにくださるでしょう」(民数記14・8)と言って、進攻すべきだと全会衆に訴えた。前者は主のみにかなわず、疫病にかかって荒野で死んだ。後者はみ心にかかって、約束の地を得ることになる。

40年の荒野の旅を終えるにあたって、主はヨシユアを召して、会見の幕屋で彼に言われた、「あなたはイスラエルの人々をわたしが彼らに誓った地に導き入れなければならない。それゆえ強くかつ勇ましくあれ。わたしはあなたと共にいるであろう」(申命記31・23)。モーセはヨシユアの上に手を置いて、彼を後継者とした。ヨシユアは知恵の霊に満ちた人であった(申命記34・9)。

モーセが死んだ後、ヨシユアは、イスラエルの民を率いてヨルダン川を渡り、カナンの地に進出した。彼らは多くの戦いを経験したが、「イスラエルの神、主がイスラエルのために戦われたので」(ヨシユア10・42)、ヨシユアはカナン全土を征服することができた。そして、ヨシユアはこの約束の地を、イスラエルの諸部族に分割して与えた。

## 三、信仰の指導者ヨシユア

それから久しく時が経ち、「ヨシユアも年が進んで老いた」(23・1)。ヨシユアは、自らの死期の近いことを自覚して、イスラエルの全部族をシケ

ムに集め、彼らに主の言葉を語った(24・2)。

アブラハムの召命に始まって、カナンへの移住、エジプトへの避難、出エジプト、荒野の生活、カナンの征服、そして今日の安住に至るまで、イスラエルの歩みは全面的に、主の導きと働きによるものである。この歴史を回顧することによって、イスラエルの民は、主に贖われて、主の所有とされたことを自覚しなければならない。そして、彼らは、主がイスラエルにお与えになった契約を確認して、これから後も主の律法に従って、主のみに仕えることを誓約しなければならないのである。

「あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々、すなわちエジプトの神々を慕い、礼拝したために、あなたがたの親世代は荒野で死んだではないか! (いまあなたがたの住む地のアモリびとの神々に) あなたがたは心惹かれ、主を裏切るだろう! ヨシユアは万感の思いを込めて警告し、決断を迫る。「あなたがたの仕える者を、きよう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」。この老聖徒の迫力に押されて、民も同調した。「われわれも主に仕えます。主はわれわれの神だからです」。一人の聖徒の存在は重い。

## 結論

ヨシユアは、モーセに仕えて真の信仰を学び、一生、主に仕えた。キリスト者の生涯は仕える道である。ヨシユアは、「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」と言った。家族が共に主に仕えることは、特に幸いである。私たちも家族が救われ、共に信仰が燃やされるように、祈り励もう!



## 研究資料

(井上)

「わたしのしもべモーセは死んだ。それゆえ、今あなたと、このすべての民とは、共に立つて、このヨルダンを渡り、わたしがイスラエルの人々に与える地に行きなさい」(ヨシユア1・2)。出エジプトの偉大な指導者モーセの後継者としてヨシユア(主は救いの意、ギリシャ語の音訳がイエス・イス、即ちイエスである)は立てられた。ヨシユアは若い日からモーセの従者として仕え、信仰もリーダーシップもモーセから実地にならっている。ヨシユア記以前の姿は、アマレクと戦い(出エジプト17章参照)、モーセと共に十戒授与のシナイ山に登り(出エジプト24・13)、会見の幕屋で仕え(出エジプト33・11)、エルダテとメダデの預言に抗議し(民数記11・26以下)、カナンの地への斥候の任と信仰の表明(民数記13・14章参照)に見られる。何れも重要な場面である。モーセ死後の働きのためにヨシユアを主がすでに選ばれ、導かれ、備えられていた。イスラエルの民を率いて、ヨルダン川を渡り、カナンの地を攻め取る重責に対して、主は共にあることを強調され、ヨシユアに励ましを与えられた(ヨシユア記1章参照)。良く戦い抜き、カナン征服と、領土分割の使命を果たしたヨシユアが、次の時代を担うカナン定着の民へ、惜別として信仰の継承を語ったのが本章となる。

## テキスト

**14 それゆえ** ヨシユアは前節までに、主が先祖アブラハムに始まり、いかに真実にイスラエルの民を導かれたかを語った。特に出エジプト以降、カナ

ン征服はイスラエルの民の力ではなく、主の力によつてであることを証した。主がなされた恵みを思い起こせという意味である。**仕える**(アバド、行なうなどの他意もある)14・15節中7回も頻出する。ヨシユアは仕えるべき神はただ一人であるが、もし本意でないなら他の神々を選ぶこともできると語った。**川の向こう** アブラハムの故郷ユーフラテス川の向こうメソポタミヤを指し、バビロンのマルドゥク神に代表される多神教の地である。**エジプト** イスラエルの民が寄留の40年を過ごしたエジプトは3千年もの歴史を持ち、宗教史も多岐にわたるが、太陽神ラーを始めとする多神教である。

**15 アモリびとの神々** アモリ人からペリシテ人に継承された偶像崇拜がダゴンである。士師サムソンが悲劇的な最後を遂げたのはダゴンの祭事の時であった(士師16・23)。**わたしとわたしの家とは共に主に仕えます** ヨシユアは唯一であり最高の道を民に示した。自らが率先して模範を示すことで、民が主を選ぶように促した。信仰は個人に始まるが、家族・周囲に広がる主の恵みであり、約束である(使徒16・31)。アブラハムが捨てたメソポタミヤの神々、イスラエルに敗れたエジプトやアモリ人の神々を選ぶことがいかに愚かであるかは、言うまでもないことである。

**16 主を捨てて、他の神々に仕えるなど、われわれは決していたしません** 文中の決して(チャリア、強い決意を表している。新改訳は「絶対に」)民は主にのみ仕える信仰告白をなした。

**17 主を信じ従うことの理由として、主がこれまでになされた事実が物語られている。奴隷の家から**

**導き上り** エジプトでは厳しい強制労働だけでは

なく民族絶滅の危機にあった。**大いなるしるしを行い** エジプトのすべての初めて生まれた子どもが打たれた過越しにいたるまでに10回の奇跡をモーセは行い、紅海が分かれて海底を歩いて渡るなどモーセの時代は数多くのしるしがなされた。**すべての道で守り** 荒野をさすらった40年間は、主食のマナも水も天より備えられ、着物も古びず、足の靴も古びることはなかった(申命記29・5)。**すべての国民の中でわれわれを守られた** アマレクとの戦い(出エジプト17・8以下)での勝利、アモリ人の王シホンとオグを打ち破った(民数記21章参照)こと、バラク、バラムの惑わし(民数記22・24章参照)など、主は戦いにも、策略にも勝利を与えられた。

**18 アモリびとなど、すべての民を、われわれの前から追い払われました** ヨシユアを指導者として、カナン諸族との戦いすべてに勝利したことを意味する。**それゆえ、われわれも主に仕えます。主はわれわれの神だからです** ヨシユアは15節で個人と家族の信仰を表明したが、イスラエルの民は民族としての信仰を表した。本章後半には、公のものとして契約が結ばれ、あかしの石が立てられたことが記されている。そしてヨシユアの召天後、この書は閉じられる。

**参考図書** Keil-Delitzsch「Commentary on The Old Testament vol.2 (Erdmans) M.H. Woudstra「The Book of Joshua」The New International Commentary on The Old Testament (Erdmans) 他

聖書 ヨシユア 24・14～18  
 タイトル ヨシユア  
 暗唱聖句 わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。 ヨシユア 24・15  
 目 標 家族ぐるみで主に仕えるしもべとなろう。

## 導入

(木村純)

去年の夏期学校でも学びましたが、偉大な指導者であったモーセの後に新リーダーとして神様に選ばれたのがヨシユアです。ヨシユアはイスラエルの人々に神様が約束された地を得させるために戦い続けた人でした。そのヨシユアも年をとり、老人となりました。ヨシユアはイスラエルの人々を集め、皆に最後のメッセージを語りました。

## きょう選びなさい

ヨシユアはイスラエルの人々に「あなたがたは主を恐れ、まごころと、真実とをもつて主に仕えなさい。もしあなたがたが主に仕えることを、こころよしとしないならば、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、いまあなたがたの住む地のアモリ人の神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい」と語りました。イスラエルのまことの神を信じて従うか、外国の異なる神々(偶像)を信じてそれに仕えるか、それはあなたがたの自由です。どちらを信じて仕えるのか、自分で今日選びなさいと迫ったのです。私たちが住んでいる日本の国の中にもいろいろな神がありますね。石や木で造ったものを神とし

て拝んだり、動物や人間を神や仏として拝んだり、異なる神々がたくさんあります。でも皆さんは教会に来て、聖書を通して、すべてのものを造られ、生きておられる本当の神様のことを聞いていますね。何を信じるのかは皆さんの自由なのです。神様は、ご自分を信じることを強いるお方ではありません。私たち一人一人に自分で選べる自由を与えるほど、大切に思っていてくださるのです。

## 共に主に仕えます

イスラエルの民にそのように語った後、ヨシユアは「ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」と告白しました。仕えるというのは礼拝するという意味です。まことの神様を礼拝するところから、神様に仕え、奉仕する喜びが生れてきます。ですから、ヨシユアは「わたしとわたしの家族は皆で主を礼拝し、このお方にお仕えします」と告白したのです。それを聞いたイスラエルの民は「主を捨てて、他の神に仕えるなど、われわれは決していたしません。われわれも主に仕えます。主はわれわれの神だからです」と、自分たちもまた主にお仕えしますと答えました。

皆さんは今、一人で教会に来ていますか。まことの神様を礼拝するために日曜日でも早起きして教会に来ていてる皆さんを、イエス様はどんなに喜んでいてくださるのでしょうか。そして皆さんの家族がまことの神様を信じて礼拝する家族となるように、神様は皆さんをきつと用いてくださることでしょう。あなただけでなく家族もお友だちも、皆でまことの神様を礼拝し、お仕えできたらしばらしいですね。

## 神の恵みに対する応答

ヨシユアやイスラエルの民は、なぜこのように告白することができたのでしょうか。彼らは、自分たちを選び、ここまで導いてくださった神様の数々の恵みを思い返したのです。エジプトの地で奴隷だった自分たちをそこから連れ出し、神様の不思議な力で紅海を渡らせ、荒野を旅するときも守ってくださった神様。多くの先住民との戦いに勝利を得させ、約束の地を与えてくださった神様。その一つ一つを振り返ってみたときに、自分たちに対する神様のご愛と恵みと真実とを深く覚えたのです。それゆえに私たちは主に仕えますと告白したのです。皆さんにとつて神様はどのようなお方でしょうか。困っているとき、悩むとき、お祈りすると答えてくださるお方、私の罪のために大切な独り子であるイエス様を身代わりとして十字架にかけるほどに私を愛してくださるお方、甦って今も生きておられ、私といつも共にいてくださるお方、約束してくださったことを必ず成し遂げてくださる真実なお方。神様のご愛と恵みと真実を思うとき、私たちもヨシユアのように「わたしとわたしの家とは共に主を礼拝し、主にお仕えします」と喜んで告白することができそうです。

## まとめ

ある牧師先生の毎朝の祈りの言葉です。「主よ、今日もあなたを信じます。主よ、今日もあなたを愛します。主よ、今日もあなたに従います」。私たち、私たちの家族も一緒に主を礼拝し、主を愛して、お仕えしていきましょう。  
 ♪すべてはイエスさまのもの♪

(ふくいんこどもさんびか68)



# 聖書 ルツ1・15-18 テーマ ルツ 敬老の日

## 序論

(金井)

明日は敬老の日である。人間の愛の関係は多種多様であり、聖書の人間学は広く深い。今回は、しゅうとめに尽くしたことによって、主なる神から祝福を受けたルツの生涯から学びたい。

## 一、しゅうとめに尽くしたルツ

さばきづかさ(土師)がイスラエルを治めていた時代に、飢饉きんが起こった。そのため、ユダのベツレヘムに住んでいた(エリメレク)は、妻(ナオミ)と二人の息子を連れて、(モアブ)の地に移住した。モアブ人はアブラハムのおいロトの子孫であり(創世記19・37)、死海の東側を領有していた。その地でエリメレクは死んだ。

彼の二人の息子は(モアブ)の女を妻に迎えた。その嫁の名は(オルパ)と(ルツ)である。(彼らはそこに十年ほど住んでいたが)、二人の息子もその地で死んだ。こうして、ナオミと二人の嫁だけが残されてしまったのである。古代社会において、やもめの社会的立場は非常に弱く、夫や息子のいない婦人は、たちまち経済的な困窮に陥った。

その頃、ナオミは、ユダの地の食糧事情が良くなったことを聞いた。そこでナオミは(ふるさとへ帰ろうとした)。最初、二人の嫁も同行したが、ナオミは彼女たちに言った、(あなたがたは、それぞれ自分の母の家に帰って行きなさい。……どうぞ、主があなたがたに夫を与え、夫の家で、それぞれ

身の落ち着き所を得させられるように)。二人の嫁は泣いて、同行することをナオミに願ったが、ナオミの説得によってオルパは実家に帰った。

しかし、(ルツはしゅうとめを離れなかった)。  
ナオミは再三説得したが、ルツは頑がんとして意志を変えず、こう言った、(あなたが捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます)。二人の嫁はそれまで共にしゅうとめに(親切をつくした)。この後もルツはナオミに尽くし続けたのである(2・11、23)。オルパは(自分の民と自分の神々のもとへ帰って)行ったが、ルツは(自分の父母と生れた国を離れて、かつて知らなかった民のところに来た)(2・11)。ルツは(イスラエルの神、主の(翼の下に身を寄せようとして)、ユダの地に移住したのである(2・12)。

## 二、しゅうとめの苦しみを共有したルツ

二人がベツレヘムに着いたとき、町の女たちは「これはナオミですか」と言って驚いた。「ナオミ(楽しみ)」という名にふさわしい快活な女性であった彼女が、「マラ(苦しみ)」と呼んでほしいと自ら言うほどに、変わり果てていたのである(1・19、21)。この頃ナオミは、夫と息子たちを失ったことで、失意のどん底にあった。信仰的にも、ひどく落ち込んだ状態であった。しかし、ルツが一緒に帰ってきて、共にいることが、彼女には大き

な慰めとなった。ナオミとルツは、喪失感と困窮を共有しつつ、同じ信仰をもって希望を抱き、助け合って新生活を築いていったのである。

## 三、大きな祝福にあずかったルツ

経済的な事情により、ルツはベツレヘムに着いてすぐに仕事を始めた。ルツは畑で、刈り取りをする人たちの後についていて落ちて穂を拾った。すると彼女は、はからずも、しゅうとエリメレクの親族であるボアズの畑に来た(2・3)。ルツはボアズの目にとまり、彼から特別に親切にもてなされた。ボアズは、ルツがしゅうとめに尽くしてきたことを聞いており、彼女に好意を抱いた。ナオミはルツに、ボアズに求婚することを勧めた。ルツは勧めに従い、夜、ボアズのもとへ行った。ボアズはルールに従って、まず、エリメレクに最も近い親戚しんせきに、やもめとなったルツをあがなう(娶とる)意思が無いことを確認した。それから、ボアズはエリメレクとその息子たちの財産をすべて買い取り、ルツをも買い取って妻とした(4章)。ボアズとルツの間に生まれた男子オベデは、ダビデ王の祖父となり、その家系にキリストなるイエスはお生まれになったのである(マタイ1・5)。

## 結論

ルツは異邦人だが、しゅうとめの崇める主を真の神、私の神として信じた。その信仰と行いによってルツはイスラエルの民に加えられ、主から大きな祝福を受けた。私たちが親族や信仰の先輩を敬い、その良き信仰に習って祝福を受け継ぐ。

## 研究資料

(井上)

ルツ記は冒頭に「さばきづかさ（士師を指す）が世を治めているころ」（1・1）とあるように、士師の時代の作である。ヨシユアの死後、カナンに定着し、各部落に分かれて暮らしていたイスラエルの民であるが、すぐにカナンの地の偶像礼拝に染まり、主の怒りを引き起こした。主は警告としてカナン諸族の手にイスラエルを渡されたが、またさばきづかさを起こしてイスラエルを救い、回復させられた。さばきづかさが召されると、イスラエルの民は、再び偶像を慕って罪を犯した。士師記は、何度も主に背き、懲らしめを受けても、改めようしないイスラエルの不従順が描かれている。主への信仰と、人への愛が記されたルツ記は、暗い士師の時代に一筋の光を表すものである。巻末にはボアズ、ルツ夫妻からオベデが生まれ、エッサイ、ダビデとつながっていくことが記されている。やがてダビデの家系から主イエスが誕生する。マタイ1章のイエス様の家系には5節にルツの名前が出てくる。異邦のモアブ人として尊ばれない存在であり、ユダヤ人の父系社会にあつて特別に女性のルツが記されているのは異例である。それは、ルツが主への揺るぎない信仰と、人への愛と信頼に生き、困難を乗り越えていく強さをもったすばらしい女性であつたからこそである。

## テキスト

1 ユダのベツレヘム ベツレヘム（パンの家の意）は、言うまでもなくイエス・キリスト降誕の地である。エルサレムの南7km、ユダ山地の丘陵に

あり、オリーブと小麦を産する美しく肥沃な地である。2節のエフラタはベツレヘムの古名である。キリスト降誕の預言であるミカ5・2にも「ベツレヘム エフラタ」との言及がある。モアブ ソドムを逃れたロトの長女が生んだ子どもモアブがモアブ人の祖先である（創世記19・37）。モアブの地は死海の東、エドムの隣にあり、農業も牧畜も盛んであつた。ユダの飢きんの時にも食糧が確保されていたのであろう。偶像に満ちたカナン諸族と一線を画すはずのイスラエルの民が、飢きんという緊急事態であつても寄留すること自体が間違いであつた。

2 エリメレク ナオミ この夫婦がユダのベツレヘム出身であること以外はよく分からない。姑ナオミが嫁ルツと共に郷里ベツレヘムに帰つたので、ベツレヘムの地はオベデ、エッサイ、ダビデ、後のキリスト降誕へとつながっていく。

5 こうしてナオミはふたりの子と夫とに先だたれた ナオミの夫エリメレクの死のみならず、二人の息子の死は痛ましいできごとであつた。この世の不条理を感じさせる。私たちはなぜかという問いを持ち、理由や原因を探りやすいが、明確な回答は得られないことが多い。信仰者は、良きも、悪しきもすべてが主の愛の御手の内にあり、主の最善がなされることを信じるものである。この悲劇から、主の愛による新たな導きが明らかになつていく。

8 あなたがたは、それぞれ自分の母の家に帰っていきなさい 姑ナオミは、まだ若い息子の嫁たちを寡婦として外国の地に連れ帰るよりは、郷里

で新しい生活を送るべきだと考えた。ナオミの思慮深さと愛を感じさせる言動である。

14 オルパはそのしゅうとめに口づけしたが、ルツはしゅうとめを離れなかった オルパの口づけという行動は慎みをもった別れの挨拶である。対照的に、ルツは自分の民の内に戻ろうとはしなかった。

16 わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です ルツが姑ナオミから離れないという決然とした姿に驚きを感じる。ルツがここまで決心した理由は、ナオミとの交わりから、ナオミの人格を敬い尊んでいたからであろう。何よりも、ナオミの信仰から、イスラエルの主こそ真の神であることを知り得たのである。ルツにとつて見ず知らずの地で、姑を支えて暮らすことは困難なことであつたが、主こそ何ものにも代えられないことを悟っていたのである（ローマ8・35以下参照）。

17 あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます ルツはナオミに、死でさえも二人を分かつことはできないという決意を語っている。信仰者の関係は生きる間はこの地上で、それぞれの死の後は神の下にあつて共に生きるのである。私たちの信仰は、生も死も越えた永遠に至るものであることを思い起こすことができる。

参考図書 Keil-Delitzsch『Commentary on The Old Testament vol.2』（Erdmans）レオン・モリス『ルツ記』ティンデル聖書注解（いのちのことば社）他

聖書 ルツ1・1～18

タイトル ルツ

暗唱聖句 あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。

目 標 しゅうとめのナオミに神の愛をも

つて愛し仕えたルツにならおう。

（木村純）

## 導入

（木村純）

今日は敬老の日です。お祖父ちゃん、お祖母ちゃんと一緒に暮らしているお友だちもいるでしょうし、遠く離れて時々しか会えないお友だちもいることでしょうね。お祖父ちゃん、お祖母ちゃんって優しく、一緒に遊んでくれて、ちよっぴりわがままも聞いてくれて、きつと皆さんは大好きだと思いませんか。今日は、年をとったしゅうとめ（結婚相手のお母さん）のナオミに仕えたルツさんのお話です。

## ナオミの苦しみと信仰

ユダヤの国に飢饉があつたため、エリメレクと妻のナオミは、マロンとキリオンという二人の男の子を連れて、モアブの地へ移り住みました。しかし間もなくして、夫のエリメレクはその地で亡くなってしまいました。二人の息子は、ルツとオルパというモアブの女の人をお嫁さんに迎えました。でも十年後、ナオミの二人の息子もまた亡くなってしまったのです。ご主人と二人の息子を次々と失ってしまったナオミの悲しみ、苦しみはどれほどのものだったことでしょう。知っている人もいないモアブの地で、残された女性三人のこれから先

の生活のことを考えると、その不安はどんなに大きなものだったことでしょう。しかし、ナオミはどんな苦しみや不安の中にあつても、神様は恵み深く、小さな自分たちをも決して見捨てることのないお方だということを信じていました。そんなナオミお母さんの信仰はすばらしいですね。その神様が、イスラエルの民を顧みて、ユダヤの国に食物をお与えになつていらっしゃることを聞いたナオミは、二人の嫁と共に故郷ベツレヘムに帰ることにしました。

## ルツの告白と決心

しかしナオミは、その道の途中で二人のお嫁さんに言いました。「あなたがたは、それぞれ自分の母の家に帰って行きなさい。…どうぞ、主があなたがたに、いつくしみを賜わりますように」。それは、二人の幸せを願うナオミの思いやりに満ちた祈りの言葉でした。ナオミの説得によつて、オルパは泣き泣き自分の家へと帰って行きました。けれどもルツは、ナオミから離れようとせず、「わたしはあなたの行かれるところへ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です」と告白しました。それは、「ナオミの信じるまことの神様を私も信じます」というルツの信仰告白でした。ルツはナオミと暮らす中で、生きておられ、どんな中にも共にいてくださるまことの神様を知つたのです。ルツは、自分の国も家も後にして、ナオミについて行こうと強く決心していたのです。

## 愛をもって仕えたルツ

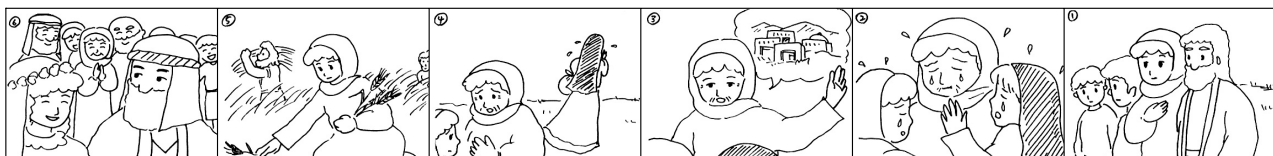
外国の女であるルツにとつて、知らない土地で暮らすことは大変なことでした。夫を失った女性

二人の生活はとても貧しいものでした。それでルツは、裕福な人の畑に行き、落ちていた麦の穂を朝早くから休みなく拾い集めました。「あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます」と、ナオミに告白したルツの言葉の中には、「自分のすべてを捨てて、ナオミに仕え、そのお世話をします」というルツの愛が表されていたのです。その言葉のとおり、ルツは毎日一生懸命に働いて、二人の生活を支えました。またルツは、「あなたのおっしゃることを皆いたしましょう」（3・5）とナオミに告げたように、とても従順な女性でした。ナオミに言われたように行動したことによつて、ルツはナオミの親戚であるボアズという男性との結婚に導かれました。二人に与えられた男の子は、ダビデ王の祖父となり、その子孫からやがてイエス様がお生まれになったのです。神様は、ナオミに愛をもって仕えたルツをこのように祝福してくださつたのです。

## まとめ

自分の周りにいる人々のために生き、お仕えることは、目に見えない神様にお仕えるということ。敬老の日の今日、皆のお祖父ちゃん、お祖母ちゃん、周りにいるお年寄りの方々に、優しい言葉をもって手紙を書いたり、電話をしたり、プレゼントをお渡しして、皆の愛を表すなら、お祖父ちゃん、お祖母ちゃんの心はどんなに慰められ、元気を与えられることでしょう。神様の愛を現すために、小さな私たちをも用いていただきましょう。

♪ ぼくの心の中が ♪ （プレイスワールド4）



聖書 士師6・11～18  
テーマ ギデオン

## 序論

(金井)

ヨシユアは信仰の勇士というにふさわしい人物であった。しかし、彼の死後、イスラエルの民は主なる神から離れ、偶像崇拜に陥った。そこで主は、異民族の侵入を許して、イスラエルを懲らしめられた。すると、彼らは苦境にあえいで、主に救いを求めて叫んだ。主は彼らをあわれみ、救い出すために士師と呼ばれる指導者を遣わされた。今回はその一人、ギデオンの信仰を学ぼう。

## 一、主の召命

当時、イスラエルの人々は、ヨルダン川の東からしばしば侵略してくる「ミデアンびと」に苦しめられていた。彼らは農作物の収穫期にやってきては穀物を奪い、さらに家畜なども奪っていったのである(6・3～4)。

ギデオンは、彼らに見つからないように、石灰岩をくりぬいて作った「酒ぶね」の中に身を隠して、実と殻を分けるために「麦を打っていた」。ギデオンはミデアンびとを恐れていたのである。

その時、彼のもとに、「主の使」が現れ、「大勇士よ、主はあなたと共におられます」と言った。ギデオンは、その言葉を素直に受け入れることができず、「主がわたしたちと共におられるならば、どうしてこれらの事がわたしたちに臨んだのでしょうか。…今、主はわたしたちを捨てて、ミデアンびとの手にわたされました」と、反論した。

すると、「主はふり向いて彼に言われた、「あなたはあなたの力をもって行って、ミデアンびとの手からイスラエルを救い出さない。わたしがあるあなたをつかわすのではありませんか」。

ギデオンは驚いて言った、「ああ主よ、わたしはどうしてイスラエルを救うことができましょうか。わたしの氏族はマナセのうちで最も弱いものです。わたしはまたわたしの父の家族のうちで最も小さいものです」。ギデオンは自信が無くて尻込みした。私たちの態度はどうだろうか。「私はできません」ということが謙遜(けんそん)だろうか。主が「あなたをつかわす」と言われるのに、それを否定するのは、不信仰であって謙遜ではない。時に私たちは謙遜と自己卑下を取り違えてはいないだろうか。

## 二、主の臨在

この意気地の無いギデオンに対して、「主の使」は「大勇士よ」と言った。ただし、ヘブル語本文を見ると、その前に「主はあなたと共におられます」と「主の使」は言っている。すなわち、「主の臨在、主の全能が伴うから、あなたは大勇士になるのだ」という意味が、そこに含まれている。

主は全能者であり、不可能なことは何一つ無い。しかし、ギデオンが「主の道具」として自らを差し出さなければ、み業は進まない。主は人を用いて、世にみ業を為される。これが大原則である。主はギデオンを励まして言われた、「わたしがあるあなたと共にいるから、ひとりを撃つようにミデアンびとを撃つことができるでしょう」。現状を見るならば、とても信じ難い話である。しかし、ここ

でギデオンは、からし種一粒ほどではあるが、信仰をもって一步踏み出した。彼は言った、「わたしはもしあなたの前に恵みを得ていますならば、どうぞ、わたしと語るのがあなたであるというしるしを見せてください」。

この後、ギデオンは何度も「しるし」を求めるが、主はそれに一つ一つ応えておられる。主は、実にあわれみ深く、忍耐強く私たちを取り扱ってくださるのである。

## 三、完全な勝利

主の命令によってギデオンがした最初の働きは、彼の父が持っている異教の祭壇と偶像を壊すことであつた。彼は父や町の人々を恐れて、夜にこれを行った。しかし、人々はギデオンの仕業であることをすぐに察知し、彼を殺そうとした。その時、父は息子をかばい、ギデオンの命は守られた。

その後、ミデアンびとなど東方の民が連合軍を組んでイスラエルに攻め寄せた。すると、主の霊がギデオンに臨み、イスラエルの人々は彼の指揮下に集結した。ギデオンは、主の指示に従って、その人々の中から300人の精鋭を選んだ。そして、ギデオンは彼らと共に夜襲をかけて、連合軍を完全に撃破した。主の計画が成ったのである。

## 結論

信仰者の生涯は戦いの連続である。私たちも時には弱気になり、人を恐れることがある。だが、それでも主はあえてこんな者たちを選んで、用いてくださる。私たちも主にこの身を献げよう。

## 研究資料

(木村)

士師時代は、民の背信↓主のさばき↓民の叫び↓士師による救いというパターンが延々と繰り返される最暗黒時代で、ギデオンが士師に召されたのも、「主の前に悪をおこなったので」七年の間ミデアンびとの手にわたされた時代であった(1節)。

## テキスト

11 主の使 最初、普通の人のように見えたが、しるしの後、主の使であったことを知る(21、22節、創世記18・1、2)。テレピン<sup>レ</sup>の木 新改訳は「**櫟<sup>レ</sup>の木**」**酒ぶね** 岩地を掘削して造った深さ60cmほどの窪地で、そこに収穫したぶどうの実を入れて数人で踏み、圧搾する。ギデオンは**酒ぶね**の中で**麦を打っていた** 麦打ちだけでは、もみ殻と穀粒とが混ざっているので、混ざったものを風の吹くところである。すると、軽いもみ殻は風に吹き飛ばされ(詩篇1・4はその時の情景)、穀粒だけが下に落ちる。それゆえ麦打ちは普通、風の通らない窪地では行わない。収穫物を求めて襲来する**ミデアンびとの目を避ける** のに(3、6節)、窪地がちやうど都合良かったのであろう。

12 大勇士 兵士や財産家、上流階級を指す語として用いられるが(ヨシユア1・14、10・7、ルツ2・1他)、本書ではギデオンとエフタ(11・1)にのみ用いられる。少なくとも「しもべ十人」(27節)を持つが、臆病なギデオンにふさわしくないように思える呼びかけである。しかしそれは、**主はあなたと共におられます** という臨在の約束があるからである。この臨在の約束は、モーセを(出エジプト3・12、14)、ヨシユアを(ヨシユア1・

5、9)、弟子たちを強くした(マタイ28・20、ローマ8・31)。

13 主はかつてイスラエルをエジプトから導き上られたが、**今、主はわたしたちを捨てて、ミデアンびとの手にわたされた。主がわたしたちと共におられるならば、どうしてこれらの事がわたしたちに臨んだ**のかという疑問が、主の召しにすぐ従えなかった第一の理由である。第二の理由は15節。どちらも「ああ、君よ(アドニー)」「ああ主よ(アドナイー)」という嘆きで始まる。

14 主 ここで「主の使」が主と同一視されているのは、ギデオンのほうにふり向き たとき、主の栄光の一部が現されたからかもしれない。主はギデオンの疑問にはお答えにならず、**あなたの力をもって行って：救い出さない。わたしがあなたをつかわすのではありませんか**(強調のための疑問形、ヨシユア1・9)と再度お召しになった。

15 主の召しにすぐ従えなかった第二の理由は、**わたしの氏族はマナセのうちで最も弱いもの：わたしはまたわたしの父の家族のうちで最も小さいもの**ということであった。前節の「あなたの力をもって」という主の言葉に反論すべく、自らの弱さ、小ささを主張する。

16 「人間が生来の性質として持っている勇氣は限界がある。しかし、主と共におられることを信じるところから生じる勇氣は、人間的な勇氣をはるかに超えた働きをする。ギデオンはそのような種類の勇士であり、このような信仰の人を、神は用いられる」(千代崎秀雄)。

17、18 **しるしを見せてください** 主の使いが本当に主から遣わされたものか、召しが本当に主か

ら出たものか、ギデオンはしるしによって確かめようとした。それに対して主は、忍耐と真実をもつてお答えになった(17、24、36、40節)。後にヒゼキヤも信仰によってしるしを求めたが(列王下20・8)、アハズは不信仰からしるしを求めなかった(イザヤ7・11、12)。ギデオンの召命の経緯は、モーセと類似している(出エジプト第3、4章)。

①召命「わたしがあなたをつかわす」(14節)＝「わたしは、あなたをパロにつかわして」(3・10)。

②尻込み「ああ主よ、わたしはどうして」(15節)＝「わたしは、いったい何者でしょう：言葉の人ではありません：ほかの適当な人をおつかわしてください」(3・11、4・10、13)。イザヤ(イザヤ6・5)やエレミヤ(エレミヤ1・6)も同様。③臨在の約束「わたしがあなたと共にいる」(16節)＝「わたしは必ずあなたと共にいる」(3・12)。

④しるし「肉と種入れぬパンとを焼きつくした：露がその羊の毛の上だけにあって、地がすべてかわいている：羊の毛だけかわいて、地にはすべて露があった」(17、21、36、40節)＝「それ(つえ)を地に投げると、へびになった：手をふところに入れ、それを出すと、手は、重い皮膚病にかかって」(4・1、9)。

⑤火による顕現「岩から火が燃えあがつて」(21節)＝「しるしは火に燃えている」(3・2)。

参考図書 鍋谷堯爾「士師記」『新聖書注解 旧約2』(いのちのことば社)、杉本智俊「士師記」『実用聖書注解』(いのちのことば社)、千代崎秀雄「聖書の人物365人」(一粒社)、H. Wolf「Judges」The Expositor's Bible Commentary, Vol.3 (Zondervan)他



聖書 士師6・11～18  
タイトル ギデオン  
暗唱聖句 大勇士よ、主はあなたと共におられます。  
目 標 ギデオンのように主からの力を受けよう。

## 導入

(木村純)

イスラエルをカナンの地に導いた指導者ヨシユアが亡くなった後、イスラエルの人々はまことの神様を忘れて、偶像を拝み、神様のお心を痛める生活を送っていました。このような時、神様は士師（さばぎづかさ）と呼ばれる人々を遣わされました。その一人がギデオンでした。神様に選ばれたギデオンはどのような人だったのでしょうか。

## ミデアン人の侵入

イスラエルの人々が、神様を離れて悪い生活をしているとき、収穫の季節になると、ミデアン人がイスラエルの国を襲い、おいしく実った麦や野菜などを荒らして、何から何まで奪い取っていききました。羊や牛やろばも残しませんでした。いながらのこのように数えきれない人々だったので、イスラエルの人々は山にある洞くつやほら穴に逃げ、隠れていました。このようなことが7年間も続いたため、イスラエルはとても弱くなり、皆が神様に助けを求めて叫びました。実は、このこともイスラエルの人々が心を入れ替えて、まことの神様に立ち帰るために、神様がご計画されたことだったのです。

## ギデオンの召命

ある日のことです。ヨアシユの子ギデオンが、ミデアン人を恐れて酒ぶねの中で小麦を打っているとき、そこに主の使いが現れ、「大勇士よ、主はあなたと共におられます」と言いました。それから神様が「あなたはこのあなたの力をもって行って、ミデアンびとの手からイスラエルを救い出しなさい。わたしがあなたを遣わすのではありませんか」と語られたのです。ギデオンは神様の声にすぐ従うことができませんでした。それは、「神様が共におられるのなら、どうしてイスラエルはミデアン人に負けてばかりいるのでしょうか。神様が私たちを見捨てられたからではないのでしょうか」という理由と、「私の氏族はマナセのうちで最も弱く、私は父の家族のうちで最も若いのです」という理由からでした。ギデオンは、神様が共におられることを信じるのができず、また弱く臆病な自分には、ミデアン人の手からイスラエルを救い出すことなどとてもできないと思っただけです。

## わたしが共にいる

しりごみするギデオンに対して、神様は「わたしがあなたと共にいるから、ひとりを撃つようにミデアンびとを撃つことができるでしょう」と約束されました。それでもギデオンはまだ信じるのができず、「自分と語っておられるのが確かに神様ご自身であるというしるしを見せてください」とお願いしました。神様はその願いを聞かれ、ギデオンが持つて来た供え物を火で焼き尽くすことによって、そのしるしを見せてくださいました。神様が共におられることを信じるにより、ギ

デオンは勇気をいただくことができました。その後ギデオンは、イスラエルに攻めて来たミデアン人の大軍に、わずかな人数で不思議な神様の方法によって打ち勝つことができました。イスラエルに大勝利をもたらしたのです。弱く臆病だったギデオンが、神様が共におられることによって、強く勇ましい大勇士へと造り変えられていったのです。神様の御力はすばらしいですね。

## まとめ

皆さんは今まで、誰かに意地悪されて恐れったり、臆病になったりしたことはありませんか。そんな時は、幼稚園や学校に行くのが嫌になったり、外に出て元気に遊ぶこともできなくなってしまうかもしれません。でも神様はギデオンに語ってくださいました。「大勇士よ、主はあなたと共におられます」。目には見えなくても、神様はいつも弱く臆病な私たちと共にいてくださいます。自分のため、お友だちのために祈っていくときに、神様は必要な助けと解決を与えてくださいます。あるいはまた皆さんにとつて、頼まれてもそんなこと自分には絶対無理、できないと思うことは何でしょうか。神様が選ばれ、用いられる人は、自分の弱さや無力さを知り、神様の力に頼って従う人なのです。神様が共にいてくださるときに、自分にはできないと思うようなことも神様の力によってなすことができます（ピリピ4・13）。それは、私たちが自分の力でやったり自分を誇るのではなく、神様をほめ讃える者となるためです。共にいてくださる神様を信じて、神様のお力に頼って、日々歩んで行きましょう。

♪ハ・ハ・ハレルヤ♪（プレイスワールド1）





# 聖書 列王上17・15-7 テーマ エリヤ

## 序論

(金井)

秋は収穫の季節であり、各地で祭りが行われる。神社と関わる祭りも多く、私たちはキリスト者として悩むこともあるだろう。今日は、偶像崇拜と闘った預言者エリヤについて学ぼう。

## 一、偶像崇拜と闘ったエリヤ

士師時代の後、ダビデ王とソロモン王の時代にイスラエルは興盛を極めた。しかし、ソロモンの死後、王国は南北に分裂し、どちらも偶像崇拜に染まって墮落してしまった。その中でも特にひどかったのが、北王国イスラエル7代目の王(「アハブ」)の時代である(紀元前871〜852年在位)。

アハブは、地中海岸の都市シドンの王(「エテバル」)の娘を妻にめとった(16・31)。「エテバル」とは「バアルはいます」という意味である。彼は異教の祭司であった。アハブは、(その妻イゼベルが彼をそのかしたので)(21・25)、「行つてバアルに仕え、これを拝んだ。彼はサマリヤに建てたバアルの宮に、バアルのために祭壇を築いた。アハブはまたアシラ像を造った(16・31〜33)。バアルは農地や家畜の生産を支配する豊穡の神とされ、アシラは肥沃と愛の女神とされた。この宗教には淫行や小児犠牲などが伴い、(主)はこれを忌み嫌われた。(アハブは彼よりも先にいたイスラエルのすべての王にまさってイスラエルの神、主を怒らせることを行った)(16・33)。

この霊的暗黒の時代に、主(「ヤーウエ」)こそ唯一まことの神であることをイスラエルの王と民に証したのが、(「エリヤ」)である。その名の意味は「わが神はヤーウエ」である。エリヤはヨルダン川東方の寒村(「ギレアデのテシベ」)に住んでいたが、サマリヤまで赴いて、アハブ王と対決した。

## 二、主に忠実に仕えたエリヤ

エリヤは王に言った、「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう」。カナンにはナイルやチグリス、ユーフラテスのような大河が無い。雨期(10月末〜4月頃)に雨が降らなければ、水不足となり、農作物は育たず、人々は飢饉に窮することとなる。そのため、カナンの人々は古くからバアルを、天候を支配し、雨をもたらす神として信奉していた。(「バアル」という名は「主人」「所有者」という意味である)。

このバアル信仰の導入に熱心なアハブ王に対して、エリヤはまず自らの信仰を明確に告白した。「わたしの仕えている」という訳文の原意は「わたしがその前に立っている」である。エリヤは常に、主人であるヤーウエのみに立って、指示に従って働く忠実なしもべである。イスラエルの神、イスラエルの主人は、ヤーウエだけである。バアルではない。これがエリヤの主張である。

イスラエルの人々は、贖い主であるヤーウエを裏切った罪に対する裁きを受けなければならない。干ばつは、その罪に対する処罰であり、ヤーウエこそ天地万物を支配する唯一まことの神、まこと

の主権者であることを人々が知るために必要な学課であった。まことに主は生きておられる。

## 三、生ける主を証したエリヤ

その干ばつの間、主は、み言葉をもってエリヤを導き、彼を養われた。まずエリヤは、(ヨルダンの東にあるケリテ川のほとりに)身を隠した。彼は、(その川の水を飲み)、(「からす」が朝ごとに夕ごとに運んでくるパンと肉を食べた(17・6))。

次にエリヤは、(シドンに属するザレパテ)へ行き、やもめ女の家に寄留した。彼女と子どもは貧困のため、まもなく死のうとしていたところだったが、エリヤが来てから後、その家の(「かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった(17・16)。(三年目に主の言葉がエリヤに臨んだ(18・1)」。彼はアハブ王に会い、(「バアルの預言者四百五十人、ならばにアシラの預言者四百人、イゼベルの食卓で食事する者たちをカルメル山に集めて」、対決した(18・19)。バアルの預言者たちはバアルを呼び、叫んだが、何の答も無かった。エリヤが祈ると、(主の火が下つて燔祭と、たきぎと、石と、ちりとを焼きつくし、またみぞの水をなめつくした。民は皆見て、ひれ伏して言った、「主が神である。主が神である」(18・38〜39)。その後間もなく大雨が降ったのである(18・45)。

## 結論

エリヤは私たちと同じ人間であったが、彼の祈りには、大きな力があつた(ヤコブ5・17〜18)。私たちも主に仕え、主に祈り、主を証しよう。

## 研究資料

(木村)

16・29〜22・40は北王国のアハブ治世についての記述で、北王国の王の中で最大の分量を割いているが、その中で特に強調されているのが預言者エリヤとの対立である。

## テキスト

1 テシベ 旧約聖書中、ここだけに出てくる地名で、正確な位置は不明であるが、ヨルダン川東岸の支流ケリテ川のほとりにあったと考えられている。エリヤ(主は私の神、の意) 北王国出身で、アハズとアハジヤ治世中の北王国で活動した預言者、祈りの勇者であった(18・36、ヤコブ5・17〜18)。そのライフメッセージは名前のとおり、**わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます**であった。主は生きておられます とは、誓いのときに用いる慣用句。アハブ 北王国7代目の王で、6代目オムリの子。その治世は22年間であるが、「彼よりも先にいたすべての者にまさって、主の目の前に悪を行った…バアルに仕え、これを拝んだ…アシラ像を造った」(16・29〜33)。「バアル」は力ナンの偶像神で、農作物の豊穡(はとよう)をもたらす神と考えられていた。その妻が女神「アシタロテ」であり(土師2・11、13、10・6、列王上11・5、33)、女神「アシラ」である(列王上14・15、23、15・13)。北王国はこれまでも金の子牛を造って拝むことがあったが(12・25〜33)、それは真の主を目に見えるかたちにしたものであった。ところがアハブは、異教の偶像バアルをイスラエルの神として拝み、それにより決定的な背信を北王国にもたらしたとい

う点において、これまでの偶像礼拝とはまるで次元の異なるものであった。それゆえアハブは、宗教的には北王国史上最悪の王と言えよう。そのような最暗黒の時代に、主から遣わされたのが預言者エリヤである。**数年雨も露もないでしょう** イスラエルの気候は、5〜10月頃の乾期と、11〜4月頃の雨期に分けられる。10月末〜11月頃に降る「秋の雨」|| 新改訳「先の雨」は、大麦と小麦の種まきに欠かせない雨である。3月末〜4月頃に降る「春の雨」|| 新改訳「後の雨」は、大麦、小麦等の豊かな実りや牧草の成長に欠かせない雨である(申命記11・14、エレミヤ5・24)。1月前後には冬の大雨がある。露は、乾期の夏に特に多く、農作物の生育に欠かせないものである(イザヤ18・4)。雨も露も一切は主のご支配によることを認めるイスラエルに、エリヤは数年に及ぶ旱魃(かんばつ)が臨むことを宣告した。旱魃はイスラエルの罪のゆえであり(8・35、レビ26・18〜19、申命記11・16〜17、28・23〜24)、豊穡の神バアルに対するさばき、挑戦でもある。バアルにとつては面目丸つぶれの現象である。天地を統べ治められる主の御力に対して、偶像の神バアルのいかに無力なことか(詩篇115・4〜8)。**わたしの仕えている…**「アハブの罪に対するさばきとして、数年の旱魃を宣言したエリヤは、実に恐れを知らぬ人物と見える。しかし彼の神経が鋼鉄製だったわけではないことは、19章の記事が証明する。彼の秘訣は、王に告げたことばに示される。『仕えている』とは直訳すれば、『そのかたの前に立つ』である。主の前に立つ者は、王の前に立つても人を恐れない」「主のみ前に立つとは『しもべ』の姿に

ほかならない。しもべとは、主人の前に立つて命じられることを聞き、それに従うものである。エリヤは徹底したしもべであった」(千代崎秀雄)。**2〜4 身を隠しなさい** アハブの怒りを避けるためであり(18・10)、近づきつつあるバアルの神との戦いを前に霊的備えをするためでもあった。からす 余分な餌を蓄えておく習性がある。

5〜6 主の言葉のとおりにした 「からすに命じて…養わせよう」とは、常識的には実に心細い約束であるが、それでもエリヤはこの言葉を信じ、行って、**主の言葉のとおりにした。すると** そのとおりになった。荒野のイスラエルを40年間マナをもつて養い続けられた主は(出エジプト16・31〜35)、信じて従うエリヤを、からすを用いて養い続けられたのである。これは5千人の給食に匹敵する奇跡と言えよう(ヨハネ6・10〜14、30〜31)。主の言葉への従順こそ、エリヤの預言者としての働きの秘訣、原動力であった。エリヤは主の御前に立つて仕える僕に徹して、主の言葉に絶対の信頼を置き、主の言葉が臨むと、全くそれに従ったのである。それはまさに「十字架の死に至るまで従順であられた」イエスの姿であった(ピリピ2・6〜8)。**7 しばらくしてその川はかれた** どのくらいの期間滞在していたかは不明であるが、この表現はかなり長い期間であったことを示唆している。

## 参考図書

服部嘉明「列王記」『新聖書注解 旧約2』(いのちのことば社)、千代崎秀雄『主の前に立つ』『聖書の人物365人』(一粒社)、D. J. Wiseman『1&2Kings』Tyndale Old Testament Commentary, Vol. 9 (IVP) 他

## 28日 礼拝メッセージ例

聖書	列王上17・1～7
タイトル	エリヤ
暗唱聖句	わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。
目 標	列王上17・1 今も生きておられるイスラエルの神を大胆に信じよう。

## 導入

(木村純)

皆さんが「神様って本当に生きておられる」と思うのはどのようなときですか。お祈りが聞かれたとき？危険なことから守られたとき？聖書を読んでいるとき？あるいは美しい自然を見て感動したときでしょうか？今日は、イスラエルの預言者であったエリヤを通してそのことを学びましょう。

## イスラエルの王アハブ

イスラエルの北王国のアハブ王は、それまでのどの王様よりも、神様の前に悪いことをした王でした。サマリヤの町にバアルという偶像の神を拝むための神殿を建て、自分が拝むだけではなく、そこに祭壇を築いて皆が礼拝できるようにしたのです。また、アシラという女神の像をも造りました。それらは、アハブ王がシドンの国から迎えたイゼベルという妻がイスラエルの国に持ち込んできた神々でした。王様も民も皆が、まことの神様を礼拝すると同時に、偶像の神であるバアルをも礼拝するという、どっちつかずの状態でした。

## 主は生きておられる

イスラエル全体がそのような状態にあったとき、そこへ突然現れたのがエリヤでした。その名前は、

主は私の神様、私の力という意味です。エリヤがアハブの前に立ったとき、その第一声は「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます」という言葉でした。そして「わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう」と宣言したのです。いのちのないバアルの神と違い、エリヤが仕えている神様が生きておられる証拠として、その言葉のとおり、その後3年間、一滴の雨も降りませんでした。これは、アハブ王とイスラエルの民が目覚まし、心を入れ替えて、生きておられるイスラエルの神様、主に立ち帰るために、神様が備えられた期間だったのです。そしてこれは、豊かな実りを与えると思われていた、偽りの神バアルに対するさばきでもありました。

## 身を隠したエリヤ

その後、神様はエリヤに「ここを去って、ケリテ川のほとりに身を隠しなさい。そしてその川の水を飲みなさい。わたしはからすに命じて、そこであなたを養わせよう」と言われました。エリヤが神様の言葉のとおりになると、朝と夕にからすが飛んできて、パンと肉をエリヤのところへ運んできたのです。それは、たった一人で身を隠していたエリヤにとつて、私の仕えている主は生きておられることを実際に毎日体験する時でした。またエリヤは、この後たつた一人で450人のバアルの預言者、400人のアシラの預言者と対決しなければなりません。そのためには神様と一對一のお祈りをして備える時でもあったのです。

## 例話

マレーシアに遣わされていた二人の宣教師が、ち

よつと離れた村の銀行まで、送金されてきたお金を受け取りに行きました。自分たちの村に戻る途中で、日が暮れ、二人は野宿を強いられます。心を合わせて神に祈り、岩陰を見つけて、身を横たえて眠りにつきました。数週間して、一人の男が宣教師の病院に治療にやって来ました。彼は宣教師のお医者さんの顔を見ながらしきりに言うのです。「先生、どこかでお会いしたことがありますよね」「いや、私には全く覚えがありませんが」「そんなことはないですよ。絶対会いましたよ」「あつ、思い出した。あなたは丘の岩陰で夜中に寝ていたでしょう。月が明るい夜でした。わしら数人で、銀行から出て来た先生をじーつと後ろからつけていたんです。知らなかつたでしょう。夜になるのを待っていたんです」。彼は照れ笑いをしながら、申し訳なさそうに告白しました。「いやー、あそこまで来ておいて、盗めなかつた。何しろ、先生たち二人は、兵隊にガードされていたからな。あそこまで来て、結局諦めましたよ」。びっくりして宣教師のお医者さんは聞き返しました。「兵隊？いや、私たちは二人きりだったよ」「何を言いますか。兵隊の数は十六人でしたよ。わしらみんなで確認しましたから。あきらめて帰りました」。(藤本満著『祈る人びと』p301～302)

## まとめ

神様は、今も自然界を支配し、ご自分を信じる者に必要なものを与え、あらゆる敵の力から私たちを守ってください。生きておられるお方です。私たちも、生きておられる神様を見上げ、心から信じていきましょう。

♪マジエスティ♪

(新聖歌170)



# 牧羊ひろば

## 南陽教会・教会学校

### 幼稚科

従来は幼稚科と小学科は分けていませんでしたが、二〇〇二年より幼稚科を発足し、今年で丸6年になり、この間十数名が在籍しました。幼児ですから当然、親御さんと一緒に礼拝します。最初は早いテンポの賛美に合わせ親子そろってダンスをします。次にフラッシュカードを使って短くメッセージです。お母さんたちも手分けして奏楽やみ言葉カードを作り、おやつを用意するようにしました。終わると一般礼拝までの時間がありますので、お母さん同士の楽しいおしゃべりタイムになります。幼稚科の後には、一般礼拝に親子そろって出席します。小さいうちは母子室にすることが少なくないですが、お母さんたちは早く礼拝堂で一緒に礼拝するように、お互いに励まし合っています。それは子どもたちも理屈ぬきで主の臨在を肌で知って欲しいと願うからです。時に騒ぎ、歩き回りますが、教会員の皆さんもよく理解してくださるようになります。



幼稚科終了式

幼稚科クリスマス

た。またお母さん方には、親子でできるデボーションの絵本や、ファミリー・フォラム・ジャパン推薦の子育ての本などをお勧めし、親どうしで助け合いながら、子どもたちの信仰継承に取り組んでいきます。  
(石田陽子)

**ジュニア科**（いわゆる小学科）  
クラス名が小学科からジュニア科と変わったのは、最近の少子化でメンバーが減り、クラス分けが難しくなったからです。去年は4名、今年は3名の信徒の子女が加わり、さらに嬉しいことに、去年から未信者の家庭から3名の子どもたちが出席し、レギュラーメンバーは10名あまりになりました。礼拝は9時から10時です。楽しい教会学校であるようにと、最近はずゲームで子どもたちと触れ合います。時には子どもも仲間入りします。続いて賛美はテンポの速い曲をCDに合わせて歌います。これは昨年参加したメビックスミナーで購入したものです。生徒たちのリズムに合っているためか、大きな声が出るようになりました。聖句暗唱は何枚かの短冊にしてボードに貼<sup>は</sup>り、ゲームをして剥<sup>は</sup>がしながら覚えてゆきます。一人一人各先生の所に行



ジュニア科クリスマス

ジュニア科

って、一字一句間違ひなく暗唱できるまで続けます。これは去年の夏期学校に講師として迎え入れたCEFの安田豊先生から、キャンプ研修を受けたときから始めました。各自の「みことばノート」は個性豊かでカラフルな世界でたった一つのミニ聖書が出来そうです。この聖句暗唱と、牧羊者の「子ども聖書日課」を家ですることによって、先週のみ言葉を覚えていた生徒が増えてきたことも感謝です。

ワークのあとは、教師と一対一でお祈りをします。第一主日は小学生以上の合同礼拝で、牧師先生のメッセージです。他の主日は4人の教師が交代で、個性が出てよい研修の時ともなります。主年間行事は、母の日のフラワーアレンジメントに始まり、色々あります。その中で、昨年一番の喜びは、子どもたちの一人が受洗したことです。仲間からのたくさんのお花束を胸に、とても嬉<sup>うれ</sup>しそうでした。きっと他の子どもたちの大切な目標になったことでしょう。(間ノリ子)

**ヤング科**（いわゆる中高科）  
日曜日の朝9時からヤング科の礼拝が始まりますが、その前に教

師と牧師先生とで祈りの時を持ちます。担当教師は3名で、生徒の平均出席は3名前後です。新しい賛美を取り入れ、視覚教材を使ったりして礼拝しています。特に暗唱聖句の大切さを知り、み言葉を覚えやすくするために、み言葉を短冊にカットして覚えるようにしています。分級の後には、なるべくコーヒータイムを持ち、生徒とのコミュニケーションをとるように努めています。生徒一人一人に、デボーションの必要性を語り、何でも主にあるのまま祈ることを勧めています。また学校でのクラブ活動で礼拝が阻まれても礼拝を守ろうとする信仰姿勢には頭が下がります。今後は受洗者が与えられ、その中から世界に羽ばたく献身者をと祈っています。

**ホザナ会**（政所伝道所での分校）  
毎週水曜日、午後4時から5時の1時間、教会とは別の校区の幼稚園児と小学生を対象に、分校を開いています。政所伝道所開設と共に、7年が過ぎます。多くの生徒たちがみ言葉を聞く機会を得、この集いも地域に定着してきました。教師として6人が交代で奉仕していますが、喜びと共に伝道の難しさも感じています。本校は信徒の子女が多いのですが、ホザナ会は、未信者の家庭ばかり



ホザナ会

ヤング科

ヤング科

で、出席を親から止められる生徒もいます。多いときは十数人、時には二、三人ということもありますが、み言葉の種まきという視点に立って、諦めないで伝えていきます。これから夏期学校や本校のクリスマス会に参加する生徒もいます。またここ半年は、生徒の弟子化を目標にして取り組んでいます。1時間の間に、賛美、ゲーム、メッセージと盛りだくさんです。冬は5時には生徒たちを家に帰すため大忙しです。教師も家に帰り着く頃には日も暮れます。願いは、本校につながることです。中学生となり、教会前の中学校に生徒たちが入学します。この機会にぜひ本校の中高科に思うのですが、部活などに阻まれます。最初に来た生徒たちは、中学2年生となり、私たちも一生懸命祈っています。しかし、そのうちの生徒のお母さんが救いに導かれ、信仰に励んでおられることは、本当に感謝なことです。やがて、大きな実が結ばれることを信じて、これからも祈りつつ奉仕してゆきたいと思っています。

**ホザナ・チャレンジクラブ**  
地元校区の子どもたちと楽しい体験の中でもっと知り合えたら：メッセージにふれて欲しい：CS教師以外の教会員の個性や賜物を持ち寄ってCS伝道の輪が広がれば：二〇〇三年、そんな祈りが形となって、この会はスタートしました。年四、五回の



チャレンジクラブ竹馬づくり

チャレンジクラブ将棋教室

チャレンジクラブ英会話

ペースで土曜休みを利用、定員20名、小学1～6年対象、西校区限定で、参加費三百円（保険料込み）。無料よりも親御さんに安心感を与えるようです。原則としてファックスで申し込みしてもらっています。CS行事ではなく、教会全体で取り組む行事と位置付けているので、意欲と重荷を持つ信徒の方々が中心となって企画し、CS教師は側面からサポートする形です。スタッフは十数名で、意外に壮年の方々が本気になります。内容は様々で、ネイチャーゲーム、磯遊び、芋ほり、パン作り、科学遊び、手芸、オカリナ、将棋教室、竹馬作り、昔遊びもありました。子どもたちの笑顔に励まされ、次々にスタッフも加わり、毎回アイデアが具体化する中で、ひたすら主の憐れみを感じます。主日の教会学校にはなかなかつながりませんが、夏のキャンプや、クリスマス集会につながる生徒たちが起こされています。今後の課題は、メンバー化してきた子どもたちが教会学校へとつながり、救われる魂が起こ



されるよう、教会行事の合間を

いくぐり、心一つにして活動して

ゆきたいと思っています。(黒田法子)

夏期学校・CSバイブルキャンプ(小学科)

CS・バイブルキャンプは毎年、

7月に1泊2日で国立山口徳地青

少年自然の家で開き、昨年で36回

を数えます。対象は、小学2年生

から6年生の子どもたちで、25名

を定員としています。費用は1泊

4食、保険料、交通費込みで三、

五〇〇円です。キャンプ場へはマ

イクロバスを借りて往復します。

スタッフは、CS教師と信徒の協

力者(部分参加の人が半分ほど)、

合わせて20名弱です。昨年のキヤ

ンプのテーマは「きみへの約束」、講師は日本児童

福音協会(日本CEF)の安田 豊先生に、3回の

メッセージをわかりやすく語っていただきました。

事前に2回、安田先生に講習をしていただき、ス

タッフもロールプレーをして備えました。み言葉

暗唱を子どもたちが競って正しく確実に覚え、全

員がCEFのテキスト「天国への道」の個人伝道

を通してイエス様を受け入れ、記念の日付と名前

を各自で記入しました。既に受け入れている子ど

もたちはテキスト「きみへの約束」で、救いの確

信を得てもらいます。

キャンプ後も祈りのうちに、振起日に一人の子

どもが受洗し大きな喜びでした。本当に神様はキ

ャンプに参加した25名の子どもたちを愛し、共に

奉仕するCS教師や信徒スタッフなど、惜しみなく

祈り労する者と共に働いて、豊かに祝福し実を



夏期学校

そーめん流し

結ばせてくださっています。

(安本敦子)

以上、南陽教会の教会学校の現状をそれぞれの先生方に書いていただきました。決して華々しい働きではありませんが、信徒の子女の救いと受洗、弟子化を最優先課題とし、信仰の足腰のしつかりした青年が目標です。しかし、それはCS教師の孤軍奮闘では達成できません。CS教師、生徒の親御さん(おもに信徒)、それ以外の信徒が「三位一体」のチームとなつて、バランスの取れたトライアングルをつくるのがどうしても必要であると信じます。そのために、生徒の親御さん(信徒)には「子ども聖書日課」を用いて、お子さんとデボーションをしていただくことをお願いしています。「教会学校に預けていれば大丈夫」という考えをやめて、自分の子どもの聖書教育は人任せにせず、親の責任として行うことを基本とし、教会学校はそれを補うものと認識していただいています。このコンセプトは申命記6・7に基づいています。「努めてこれ(み言葉)をあなたの子らに教え、あなたの家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない」。そしてCS後の一般礼拝には、生まれたときから親と一緒に出席することをお勧めしています。親子そろって礼拝することは、今や教会の文化として定着して来しました。他の信徒方の理解と協力があればこそです。CS生徒の親御さん以外の信徒方には、生徒への祈りと共に、できる範囲でチャレンジクラブや夏期学校などの特別行事に協力をお願いします。今や壮年会や婦人会の行事の感を呈しています。生徒の弟子化と献身というビジョンに向かって、皆で善戦苦闘してゆきたいと願っています。(石田高保)

## 「おわりに」

『牧羊者』二〇〇八年度第Ⅱ巻をお届けできますことを感謝します。執筆の方々には転任や聖会などであわただしい中を執筆していただき、心から感謝いたします。年々教会学校が開催されていない教会が増えている現状を見ると、「主よ立ち上がってください」と本当に祈られます。しかし、このままでは明日の教会の閉塞感に拍車がかかることが見えてきます。そんな中で子どもの時間が比較的ある水曜日や土曜日に、教会を開放して子どもとの色々な交わりを通して、活路を見出そうと折り労しておられる教会の様子を知り励まされております。また、「牧羊ひろば」の南陽教会では「子ども聖書日課」を用いて、親子でデボーションを行い、み言葉暗唱をする生徒が増える様子を拝見し、とても励まされました。今後も「牧羊者」そして、「子ども聖書日課」が大いに用いられ、各教会の教会学校が祝福されますように、引き続きお祈りください。

終わりに今号の執筆者を紹介いたします(敬称略)。

聖書講解 鎌野善三、加藤郁生、金井 望  
研究資料 足立宏、井上義実、木村勝志、中島啓一  
メッセージ例 松浦みち子、飯田勝彦、木村純子  
ワーク 鎌野 幸、吉田美穂、長谷川ひさ、小泉 創、田代美雪、上森恭子、

長尾秀紀、杉山俊一

中高 科 朝川清英 子ども聖書日課 小野淳子  
フラッシュカード 土屋直子、藤井洋美

打ち込み 小岩喜代美、藤井正子、楠 淳子

また、校正の鎌野善三師、小岩裕一師、加藤清師、光

田隆代師、カドの陰山恭子姉、陰で労された兄弟姉妹

発送とワーク印刷のベラカ出版の方々、印刷のアクトと

菱三印刷に心から感謝します。(長谷川和雄)

## 聖書教育教案誌 牧羊者

二〇〇八年度Ⅱ巻

二〇〇八年七月一日発行

発行所 有限会社 ベラカ出版

企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局

神戸市兵庫区塚本通三三三一九

電話(〇七八)五七五五一一九

FAX(〇七八)五七五五一一六

印刷所 菱三印刷株式会社

電話(〇七八)五七六三三九六一

\*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み